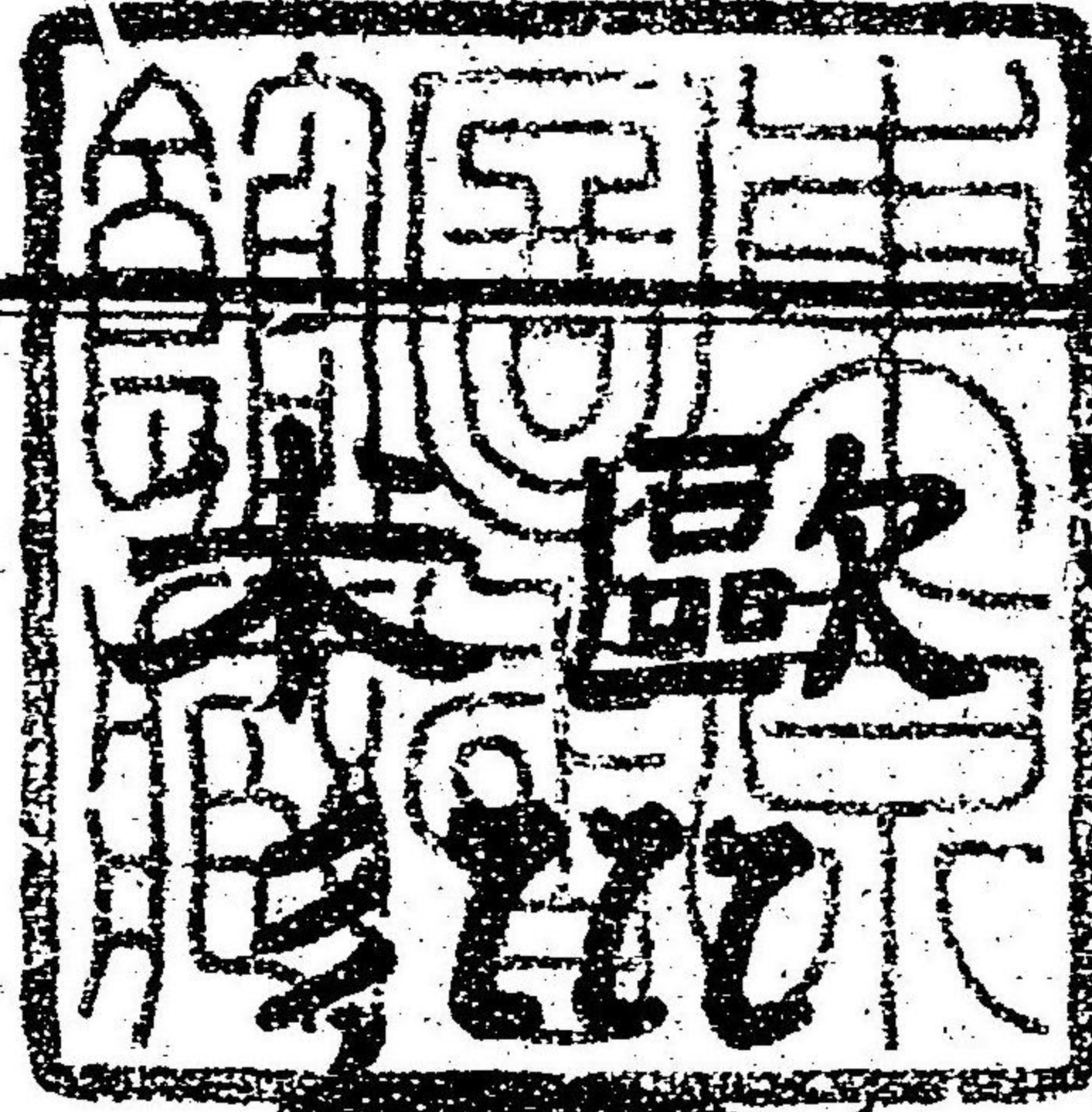


No 9003



明治二十一年二月刊行

回取調書

法朗西國之  
部上

二



農商務省藏版

緒言

這般ノ巡回中佛蘭西國ニ就キ取調ノ目的ハ該國ノ農務省商務省(工務モ商務省)  
含ノ事務ニ)ト縣廳ノ關係縣令ノ權限縣令ト區長ノ關係區長ト邑長ト邑長ノ關係  
 區長邑長ノ權限及選舉法行政警察ノ區域邑ニ於テ收稅事務ノ屬スル  
 處區長及邑長ノ所轄スヘキ人口ノ程度純益ニ對スル租稅ノ比例賣買  
 地價耕作上ノ純益地方稅協議費ノ制限等ヲ識別シ猶且農商工獎勵保  
 護等ノ方途及運用ノ實況ヲ識ラントスルニアリ  
 故ニ中央行政即チ行政區官吏ノ區別行政官政府憲法立法官ノ一取調  
 書第一號 一 丁  
 地方行政即チ縣政區政邑政ノ一取調書第二號 九十七丁  
 邑會組織及邑職制ノ一取調書第三號 百四十七丁  
 稅即チ直稅間稅地方稅及歲入豫算ノ一取調書第四號 二百三十三丁  
 耕地其他ノ面積及地租地價額ノ一取調書第五號 二百七十九丁  
 以上ノ取調ニ依リ零行政上ノ組織ト關係ヲ識別シ得ヘシ而我事

務ノ直接參考ニ緊要ナルハ農務省及商務省ノ事務ニアリ就中其沿革ヲ識ラサレハ治績ノ興廢政務ノ得失ヲ識ルニ由ナケレハ首トシテ農務ノ沿革ヲ取調ヘ隨テ全省經費全組織及事務章程ノ事ニ及ヒ尙農會及農業委員會ハ彼國ニテ最モ農務ノ機關タレハ其事ニ涉リ其他本省構外事務ハ省務運動ノ限界ヲ識別スルノ必要アレハ交モ之ヲ取調書第六號トシ

二百八十七丁

其農會規則例規ヲ取調書第七號トス

五百三十九丁

農業監督官及全教育監督官ハ農業ノ獎勵進步ヲ圖ル最要ノ方便トシテ當世紀ノ緊要務トナレリ故ニ農業監督官更正組織及全教育監督官設置ノヲ取調書第八號ニ具ス

五百五十五丁

商務省(工務モ本省)ノ事務ヲ識ルヘキ必要ハ猶農務省ニ於ルカ如クナレハ商務沿革(事願ル繁雜ニシテ容易ニ得ヘカラ)全省經費全組織及事務章程商工業會及商工委員會本省構外事務ノヲ取調書第九號ニ

五百六十一丁

商品借庫ノヲ取調書第十號ニ具シ

六百十七丁

巡回中ニ特報セシモノヲ取調書第十一號トナス其目如左

特報第 壹 號 商務省事務取扱ノ簡便 六百廿三丁

全 第 二 號 農學校ノ主管 六百廿九丁

全 第 三 號 商務省商品賦稅ニ關スル權限 六百三十一丁

全 第 四 號 兩美術ノ保護 六百三十三丁

全 第 五 號 共進會ノ現況 六百三十九丁

全 第 六 號 里昂ノ生糸検査所 六百四十五丁

全 第 廿六 號 商品借庫ノ件 六百四十九丁

全 第 廿七 號 「ブールス」ノ件 六百五十一丁

全 第 廿九 號 商品取引所 六百五十五丁

要之ニ佛國農商務運用上ノ機關ハ法律監督(農業監督全教育監督)教育(農商種ノ學校及巡回教師ヲ云)獎勵(農會共進會名譽共進會)資本融通(クレジット)等ニアルカ如シ故ニ之レニ關スル緊要ノ諸規則類ヲ左目ノ通り添附シテ取調ノ局ヲ

結  
フ

(左目ハ下卷ノ首メニ掲グ)

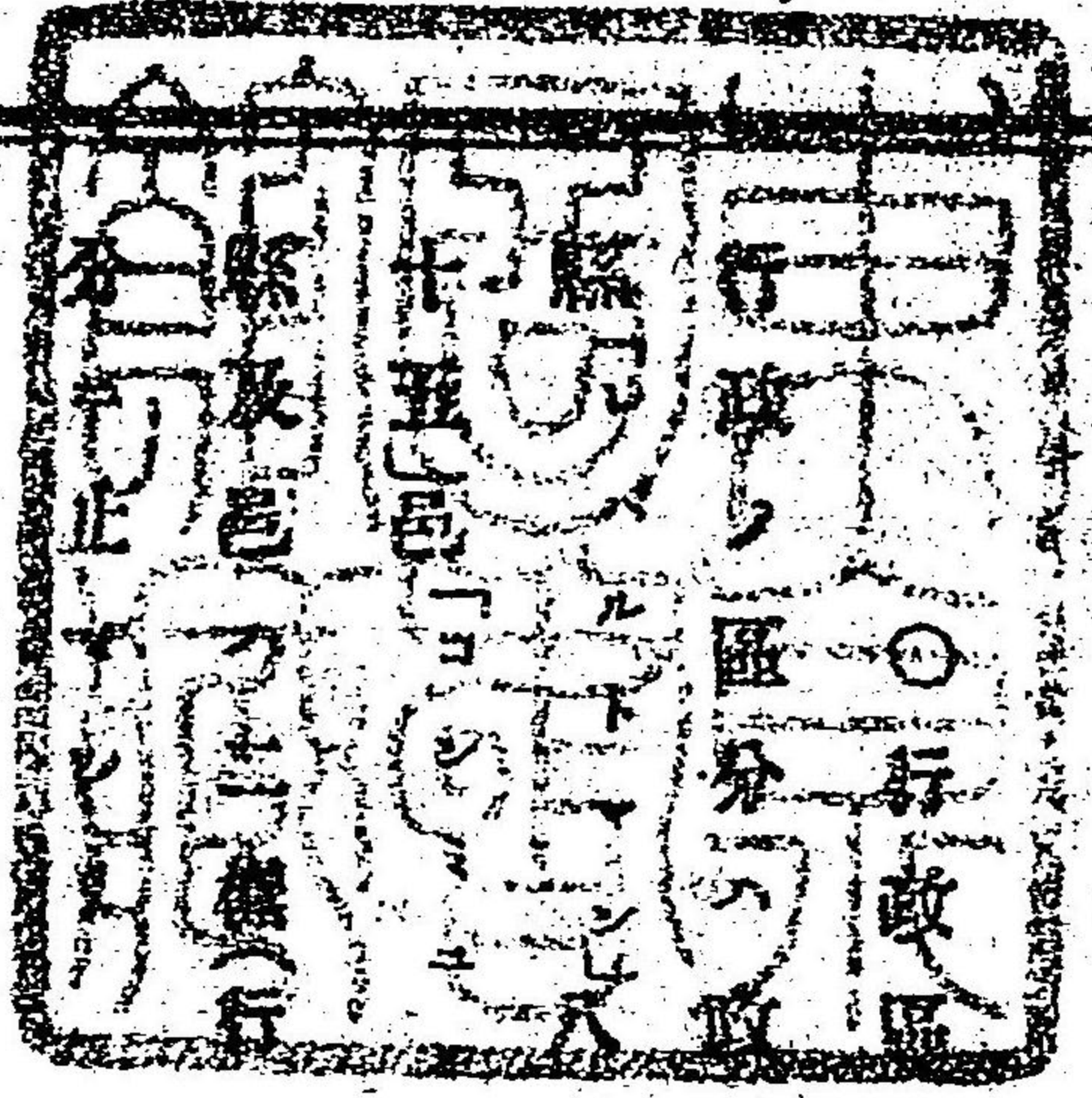
凡例

- 一本篇ハ法朗西國ニ就キ中央政、縣政、區政、邑政ノ各關係及農商務施政ノ要ヲ載セリ要之ニ本省ノ參考ニ供スルニアルヲ以テ必シモ農商工ヲ區別シ又ハ全篇ヲ通シテ敘事ヲ定メタルニアラス
- 一本篇ニ載スル處ノ法律規則中ニ某法律第何條等ノ引用アルモ悉ク之ヲ添附セサルハ直接ニ必要ナラサルアリ或ハ已ニ我國反譯書トナリ或ハ浩辭ニシテ繁ニ涉ルニ因ルナリ
- 一本篇ニ水産、山林、特許、地質等ノ事項ヲ載セサルハ各當局者ヲ派遣シテ取調ヲ了シタルハナリ
- 一本篇中地名ハ雙柱(國名中ニモ世ニ普ク識ラレサルト想フモノニハ雙柱ヲ加フ)人名ハ單柱、物名、數量、貨幣名ニハ「」ヲ加フ然レモ已ニ譯名ノ世ニ普ク識ラレタルト想フモノニハ之ヲ加ヘサルハ其繁ヲ省クニアリ又適、右傍ニ假名ヲ附シタルハ原語ニシテ左傍ナルハ邦語ナリ

凡例

一本篇特ニ目次ヲ附セズ緒言ノ書目ニ就キ丁數ヲ示シテ索引ニ便ス  
 ルハ簡ニ從フニ過キス  
 一尺度量衡及貨幣ノ名稱ハ其國ノ制ニ隨ヒ割註ヲ以テ本邦トノ比例  
 ヲ示ス但最初ニ之ヲ示シタルモノハ後ニ省クテ例トス

法朗西國中央行政



行政ノ種類ニテ分テリ其區分ノ肝要ナル稱號及其數ハ  
 十七區「アロンヂスマン」三百六十二郡「カントン」貳千八百六  
 十區「コマンヌ」三萬六千〇九十七ナリトス  
 縣及郡ノ稱號行政區及無形人ノ如キヲ含有セリ區及郡ハ單ニ行政區  
 分トシテ止ル

區及邑ハ行政官吏ニテ行政ヲ掌ルト雖モ郡ノ首府ハ然ラス然ラハ斯  
 ノ首府ニ係ル行政區分トハ何等ノ事ヲ指スカハ如左

- 第一 繳兵署トナルナリ
- 第二 公証人ノ區域トナリ及官有地主管ノ區トナルナリ
- 第三 統計委員會ヲ開クナリ
- 第四 警部長アリテ各郡ヲ統轄スルナリ

第五 縣會及區會議員撰舉區タルナリ  
以上ノ五件ヲ以テ行政區トハ稱スルナリ  
行政區ハ法律ヲ以テ定メテラタルモノナレハ郡及邑ノ組替ヲナスノ  
場合ニハ下院ノ議ヲ經サレハ變更スルヲ得ス但邑ノ位置ヲ變更ス  
ルニ左ノ項目ニ準スルモノハ縣會ノ議決ノミヲ以テ舉行スルヲ得  
一 他ノ郡ニ涉ラサルモノ  
二 關係邑會ノ同意ヲ得タルモノ  
若レ關係邑會ノ議協ハサル場合ニハ參事院ノ議ヲ經テ布告ヲ以テ  
可否ヲ決ス  
縣會ノ議協ハサル場合ニハ下院ノ議ヲ經テ法律ヲ以テ可否ヲ決ス  
行政區分ハ裁判組織ト連絡セリ即チ縣ニハ重罪裁判所アリ區ニハ始  
審裁判所アリ邑モ亦裁判區トナルヲアリ或ル場合ニ在テハ邑長ハ普  
通警察裁判官トナレハナリ  
(控訴裁判所ハ廿六ヶ所アリ之ハ行政區ニ依ラスシテ專ラ裁判區ニ

依ル故ニ縣ノ數トハ均シカラス)  
宗教上ヨリシテハ教區「エペーセ」六十五教區「アルシエペーセ」十八合シテ八  
十三教區トナス  
各「アルシエペーセ」ニハ若干ノ「エペーセ」ヲ含有セリ而シテ其教區ノ主タル  
市府ニ支配セラレ、ナリ各「アルシエペーセ」ニ居ル僧ヲ中教正「アルシエ  
ペーセ」ト云各「エペーセ」ニ居ル僧ヲ小教正「シユフラガン」ト云教區ヲ分ツテ「パロウ  
ス」トス即チ邑ノ區域ニ概テ符合セリ然レトモ必シモ邑ト同一ナリト  
云フニ非ラス  
「パロウス」區中ニ猶區域ニアリ一チ「キニール」ト云一チ「シキユルサール」  
ト云其區別ハ「キニール」ノ區ニ居ル僧ハ永世ノモノニシテ政府ノ許可  
ヲ得テ置キタルモノナリ故ニ之ヲ任免ハ政府ノ布告ニ非サレハ宗教  
上ヨリ左右スルヲ得ス「シキユルサール」ハ小教正ヨリ任スルモノナ  
レハ小教正ハ之ヲ解職又ハ辭職セシムルヲ得  
共和曆九年ノ「メシドール」自七月十八日月ノ廿六日政府ト宗教ノ間ニ特

約アリ其項目ニ依レハ每郡ニ「キユール」ヲ置カサルハカラサルヲト  
 ナレリ此數ハ最下限ナレハ勿論其以上置クヲ得ルモノニシテ即現  
 在ノ數郡ヨリ「キユール」ノ數ハ超過セリ  
 「キユール」シキユール「リ」ヲ立ルハ小政正及邑會ノ請求ニ依リ成リ  
 立ツモノニシテ教部卿ノ布告ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス  
 陸軍上ヨリハ全國ヲ十八師管ニ別テ一師管内ニ若干ノ縣ヲ含有セリ  
 各師管ノ首府ニハ中將一人宛ヲ置ク各縣ニハ軍務ノ必用ニ隨ツテ少  
 將ヲ置ク  
 海軍上ヨリハ全國ノ海岸ヲ五區ニ別テ外ニアルセリ一海岸ヲ一區ト  
 ナシ合セテ六區トス每區ニ沿海々軍事務ヲ掌ル海軍事務長一名宛ヲ  
 置ク此事務長ノ權限ハ海軍ノ行政事務ニ涉ル事ヲ掌ル併ナカラ原則  
 ニ依レハ海軍ヲ指令スルノ權ハ之レナシ海軍行政事務ノ目的ハ艦體  
 ノ物品、造船所、武庫及海兵徵集ノ事ヲ掌ルニアリ此海岸區ヲ小別  
 海岸小區トナシ「コングレ」小區事務長ヲ置キ其事務ハ事務長ノ命ニ依リ事ヲ執

ル層小區ヲ細別シテ「カルチエ」ニカアルチエ「シンジカー」トナス「レン  
 カ」ニ居ル官員ヲ「シンジク」ト云此官吏ハ海軍事務ニ付地盤ノ働キ  
 即チ海軍徵集名簿ヲ作り「カルチエ」ノ士官ニ呈出スルモノニシテ「シ  
 シツク」ハ「カルチエ」ノ支配ニ屬スルモノトス  
 教育行政上ニテハ大學區ニ別テ一大學區ニハ若干ノ縣ヲ含有セリ其  
 數ハ大小一ナラス各大學區ニハ總理官アリテ學區内ノ行政事務ヲ掌  
 ル各縣ニハ大學監督官アリ此官ハ小學ノ事ニ關シテハ縣令ノ指揮ヲ  
 請ケ高等中學及中學ノ事務ニ關シテハ總理官ノ命令或ハ指揮ヲ受ケ  
 テ事ヲ執ルナリ  
 土木橋梁ノ行政上ニ就テハ全國ヲ十六ノ監督區ニ別テ各縣ヲ以テ其  
 一部トシ之ニ技監ヲ置キ其事務ヲ掌ラシム縣ヲ細別シテ（其區域ハ行政  
 區分スルモノニ）之ニ技師一名宛ヲ置ク  
 主税ニ關シテハ縣、區、俱ニ租稅上ノ一區トナレリ縣ノ首府ニハ收稅長  
 ヲ置キテ總テ租稅ノ事ヲ掌リ區ノ首府ニハ收稅官一名ヲ置キテ收稅

長及各種收稅官ノ中間ニ在テ之ヲ取次チナス事ヲ執ル郡モ亦收稅區ト認ムルヲ得何トナレハ公證ノ爲メ收稅官ヲ置ケハナリ併チカラ公證ノ爲メノ收稅官ハ一名ニテ數郡ヲ請持ツアレハ必シモ收稅區ト確認スルヲ得スト雖モ實際數郡ヲ請持ツノ收稅官ハ甚少ナシ  
(邑ハ收稅上ノ區域ニハ係ハラサルモノナリ)  
直稅ハ數個ノ邑ニ涉リテ徵收スルコトアリ其邑ノ聯合スヘキ多少ハ交通上ノ辨否ニ依リテ廣狹相定マルモノナリ

○官吏ノ區別

行政官吏ヲ別ツテ左ノ三種トス

- 第一 (國家官吏) 此官吏ハ階級ノ何レニアルチ問ハス國家事務ノ一部ヲ負擔シ其權限内ヲ以テハ命令スルノ權利ヲ帶ヒ公衆ヲシテ服從セシムルヲ得
- 第二 (補助官) 此官吏ハ擔當ノ事務ヲ辨理スルニ止マリテ判決

スルノ權ナキモノトス

第三

(執行官) 此官吏ハ國家官吏ノ命令書及補助官ヨリ與ヘタルモノ、事ヲ執行スルモノトス  
平常ニハ治安ヲ保持シ取締上ノ爲メニハ行政官ノ需メニ應シテ事ヲ執ルモノトス然レトモ其地ノ全部合圍ノ地トナリ又ハ其一部ヲ合圍地ト布告セラレタルトキハ此限ニアラス  
總テ法朗西國內ニ戰爭アルトキハ執行權ハ陸軍ノ權内ニ販ス

○行政官

行政權ハ單一ノ人ニ任スルモノトシ集合體ノモノニ任スルコト廢ス  
(其旨趣ニ依レハ働キハ單一ノモノ、作用ノ結果ニアレハナリ是レ共和曆八年五月(方今ノ曆ニテ二月十九日ノ間也) 内部行政律ノ報道書ニ呈出スルノ旨趣ナリ)



行政事務中方今猶委員ヲ作りテ事務ヲ執ルヲアリト雖モ是等ハ僅少ノ部分ニ止マレリ例セハ貧院ノ事務又ハ教區内ニ人民ノ爲メニ製造ノ事ヲ執ルモノ等ニ限レリ

○中央行政

大統領ハ執行權ノ長ニシテ又行政ノ長官タリ併ナカラ政策上ノ爲メニハ執行權ヲ行フト雖モ行政ノ細部ハ殆ント隸屬ノ官吏ニ任スルモノナリ尤行政ノ或ル部分ハ自ラ之ヲ掌ルモ他ニ委任スルヲ一般ノ例トシ自ラ取行フハ寧ロ例外トナス但但鑛山ノ採掘ヲ許スニ宗教上ニ關スル建物保管ノヲ又或ル場合ニ於テ無形人ノ性質ヲ帯ヒタル建物保管ノヲ縣會ノ權限上ニナキ入府稅ヲ許可スルヲハ自ラ之ヲ掌リ其他ハ悉ク内閣大臣ニ委任スルモノナリ  
各省ノ設ケ方ハ法律ヲ以テ定ムルモノニ非ス事務ノ都合ニ依リ布告ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス然レトモ之ニ關シ要スル處ノ經費ニ至リ

テハ自ラ國會ノ議ヲ經サルヘカヲサルナリ  
左ノ十一省ヲ以テ行政權ヲ掌ル

- 外務省
- 司法及敎部省
- 内務省
- 大藏省
- 陸軍省
- 海軍及殖民省
- 文部及美術省
- 工部省
- 農務省
- 商務省
- 驛遞及電信省

各省ノ機關運用ノ妙ハ主務卿ノ意中ニ在リテ存ス即チ命令書訓令書

及決定等ニテ其意ヲ發表スルモノナリ  
訓令ハ全體ニ涉リ又ハ個々ノ事柄ニ對スルヲアリ命令書ハ一ノ官吏  
ニ執行權ヲ命令スルモノナリ命令書ハ訓令ヨリ重キモノナレトモ訓  
令モ亦隸屬官ニ在テハ均シク服從セサルヲ得サルモノナリ命令書訓  
令書ニ服從セサルヲ得サル所以ノモノハ其命令訓令ノ旨趣ニ就キテ  
ハ卿其人ノ責任トシテ負擔スレハナリ  
命令書又ハ訓令書ハ卿ノ自ラ出ス所ノ働キニシテ全ク他ヨリ起リ來  
ルモノニ非サルナリ決定ハ人民ノ願ニ依リ又ハ隸屬ノ官吏ヨリ起ル  
モノナリ  
決定ニ二種アリ一ハ行政ノ性質ニシテ參事院ニ呈出シ裁判ヲ仰クヲ  
得サルモノ一ハ訴訟ノ性質ヲ帶ヒ參事院ニ控訴スルヲ得ルモノ是  
ナリ  
人民ニ服從セシムヘキ規則ヲ作ルノ權限ハ卿其人ニ委任セラレサル  
ナリ然レトモ隸屬ノ官吏ニ對シ規則ノ性質ヲ含ミタル訓令ヲナス

ヲ得隸屬ノ官吏ハ其官吏タルノ資格ヲ以テ之ニ服從セサルヲ得ス尤  
モ其官吏人民ノ資格上ヨリシテ之ニ服從スヘカラストスルモ之ヲシ  
テ官吏ニシテ服從セサルトシテ罷スルヲ得ス  
法律ノ説明ニ對シテ説明ヲナスノ訓令ハ其旨趣ヲ示スニ止マルノ効  
力アルノミ但訓令ト雖モ布告ノ性質ヲ含ミタルモノハ其効用布告ニ  
異ナラス  
卿ハ規則ヲ作ルノ權限ハ與ヘラレサレトモ主管ノ事務上縣令ノ設ケ  
タル規則ヲ可ト認メ或ハ之ヲ廢止スルノ權ヲ有ス尤此權ハ旨趣ニ反  
對スルノ權ニ止マリ之カ爲メ縣令ニ代リテ規則ヲ設ケルヲ得ス

○參事院

參事院ノ組織及章程ハ千八百七十二年五月廿四日千八百七十四年八  
月一日千八百七十六年八月十日千八百七十九年七月十三日ノ法律及  
議官補任免布告千八百七十九年八月二日內規ノ布告ヲ以テ定マレリ

參事官ハ左ノ人員ヨリ成立ツモノトス

司法卿ヲ以テ議長トナス

常務議官ノ内ヨリ副議長一名ヲ撰任ス

常務議官三十二名

但從來廿貳名ノ處本文ノ人員ハ法律課ヲ新設スルカ爲メ千八百

七十九年七月十三日ノ布告ヲ以テ増員シタル數ナリ

特務議官拾八名

但高等官ノ内ヨリ任命ス是レ會議上ニ實地ノ事柄ヲ示サシカ爲

メナリ尤何レノ職務ノ高等官ヨリ撰任スヘキトノ定マリアル

ニ非ラスト雖モ其職務ハ現ノ本職ニ聯帶セサルニ非ラズ何ト

ナレハ現職ヲ失スレハ隨テ議官ノ職ヲモ失スルモノナレハナ

リ而シテ本文ノ人員モ亦前項ノ布告ニテ増員セル數ナリ

常務及特務議官トモニ担当ノ分課アリ然レトモ訴訟課ハ別段トナ

リ其特務議官ハ裁判上ニ關スル場合ノ議席ニハ出席セサルモノト

ス

議官補三拾名

議官候補一等拾貳名

但從前ハ試験及第ノ處千八百七十九年六月十三日ノ法律ヲ以テ

試験ヲ省カレタリ其撰舉ハ布告ヲ以テ命セラレタル議官候補

第二等中四ヶ年ヲ勤メタルモノ、中ヨリ撰ミ或ハ元二等候補

者ニシテ參事院ニ四ヶ年間奉職ノモノ若シハ其他ノ官吏ニ奉

職又ハ見習中トナリタルモノヨリ撰舉スルヲトナレリ尤此候

補官ハ終身官ノ部ニ加ハルナリ

全二等廿四名

但試験ノ上四ヶ年間ノ見習ヲ命セラレ期滿テ一等ニ撰ハル、

アリ毎年四分ノ一ヲ交代セシム故ニ毎年六名宛ヲ十二月ニ撰

舉ス四ヶ年ニ滿スシテ職員ヲ生スルハ同時試験ヲ受ケタル

モノ、中ヨリ補闕ス此候補ハ學業已ニ成リタルモノニシテ實

際ノ學校ニ就カシムルノ旨趣ナリ  
 法律ニ依レハ試験科目ハ參事院ノ定ムル處ニ據ルノ法ナリ然レト  
 モ其重ナルモノハ文學或ハ法學ノ學士ノ稱(官立學校ニテ卒業セシモノ  
 ナキノ議論アリ)ヲ帶ハサルモノハ及第セシメサルナリ  
 本院中ニ各課ヲ置キ課毎ニ大書記官(議官補)一名ヲ置ク其訴訟部ニハ  
 特務書記官一名ヲ置ク  
 内閣大臣即チ各省卿ハ總會議ニ於テ我カ主務省ノ爲メニ意見ヲ述フ  
 ルトチ得然レトモ決議ノ數ニ加ハラヌ只司法卿ハ總テ議事權ヲ有ス  
 常務議官議官補及一等候補ハ奉職三ケ年ノ後ニ至リテハ參事官ノ資  
 格ヲ以テ他ニ奉職スルヲ得此場合其席ヲ居置キテ他ヨリ補闕セス  
 然レトモ他ノ奉職三ケ年間ヲ過ルトキハ其効ナキモノトス但其數ハ  
 總人員ノ五分ノ一ヲ超過スルヲ得ス尤三ケ年ヲ過キ補闕官出ルモ猶  
 名譽官ヲ保シトチ得其一等候補ニ至テハ八年間ノ奉職ヲナシタルモ  
 ノニ限り名譽議官タルヲ得

本院ノ會議ハ三様ニ區別セリ

第一 總會      第二 部會      第三 訴訟會

本院官吏ノ俸給ハ如左

- 副議長      年俸貳萬五千法
- 部長      全 壹萬八千法
- 常務議官      全 壹萬六千法
- 議官補      全 八千法
- 一等候補      全 四千法
- 二等候補      俸給無之

但從前帝國ノ際ニハ議長ノ俸給拾万法、副議長六万法、部長三万  
 五千法、議官貳万五千法、議官補一級壹萬法、二級六千法、一等候補  
 貳千法ナリキ  
 又千八百四十九年ノ頃ハ議長ハ副大統領之ヲ勤メタリ其際ハ  
 部長ノ年俸壹万五千法、議官壹万貳千法、議官補六千法、候補貳千

總會ハ各部ノ集合ニ成立テ議長ハ司法卿之ヲ勤ム若事故アルキハ副議長之ニ代ル副議長モ亦事故アルトキハ部長中先官ノ部長ヲシテ議長席ニ就カシム

總會ハ議權ヲ有スルモノ拾六名以上ノ出席アルニ非サレハ開議スルヲ得ス尤各省卿ノ出席シテ投票スルモノハ此數ニ算入セス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス會議ハ報道ノ後開會スヘキモノトス多數ヲ問フニハ起立ニ依ル最モ不明瞭ナルトキハ姓名ヲ呼ヒテ之ヲ確ム

總會議ニ附スヘキ事件ハ千八百五十二年及千八百七十九年八月二日ノ規則ヲ以テ定レリ故ニ其規則ニ洩レタルモノハ部會ニ附スヘキモノトス總會議ノ事務ニ二別アリ

第一 大ナル命令ノ事務

但此事務ハ議接ヲ印刷シテ少クモ開會二日以前ニ各議權アル人々ニ分配ス

第二 小ナル命令ノ事務

但議接ヲ印刷セス

大小命令ノ事務區別ハ千八百五十二年ノ規則ニテ區別セリ部會ハ左ノ五部ニ分テリ

第一部 法制、裁判、外務、

第二部 訴訟、

第三部 内務、文部、教部、美術、

第四部 工部、農務、商務、

第五部 大藏、陸軍、海軍、殖民、

各部ニハ部長一名常務議官五名(訴訟部ハ六名トス)トス議官補及一等二等候補ハ内規第四條ニ依リ定メラレタル比例ヲ以テ

左ノ如ク各部ニ分配ス尤此分配法ハ部長ノ上申ニ依リテハ副長之ヲ左右スルヲ得

第一部	議官補三名	一等候補二名	二等候補三名
第二部	全 拾貳名	全 四名	全 拾名
第三部	全 五名	全 貳名	全 四名
第四部	全 五名	全 貳名	全 四名
第五部	全 五名	全 貳名	全 三名

常務議官三拾貳名ノ分配ハ如左

副長 一名

第二部 六名

各部 五名宛

部長 五名

各部ノ事務ヲ分ツテ二別ス即チ如左

第一 至急事務

第二 通常事務

事務ノ緩急ハ各部長ノ鑑別スル處ニ依ル而シテ至急ノモノハ即日總分ニ着手ス部長ノ指揮ヲ得テハ書記官ハ報道ノ事ヲ怠タルヲ得

總テ議事ノ事柄ハ報道員ヨリ報道スヘキモノトス然レトモ即急ノ片ハ報道ヲ待タズ議席コテ其旨趣ヲ聞クヲ得

議決ノ次第ハ即日主務ノ卿ニ呈出ス  
通常ノ事務ハ規律ヲ以テ時日ヲ制限セサルナリ

訴訟事件ヲ吟味スルニハ議事ニ二様ノ方法アリ

第一 訴訟部ニ於テ傍聽ヲ許サスシテ議スルナリ

第二 訴訟部ニ於テ傍聽ヲ許シテ議スルナリ此場合ニハ他ノ各部ヨリ二名宛ノ議官即チ八名ヲ増加ス

千八百七十九年七月十三日、法律ニ依リ傍聽ヲ許ス場合ノ議員ハ左ノ八々ヲ以テ組織ス

一 副議長

二 訴訟部ノ議員

三 他各部ノ常務議員二名宛即八名

千八百七十二年ノ布告ニテ議權ヲ有スルモク九名以上ノ出席ニ非サレハ議事ヲ開クヘカラストス九名以下ノ場合其數ヲ補フ爲メ他ノ部ヨリ議官ヲ加フルヲ得

議員ハ奇數ナラサルヘカラスト然ラサレハ半數ノモ多數ヲ區別シ能ハサルナリ是レ部長ハ訴訟事件ニ決議ノ數ニ加ハラサレハナリ

議員若偶數ナルトキハ末席ノ一人其席ヲ避クニキモノトス議決ノコトハ議員四名ニ命ジテ之ヲ編纂セシム

備考 千八百三十九年九月十二日千八百四十五年七月十五日ノ法律ニ依リ訴訟部ニ於テ秘密會ヲ開キ議シタルモノハ之ヲ總會ニ附スルノ例トセリ然レモ千八百四十九年ノ法律

ニ依リテ行政上ノ裁判ト云事ニ定マリ直ニ公然傍聽ヲ許シテ決議スルコトナリシヲ以テ曩キノ秘密會ヲ開クコトハ不用トセリ

部長ヨリ報道員ヲ指名シ之ヲシテ政府ノ辨明委員ニ事務ヲ配當セシム公然ノ議ニ持出ス事項ハ政府ノ辨明委員之ヲ定メ議官議官補及候補ニ之ヲ配賦ス若其事件ニ付代言人ヲ要スルトキニハ代言人ニモ配賦ス

各事件ニ付各部長ニテ指名シタル報道員ノ作りタル報道書ハ本院ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得ス

議官ハ妄リニ他ノ部ニ轉任スルコトヲ得ヌ若轉任スルニハ議官自ラノ需メト副議長ノ意見トヲ出シタル上布告ヲ以テ之ヲ命スルモノトス何トナレハ政府妄リニ議官ノ意ニ反對シテ自由ニ左右スルコトヲ防クニアリ

每三年ニ議官及議官補ヲ各部ニ從務セシムルノ組替アリ此組替ハ議

官ニ係ルモノハ司法卿ノ布達ヲ以テスルナリ  
候補ハ毎年十月十五日ニ各部ニ組替チナスナリ

○憲法

憲法ナルモノハ一國ノ大權ヲ形ツクリ一國ノ大權ノ機關トナルモノ  
ナリ(略ス)

行政官及立法官トノ區別ハ公法及憲法アルニ依リテ生スルナリ

○立法官

立法官ナルモノハ千八百七十五年二月廿五日ノ憲法ニ依リテ成リ即  
チ上院下院ノ二院ニ立法ノ權ヲ委任セラレタリ  
又或ル場合ニ於テハ立法權ヲ第三ノ議院ニ授ケラレタリ第三ノ議院  
トハ上下院ヲ合シテ成ルモノニシテ名ケテ國會ト稱ス又通俗之ヲ會  
議トモ稱ス

國會ハ憲法ヲ更正シ憲法ノ旨趣ヲ辨明スルノ權アリ

憲法ニ係ハラサル事ヲ議スルニハ上院下院ハ各々各別ニ議シテ兩議  
ノ一致ヲ以テ法律トナルモノトス

上院及下院ハ各々其撰學法ヲ以テ成リ撰學ハ撰學律ニ依ツテ成リ立  
モノトス但上院ノ撰學律及下院ノ撰學律ノ變更ハ俱ニ通常法律ヲ定  
ムヘキ手續ニ依ルモノトス

備考 従前上院ノ組織ハ憲法ニ依リテ定メラレ下院ノ組織ハ通

常法律ヲ以テ定メラレタルノ差アリキ(千八百七十五年二月廿

日ノ法律第一條ヨリ

第七條)然ルニ千八百八十四年八月十四日ノ法律第三條ニ

依リ千八百七十五年二月廿四日ノ法律第一條ヨリ第七條

マテハ將來憲法ノ性質ヲ帯ヒタルヲ以テ上ノ差異ハ方今

ニハ之レナキナリ

千八百八十四年八月十四日ノ法律ニ依リ通常ノ法律ヲ以テ上院ノ撰  
學法及組織議官ノ員數及議官ノ分配法(官制ヲ又撰學人民中ヨリ各々若干)



ヲ變更スルヲ得

備考 上院ハ下院ノ上位置ニ居ルト雖モ下文ニ先ツ下院ヨリ陳スルハ人民直接ノ撰舉ニ係ルヲ以テナリ

○下院

千八百七十五年ノ憲法ニ依リ撰舉ヲ普通撰舉トセリ

備考 憲法ニハ下院ノ組織及議員ト定ムヘキ手續ハ未ダ明示シナキナリ此憲法ヲ作りタル旨趣ハ最肝要ノ事柄即チ下院ノ組織ト議員ト定ムヘキ手續ヲ普通法律ニ譲レリ尤以前ノ憲法ニハ最肝要ノ事柄ヲ掲ケタリ又他各國ノ憲法ニモ之ヲ掲ケタリ

此憲法ニ掲ケル普通撰舉トハ直接ノ撰舉否ヤヲ明示セサルヲ以テ復撰舉トセンニハ普通ノ律法ヲ以テ定メサルヲ得ス  
憲法ニハ議員ハ縣又ハ區ニ依リテ撰ハル、ヤ否ヲモ明示セラレス

議員ノ年限ヲモ明示セス

然レトモ以上ノ事柄ハ千八百七十五年十一月三十日ノ撰舉法ヲ以テ之ヲ定メタリ

其第一條ニハ直接普通撰舉ト定ム

第十四條ニテ區(行政區)ニ於テ戶々ノモノ之ヲ撰ムコトセリ

第十五條ニテ議員ノ年限ヲ四年ト定メ毎四年議員ノ悉皆ヲ改撰スルコトセリ

備考

直接撰舉ハ激ニ涉リ復撰舉ハ稍温和ヲ保ツトノ說アリト雖モ從來ノ實驗上ニ依ンハ毫モ性質ノ更ルコトナキモノト例証ヲ舉ケテ反覆辨シアリ

撰舉區ヲ縣ニテ撰フト區ニテ撰フノ得失ハ毎ニ論アリテ止マサル處ナリ然レトモ其論ノ根據ハ究竟撰方ノ辨理ヲ言フニ過キス何レニスルモ被撰人ハ時ノ政策ニヨリテ定マルモノナレハナリ然レトモ縣ニテ撰フ方輿論ノ赴ク處

ヲ識別スルニ足ルヘシ何トナレハ縣中ニ最モ尊ハル、ノ  
 其人ヲ選フニ便理ニシテ縣ニ通シテ識ラレタル人ニ非キ  
 レハ選ハレザレハナリ反之區ニテ選フキハ政策ノ如何ニ  
 拘ハラズ時アリテハ人ニモ識ラレザルモノ其選ニ當ル  
 アリ又ハ一時ノ雄辯家或ハ地所持等ノモノ撰擧ニ當ル  
 アリテ往々政事ノ性質ヲ帶ハス一個人ノ利益ノ爲メニス  
 ル性質ノモノ撰擧セラル、アレハナリ然レトモ區ニテ  
 撰フキハ己レカ識ル人ヲ選フヲ得ルモ縣ニテ選フトキ  
 ハ然ラズ故ニ區ノ被選人ハ獨立ノ氣性ヲ帶フルモノニシ  
 テ縣ニテ選フモノハ然ラズ自ラ被選ニ關スル書類ヲ持フ  
 ノ人ニモ識ラレザルヲ得ス是等ノ事ニハ現在ノ行政官ハ  
 與ルモノナレハ稍之ニ屈スルノ傾キナキヲ保セス是レ獨  
 立ノ氣性ヲ失スルナキヲ保セサル所以ナリ  
 政府ノ都合ニハ縣ニテ撰擧スルヲ利トシ人民獨立ノ氣性

ヨリスルキハ區ニテ撰擧スル方ヲ宜シトス  
 議員總撰擧ヲ利トスルノ理由ハ輿論ヲ識別スルニ確カナ  
 レハナリ反之一部ノ改選ナレハ輿論ヲ發表シ能ハス假令  
 發表スルモ之ヲ利用スルニ乏シ加之一部ノ改選ハ新議員  
 ノ輿論ト舊議員ノ輿論ノ間ニ爭ヲ生シ新議員ノ熱血モ無  
 効ニ屬スルヲアレハナリ  
 一部ノ改選ハ改選ノ旨趣全體ニ貫徹スルヲ得ス然ルチ世  
 ニ言フ通常ノ場合ニハ一部宛チ改選シ事アルトキハ總改  
 選トスルチ宜レト然レトモ斯ル折衷改選ハ事理相立タス  
 究竟總改選チ宜シトス  
 議員ハ可成人民ノ望チ發表スヘキ爲メ改選チ四ケ年ト改メ總改選ト  
 定マリ每四ケ年ニ撰擧會ヲ開クモノトス  
 議員解散ノ事ハ四ケ年目ノ其期ニ至リ前廣大統領ヨリ布告ス  
 備考 議員解散ノコトハ上院ノ議ヲ經ヘキノモトナレリ是レ得策

ニハ非ラス何トナレハ若上院ニテ解散ニ同意ヲ表セサル  
コアルノ場合ニハ上院ト大統領ノ間ニ不可謂ノ反對ヲ示  
スコアレハナリ

解散ノ布告後幾干ノ猶豫ニテ改選スヘキカハ千八百七十五年十一月  
三十日ノ選舉律第十六條ニテ死亡辭表其他ノ關員ニハ關員ノ日ヨリ  
三ヶ月内ニ選ハサルヘカラスト示セリ(若復選スヘキモノトセハ直チニ  
其月ヨリ着手セサルヘカラストニ)  
改選ハ補調ノ旨趣ト同一ニアラス千八百七十五年二月廿五日ノ選舉  
律第五條ノ第二項ニ三ヶ月内ニ選舉ヲ集メヨトアリ故ニ三ヶ月ノ中  
ニ選舉ノ會ヲ發シ實際ノ選舉ハ三ヶ月ノ外ニ出ルモ妨ナキノ旨趣ニ  
依リ政府ハ千八百七十七年五月十六日後十月十四日ニ至リ選舉ヲナ  
セリ其解散ハ六月廿五日ナリ即チ三ヶ月以外ニ出テタリ且從前王政  
ノ時ノ事例ヲモ引用シ來リテ其不當ヲ示サルヲ確カメタリ其反對者  
ハ憲法ノ精神ニ背ケリトセリ要之ニ三ヶ月間ニ選舉會ヲ開ケハ選舉  
日ハ政府適宜ニ定メテ宜シキモノトス

千八百八十四年ノ法律ヲ以テ解散ノ旨新ニ開クヘキ選舉會ハ二ヶ月  
以内ニ開キ選舉會ヲ閉テ後十日以内ニ國會ニ徵集スルコトナレリ  
千八百七十五年十一月三十日ノ法律ニテ議員ニ命令証ヲ與フルコト  
應止セリ其旨趣ハ自己ノ欲スル處ノモノヲ選舉スルモノナレハ其選  
舉シタル議員ニモ亦自由ニ意見ヲ陳シ得セシムヘキカ爲メナリ  
若一ノ黨派ニ左袒セサルヲ得サルカ又ハ自説ヲ變セサルヲ得サルノ  
思想アルカ如キニ至テハ議場ニ於テ事ヲ議スル上ニ何ノ効カアラズ  
其事ヲ定メサルモ苟クモ命令アリトスルハ議員ノ獨立ハ已ニ害セ  
ラレタルナリ如斯ナレハ命令書ヲ選舉人ヨリ與ヘタルモ無効ナリト  
ス併ナカラ約束ノ如キハ即チ効アリ例セハ名譽ヲ損セス政略上ニ背  
カストノ約束ノ如キ其約束ニ違フホハ其權ヲ返戻シテ進退セサルヲ  
得サルモノナリ然レモ約束ノ効力若シ議員ノ意見ヲ制限シ命令ニ均  
シキモノトナリ之カ爲メ議場ニ於ケル投票ヲ右左スルカ如キニ至テ  
ハ法律ノ禁スル處ナリ

議員ハ區ニ於テノ撰舉トナレリ然レトモ人口ノ多少富ノ厚薄ニ依リ多ク差異アリ而シテ其富ノ厚薄ヲ定ムルカ如キハ實際上甚難キモノナリ故ニ地租ニ依リ議員ノ數ヲ割出サハ蓋シ甚シキ不平均ナルヘシト云然レトモ千八百七十五年十一月三十日ノ法律ハ議員ノ割出シテ人口ニ依リテ割出セリ人口ナルモノハ佛國及佛國地方ノ景況ニテハ陸盛ノ標準トナルヲ得レハナリ人口ハ毎五年ニ戶籍ヲ調査スルナリ全上ノ法律第十四條ニ依リ區ノ人口拾萬ノ區ニテ一名ノ議員ヲ出スモノトシ拾萬以上ノ區ハ拾萬人毎ニ一人ヲ増シ其拾萬ニ滿タサル區數モ亦一人ヲ増スノ權アリ尤其拾萬ニ滿タサル區モ亦一名ヲ出スヲ得ルノ理ナリ

拾萬以上ノ區ヲ細別シテ其細別區域ハ法律ニテ表ヲ定ム其表ハ千八百七十五年十月廿四日ノ法律ヲ以テ之ヲ定メ千八百八十二年七月廿八日ノ法律ヲ以テ之ヲ變更セリ其法律ハ人口拾萬以上ニ達シタル區ヲ舉示セリ全法律ハ選舉法ニモ二ツノ變更ヲ來セリ一ハ東洋ノ殖民

地從來一名宛ノ議員ヲ出シタルニ二人宛出スヲトセリ一ハ交趾支那ニテ一人ノ議員ヲ新ニ出スヲトナレル是ナリ

第二ノ關係ハ巴里府ニ代議士ノ數ヲ增加セル是ナリ

備考

選舉法ヲ議スルニ際シ巴里府ヲ各行政區ノ如ク見做シ人口ノ多少ニ拘ハラヌ一區一人ヲ出シテ可ナルヤノ問題ヲ提出セリ

巴里ハ人口百八十五萬人アレトモ一區ノ形ヲナレハ議員拾九人ヲ出スヲ得ルコト過キス故ニ巴里ヲ十九域ニ別ツヲ得ヘシトノ議アリダレトモ行政區ト選舉區ヲ分ツハ事困難ニシテ遂ニ巴里ハ人口ニ拘ハラヌ各區ヨリ一人宛ヲ出スヲニ可決セリ

千八百七十六年ニ議長ブリソン發議アリシモ事故アリテ實行スルニ至ラザリシ巴里拾萬以上ノ區ハ其超過ニ應ズル議員ヲ増スヲ千八百八十一年七月廿八日ノ法律ニテ

定マリ即チ議員七八チ増員セリ  
 議員ハ年手當九千法ニシテ之ヲ月割ニシテ支給ス尤此外ニ恩給例ニ  
 當ルモノハ其恩給ヲ受クルコト得猶且法律上ノ禁セサル部分ハ他ノ  
 俸給ヲモ受ルコト得  
 千八百七十二年二月十六日ノ法律即チ現行法律ノ趣意ニ依リ議員ニ  
 ナ官吏タルモノハ年手當ヲ得ラルヘント雖此場合ニ様ノ區別アリ  
 其俸給ト手當額ヲ比較シ俸給少キトキハ手當ヲ受取俸給多キトキハ  
 俸給ヲ請ソルコト是ナリ尤其渡方ハ手當ヲ先ツ渡シ殘餘ヲ俸給ヨリ渡  
 スヘキモノトス

備考 本文俸給ノ内ニテ手當ヲ引去リタル分ハ國庫ニ戻入トナ  
 ルナリ

小政正ハ千八百七十二年二月十六日ノ法律ニ基ケハ其性質官吏ニシ  
 テ議員ノ手當ト俸給ヲ併セ受クルコト得ス  
 中政正小政正ハ官吏ト看做サレ千八百七十五年十一月三十日法律第

八條ニテ議員ニ選舉セラレサル部分ニ組入レタルヲ以テ即チ官吏ト  
 ルノ資格トハナレリ官吏ニシテ議員ニ選ハレタルモノハ八日以内ニ  
 議員ヲ受ケサル旨ノ申立ナキ限ハ其官職ハ當然解職トナルナリ  
 備考 法律ハ本人ノ望ム處ニ從事スルコトヲ許スニアレハナリ  
 官吏ノ公務ヲ奉シナカラ議員ヲ兼スルコト得サルノ原則ニ取除ケルモ  
 ノハ特ニ大任ノ官ニシテ政策上ノ性質ヲ帶ヒタル職即チ左ノ職務ニ  
 限レリ

- 一 内閣首相及諸省卿
- 二 各省次官
- 三 各國派遣ノ大使
- 四 全權公使
- 五 七イ縣令
- 六 警視總監
- 七 大審院長

- 八 會計検査院長
  - 九 巴里控訴裁判長
  - 十 大審院檢事長
  - 十一 會計検査長
  - 十二 巴里控訴裁判檢事長
  - 十三 中教正
  - 十四 小教正
  - 十五 各宗教會ノ會長
- 撰擧法律第十二條ニテ左ノ職務ヲ帶ヒタルモノハ解職ノ後六ヶ月ヲ經サレハ撰擧セラル、ヲ得サルモノトス
- 一 控訴裁判長及檢事
  - 二 始審裁判長、全副長、全豫審裁判官、始審裁判官及全檢事
  - 三 警視總監、縣令、縣ノ大書記官、府知事及殖民地ノ大書記官
  - 四 技監、區ノ技師、道路取締頭及區ノ道路取締役

- 五 大學區總理、及全上監督官
  - 六 小學監督官
  - 七 中教正、小教正、及大講義
  - 八 收稅長、及收稅官
  - 九 直稅長、間稅長、公書長、官有地長、及驛遞長
  - 十 山林保護官及全監督官
- 郡長ハ奉職地ノ縣内各區ヨリ選舉セラル、ヲ得ヌ
- 選舉法律第九條ニ依リ全律第八條ノ事項ニ掲ケタル試験ヲ請ケ教授ノ職(但助教以下ハ此限ニアラス尤議員ニ選舉セ)ヲ奉スルモノ及臨時公務ヲ帶ヒタル人ニシテ六ヶ月以上ニ渉ルモノ、二項ニ當ルモノハ議員ニ選舉セラル、ヲ得ストナレリ
- 備考 舊法律ニテハ官吏ヨリ議員ニ選舉セラル、モノハ官吏ノ辭表ヲ出サ、ルモノモ辭職者ト看做シ恩給例等ニ與ルヲ得セシメス然レトモ新法律ニテハ恩給ヲ受クヘキ權利

ヲ與ヘ議員ノ任期滿レハ再ヒ復職スルヲ及丁年間（奉職年  
期迄）奉職ヲナシタルモノハ退隱料ヲ受ルヲ得セシム  
議員ニシテ俸給ヲ受クルノ公務ヲ奉スルモノハ議員ノ資格ヲ失ス故  
ニ再ヒ議員トナルニハ再選セラレタル上ニ非サレハ議員タルヲ得  
ス但俸給ヲ受クヘキ公務ヲ奉シテ俸給ヲ受ケサルモ議員タルヲ得  
サルノ點ハ同一ナリ

憲法ニ依リ滿廿五歳以下ノ選舉人ハ被選舉人トナルヲ得

備考

本文ノ法文ハ其事簡短ニシテ密ニ涉ラスト雖モ若夫レ被  
選舉人タルモノハ選舉人タル表ニ上セラレタル上ニ非サ  
レハ能ハサレハナリ故ニ六ヶ月以上邑ニ居住セラレハ選  
被選舉人タルヲ得サレハナリ  
選舉ハ居住ニ必用ニシテ即チ六ヶ月間ノ居住ハ選舉人表  
ニ記載ノ要用時間ナレハナリ尤以上ノ事ハ選舉權ノ有無  
ニ非ラス手續ノ法式ニ與ルモノナリ

被選舉權ノ資格ハ滿廿五歳以上ノ男子ナレハ租稅ノ納否及年齡ニ制  
限ナク被選舉權ヲ有スルモノトス

選舉權ハ佛蘭西國人ニシテ滿廿一歳以上ノモノ法律上ニ定メタル事  
項ノ爲メニ選舉權又ハ政事權ヲ失ハサルモノハ悉ク選舉權ヲ有ス  
選舉法律第六條ニ依リ陸海軍ノ常備軍ニ在ルモノハ議員ニ選ハル  
ヲ得ス

全律第七條ニ依リ非職士官モ亦選舉セラレ、ヲ得ス但退職士官ハ  
此限ニアラス尤將官ニ至テハ退職ト雖モ畢竟退職非職ノ間ニアルカ  
如クナレハ退職士官ノ例ニアラス少將ハ六十二歳中將ハ六十五歳ニ  
シテ豫備艦員ニ備ハル故ニ現役艦員第二部タルト又ハ退職者タルモ  
自ラ選フ處ニ隨フヲ得即チ議員ニ選ハル、ヲ得

備考

豫備艦員ハ未ダ陸軍卿ノ下ニ在ツテ平時ト雖モ司令官ヲ  
命セラレ、ヲアレハナリ  
將官ニシテ總司令官ヲ以テ戰場ヲ經タルモノハ豫備艦員第一部ニア

リト雖モ議員ニ選舉セラル、ヲ得但現司令官ヲ休職スルモノニ非  
サレハ能ハス

選舉人タルノ資格ハ如左

- 一 滿廿一歳以上ノ男子
- 二 私權及政事權ヲ失ハサルモノ
- 三 佛國人又ハ佛國ニ皈化セシ人
- 四 千八百五十二年二月法律第十五條及第十六條ノ不合格ニ抵  
觸セサルモノ

選舉權ヲ行フニハ左ノ手續ニ依ルモノトス

- 一 邑ノ選舉名簿ニ上ラサルヘカラス但六ヶ月以上居住ノモノ  
ニ非サレハ名簿登錄ヲ許サス
- 千八百五十二年二月二日ノ布告千八百七十四年七月七日法律千八百  
六十六年一月十三日ノ布告ニテ選舉法ノ改正ヲ加ヘテ定マル處ノ手  
續如左

- 一 毎年至全十月一日ノ間ニ選舉名簿ニ就キ選舉權ノ加除ヲサス  
モノトス其委員ノ組織ハ如左

邑長、村會ノ代理者一名、縣令ノ代理者一名

- 二 名簿ノ加除成リテ後邑長役場ノ書記部ニ備ヘ置クヘキモノ  
トス

- 三 邑長ハ名簿ヲ公告シ及意見ヲ具シテ二日間ニ區長ニ呈出ス  
ヘキモノトス

- 四 區長ハ名簿ヲ縣令ニ進達スルモノトス

- 五 縣令ハ法律ニ依リ命セラレタル法式ニ背クアルトキハ二  
日以内ニ參事會ニ呈出スヘキモノトス

- 六 參事會ハ三日以内ニ可否ヲ決ス若改正ヲ要スヘキ場合ニハ  
其期限ヲ定メテ選舉委員ニ達スヘキモノトス

- 七 名簿公告ノ後名簿上ニ關スル申立ハ廿日以内ニナサレハ  
カラス



八 名簿上ニ係ル苦情ノ願出アルトキハ委員會ニテ判定ス但巴里及里昂市中ニテハ此委員會ニ選舉人二名他ノ邑ニテハ村會ノ代理者二名ヲ増員スヘキモノトス

九 此委員ノ判定ニ不服ヲ申立ルモ委員ニテ之ヲ拒ムトキハ治安裁判所ヘ控訴スルヲ得此控訴ハ二月至四月ノ間ニ裁判所ノ書記ヘ申立ルモノトス書記ハ口供ヲ取ラサルモ事由判然ナルトキハ之ヲ受理ス此控訴ハ十日以内ニ判決セサルヘカラス但控訴人ヲ判決三日目前ニ呼出シ他ニ申立ツヘキ事ナキヤチ問フヘキモノトス

但控訴ハ直チニ受理スルヲ得ス只委員ノ判決無効トナリタルノ場合訴訟法第四百三十七條ニ依リ受理スルヲ得

選舉ニ關スル諸時限ヲ掲表スレハ如左

手続目録	前年ノ名簿	全上仕上ケ	全上公告	期達ヲ告ス	告示ニ對スル全決定ノ公告	治安裁判所控訴全上判決ノ猶全上決定ノ公告	猶全上決定ノ公告	名簿ノ切期
組發手續				ルノ猶豫	委員會ノ日限	訴訟限		

期限	自一月一日至一月十四日	自一月十五日至一月二十四日	自一月二十五日至一月三十一日	自二月一日至二月九日	自二月十日至二月十七日	自二月十八日至二月廿七日	自二月廿八日至三月一日
日數	十日	十日	七日	九日	八日	十日	三日
日	四	日	一	日	三	日	五
日	廿九	日	廿九	日	廿九	日	廿九

備考 此法式ハ辨護權ヲ全クセシムル爲メニ必用ト感シタルヲ以テ設ケタルモノナリ尤訴訟法ノ式ヲ踏マサレハ其効力ナキモノナリ

往々身上ニ係ル區域ヲ誤リ選舉權ノ裁判ヲ仰クコトアリ其區域ハ選舉權ニ關スルモノ、ミテ此控訴ニテ受理シ餘ハ普通ノ裁判ニ訴出シメサルヘカラス選舉權上身上ニ關スルモノハ年齢ノコト、私權ヲ保ツヤ否ノコト、倒産セシ否ノコト、國人タルヤ否ノコト、ニアリテ其父母ノコト、婚姻ノコト等ノ如キハ選舉權ニ關スル裁判ノ限ニアラス若選舉權ニ關シ多數ヲ争フカ如キ關係ニ至テハ治安裁判所ハ之ヲ判決スルヲ得ス

選舉名簿更正ノ時間ハ自三月十一日廿八日間ニ整頓スヘキモノトス

備考 此猶豫ハ縣令ヨリ命令アリテ手續ヲ更メ又ハ裁判官ヨリ  
 裁判ノ趣キヲ申越ス等ノ整頓ヲナスニ必用トシテ與ヘダ  
 ルモノナリ又治安裁判所ノ判決ニ不服アルキハ之ヲ大審  
 院ニ控訴スルモ此時間中ニナレ得レハナリ  
 治安裁判所ノ判決ニ不服ノ場合大審院ヘ控訴スルキハ判決後十日以  
 内ニ治安裁判所ノ書記ニ其事ヲ申立サルヘカラス  
 大審院ニテハ代言人ヲ要セス直ニ受理掛ニ訴出レハ之ヲ鑑別シテ  
 受理スヘキモノトセハ民事課ニ於テ之ヲ破毀ス  
 選舉名簿ニ上ラサルモノハ選舉權ヲ得サルモノナリ然レトモ名簿ニ  
 關シ訴訟ノ判決狀ヲ所持スルモノハ此限ニアラス  
 備考 身上ノ裁判ハ僅々ノ期限内ニ治安裁判所ニテ判決スルコ  
 トハ成シ得サルモノトス  
 大審院ニテハ定マリノ期限内ニ必シモ判決セサルニ非ラ  
 ス但破毀ノ節ハ他ノ治安裁判所ヘ移シテ之ヲ裁判セシム

以上ノ手數ノ間ニ三月三十一日ヲ經過シ名簿ニ未ダ上ラサルモノト  
 雖モ選舉權ヲ得ルノ判決狀ヲ所持スルモノハ選舉權ヲ得ルナリ  
 控訴期限内ニ控訴セヌ又ハ名簿整頓後權利ヲ得タルモノハ其年ノ選  
 舉無効ニ屬スルナリ  
 名簿ニ上ラタル後發狂又ハ他ノ裁判上ヨリ選舉人ノ資格タル權利ヲ  
 失シタルモノハ選舉權ヲ失フモノナリ  
 委員ハ三月三十一日ニ各方ヨリノ申越ニ就キ其改正スヘキヲ改正シ  
 愈名簿ヲ整頓シタルトキハ其名簿ヲ邑長役場ノ書記部ニ送り備置カ  
 レルニ其寫シテ縣令ニ送り縣廳ノ書記部ニ備置クヘキモノトス猶邑長  
 ニモ寫シテ送ルチ宜シトス  
 人民ハ邑長役場又ハ縣廳ニ備ヘ置ク處ノ名簿ヲ披閱スルコト得  
 選舉會ハ布告ヲ以テ之ヲ開ク其布告ハ選舉日ヨリ廿日前ニ布告スヘ  
 キモノトス但法律ニハ成ルヘク選舉會ハ祭日ヲ以テスヘシトセリ若  
 理由ナク會日ヲ變更シ選舉ノ性質ヲ破ルヘキ目的ヲ以テシタルモノ

ハ下院ニテ選舉權利ノ有無ヲ鑑定スルトキ無効ノモノト認メラルヘシ

備考 本文選舉會日變更ノ事ハ實際上未ダ會ヲ祭日ノ外ニ選舉會ヲ開キタルヲ絶テナシ

第一ノ選舉日ハ祭日トシ第二ノ選舉ハ次キノ日曜日ニナスヲ例トス  
選舉會ノ役員ハ邑長役場ニ集會スヘキモノトス其組織ハ如左

第一 事務長 邑長之ニ當ル

但巴里ニテハ區長之ニ當ル

第二 陪席者四名 邑會議員ノ筆頭者ヨリ順次之ニ當ル

但巴里ニテハ選舉人中讀書キノ出來ルモノノ中最モ老年ノモノ二名最モ若年ノモノ二名ヲ之ニ充ツ

外ニ書記一名ヲ選任ス

選舉中ハ役員中三名ハ必ス出席セサルヘカラス

大統領ハ選舉會ノ取締ヲナシ及秩序ヲ紊ラサル様夫々ノ方法ヲ設ク

ルモノナリ

地方官及司令官ハ事務長ノ需メニ應セサルヘカラス  
兵隊ヲ選舉會ノ場所及其最寄ニ出ス可ハ該會ノ許可ヲ得サレハ能ハス

選舉中ニ事ノ起リタルトキハ事務長ハ假リニ臨時處分ヲナスコトヲ得

備考

假リトハ議員ノ選舉ハ正當ナルヤ否ヲ調フルニアリ其決定ノ事ハ下院ニ於テ選舉ノ當否ヲ調査スルモノナレハナリ

千八百五十二年二月二日ノ布告ニ依リ左ノ手續ヲ定メタリ

第一 假處分ハ其理由ヲ示サ、ルヲ得ス

第二 處分及告訴ハ口供ニ記載セサルヘカラス

第三 告訴ニ關係ノ書類モ口供ニ添附セサルヘカラス猶其書類ニ

ハ選舉會ノ役員查印セサルヘカラス

選舉人ノ名簿ハ選舉會役員ノ卓上ニ備ヘ置カサルヘカラス

選舉人ノ呼出シハ「アベセ」ノ順ニ依リ呼出スヘキモノトス  
 投票ハ他ノ室ニテ記入ノ上事務長ニ呈出ス但査印モナク封ノ儘トス  
 事務長ハ之ヲ投票籠ニ入ルナリ  
 投票箱ハ撰舉ニ取係ル以前二重ノ錠ヲ付置クモノナリ而シテ其鍵ノ  
 一ツハ事務長之ヲ預リ其一ハ役員中最モ老年ノモノニ預ケ置クモノ  
 トス  
 呼出人名ニハ名簿ノ傍ヲニ査印ヲナシ置キ投票済ノ證トス  
 一旦呼出シテナシタル者不在等ニテ答ヘサルモノアルトキハ再ヒ之  
 ヲ呼出スナリ  
 投票ハ一日間ニ終局ス是レ千八百七十五年十一月三十日法律第四條  
 ニ依ルナリ  
 備考 従前ハ三日間ナリシモ改正ノ上一日トセリ  
 投票開筭ハ左ノ手續ニ依ルヘキモノトス  
 投票數ヲ調ヘ選舉人ノ數ト比較シ若選舉人ノ數多キヲアルノ場合ニ

ハ之ヲ口供ニ示シ置ク口供ニ示サ、ルハ投票數ハ選舉人ノ數ニ符  
 合セルモノト看做スヘキモノトス  
 此手續ヲ終ヘタル上開封スヘシ開封スルニハ選舉人中讀ミ書キノ出  
 來ルモノ若干人ヲ擧ケ之ヲ若干部ニ分テ其一部ノ人員少クモ四名以  
 上トナスヘシ其一組ノ内壹人ハ投票ヲ高聲ニ讀上ケ之ヲ第二ノ人ニ  
 渡ス之ヲ特ニ作リタル選舉名簿ニ記入ス尤現在出席人三百名以下ナ  
 ルトキハ選舉人ノ内ヨリ選ハスシテ役員自ラ之ヲ開封ス  
 開封ノ正當ヲ證スル爲メハ千八百五十二年ノ布告ニ依リ開封事務  
 取扱席ノ周圍ヲ選舉人ニテ自由ニ回覽シ得ヘキ様設ケサルヘカラス  
 白紙ノ投票ハ口供ニ添附スヘキモノトス投票上ニ効力ナキモノトス此  
 白紙投票ハ口供ニ添附スヘキモノトス投票中事故アルモノハ是又口  
 供ニ添附スヘシ其他正當ノ投票ハ選舉人ノ目前ニテ火中ニ投シテ燒  
 棄シ其結果ハ直ニ公告ヲナス  
 邑ノ大ナルモノヲ強テ邑中一ヶ所ニ集ルコトセハ無益ノ時間ヲ費ス

ヲ以テ適宜各地ニ分集セシムルノ權ヲ縣令ニ與ヘラレタリ此場合邑ノ書記又ハ邑會ノ議員或ハ選舉人ノ内讀ミ書キノ出來ルモノ、中ニテ部長ヲ指名ス然ルトキハ各部毎ニ開封シ該部長ヨリ第一ノ部長ニ呈出スヘキモノトス

第一ノ部長ハ各部長ノ面前ニテ被選者ノ人員ヲ調査シ之ヲ公告ス千八百七十五年十一月三十日ノ法律第五條第三項ニ依リ後証トナルヘキ書類即チ選舉名簿ハ役員査印ノ上邑長ノ書記部ヘ八日間備置キ質問等ヲナスモノニハ之カ答辨ヲ與フヘキモノトス

選舉ニ係ル口供ハ二通相認メ一通ハ邑長ノ書記部ニ備ヘ置キ一通ハ邑長ヨリ縣令ニ呈出ス

縣ノ首府ニ於テ選舉區毎ノ被選調書ヲ集ム之ヲ調査スル委員三名ヲ縣會議員中ヨリ縣令之ヲ命ス

巴里ニテハセーヌ縣ノ知事ヨリ五人ヲ命シテ委員トナシ被選投票ヲ調査セシム

被選調ノ手續ハ總人員及其口供ヲ作り調書ニ記入スヘキモノトス投票調即チ被選調ノ委員長ハ左ノ二項ニ當ルモノヲ以テ當選者ト布告ス

- 第一 名簿登錄選舉人ノ四分ノ一ニ均シキ投票數ヲ得タルモノ
  - 第二 投票ノ多數即チ一票ニテモ他ヨリ多キモノ
- 右ニテ條ヲ候補者ニテ併有セサルトキハ第一ノ選舉日ヨリ當ル處ノ第二ノ日曜日ニ必ス再ヒ選舉會ヲ開クヘキモノトス
- 選舉法律第二項ニ依リ第二ノ選舉會ニハ選舉人ノ數ヲ問ハス投票ノ多數ニテ之ヲ決ス又候補者ノ投票同數ナルトキハ年長ノモノ其撰ニ當ルナリ
- 選舉結果ノ布告相濟タル上邑ノ開封口供ヲ縣令ニテ取纏メ之ヲ内務卿ニ進達シ内務卿ハ之ヲ下院ノ議長ニ送致ス
- 下院ニテハ選舉手續正當ニシテ候補者ノ資格ハ適當ナルヤヲ調査ス議員ニ選舉セラレタルモノハ千八百七十四年七月十六日ノ法律第一

條ニ依リテ毎年必ス一月第二ノ火曜日ヨリ通常會ヲ開ク此日ハ法律ニ依リテ集會スルモノトス尤下院ノ議長ヨリモ之ヲ通知ス若議長ノ通知ナキモ無論集會スヘキモノトス

若通常會中布告ニ依リテ延期シタル場合ニハ議長ノ通知ヲ得テ集會スヘキモノトス

通常會ヲ終ヘテ後ハ臨時會トシテ布告ニ依リテ徵收セサレハ集會セサルモノトス

大統領ハ必用アルトキハ臨時會トシテ之ヲ徵集スルヲ得

若上院又ハ下院ニテ議員ノ多數ヲ得テ徵集ヲ請求スルトキハ千八百七十五年七月十六日法律第二條ニ依リ大統領ハ無論之ヲ徵收セサルヘカラス

上項ノ場合若大統領ニテ臨時會トシテ徵集セサルトキハ布告ヲ以テセサルモ各議員ハ集會スルヲ得

總選舉ノ後下院ヲ開キタルトキハ先ツ議員資格ノ適否ヲ調査ス尤總

議員ヲ悉ク調査スルハ必用トセス慣習トシテ半數ヨリ一名以上迄調査シ以テ調査ノ事ヲ了ス

議員ノ資格ヲ調フルニハ下院ハ其最上權ヲ有スルモノナリ

備考

本文ノ調ニ關シテ議員ノ守ルヘキハ道理及公平ヲ旨トス

若之ヲ守ラサルトキハ他ニ之ヲ正スノ場所ナシ然レモ之ヲ守ラスルハ實ニ難キヲ以テ必シモ之ヲ控訴スルノ場所ナシトハ言難シ

此理由ニ依リ下院ハ無規律ナリト判定スヘカラス若議員法律ニ定メタル不合格ノ場合ニ當ラス選舉人ノ望之ニ服シタルトキハ之ヲ以テ正當ノ選舉トナス

下院ニテ不合格トシテ議員ノ權利ヲ殺クヤハ下院ノ權限ヲ超ヘ選舉人ノ權利ヲ奪フトハナレリ此場合ニハ選舉人ヨリ被選舉人即チ議員ニ對シ勝スヘキナリ

立法官ニテ或ル報道員ハ議員躬ヲ議員トナルノ權利ハナ

キモ議員トナリタルモノヲ選フノ權アリト云然レトモ斯語ハ決シテ正當ノ語ニアラス  
斯ル報道員ノ語ハ不計シテ出テタルモノナレハ格別當然トシテ之ヲ言フモノトモハ選舉權ヲ無ニスルモノト謂フヘシ

資格ヲ調フルハ議員ニ選ハレタルモノ其資格ヲ備ヘタルカチ調査スレハ足レルナリ

選舉法律第十五條及第十六條ニ依リ候補者即チ被選者ハ我カ年齢及佛蘭西國人民タルヲ證明スルニ止マリ合不合格ノ如キニ至テハ自テ證明スルノ限ニアラス  
合不合格ヲ調フルハ關係ノ人若クハ委員又ハ下院ニ於テ他ノ報告ヲ得テ之ヲ證明スレハ足レリトス  
下院ハ總テ選舉ノ手續法ヲ調ヘ爭論ノ起ルヘキ投票ヲ省キ正當ノ投票ニア果シテ多數ナルヤチ調フルニアリ

下院ハ選舉人ノ望ミノ發表ヲ正當ノ順序ニ依リテ發表セシモノカ又ハ恐迫手段ニ出テタルニハ非サルヤチ穿鑿スベシ  
備考 此調ニ關シテハ下院ノ必ス注意シテ忘ルヘカラサルモノ

ハ此事ニ對シテノ裁判ノ役目ナレハ政事會議ト同一ニ視認シテ自由ノ働キヲ爲ストチ得サルニアリ  
議員ハ決シテ前ニ敵アルニ非ラス裁判ヲ請クルモノ、前ニ於テ裁判ヲナスノ任ナリ

議員ハ虚心平氣ニシテ良心ニ問ヒ政事上ノ敵意ヲ察マヌ裁判官ノ位置ニ居ラサルヘカラス

併シナカラ實事ニ就テ之ヲ見レハ我心ニ豫テ染ミ込ミタル事ヲ去リ己カ心ニ狹ム敵意ヲ出サ、ラントスルトハ實際ニ難キモノナリ

夫故ニ英國ニテハ議員ノ資格ヲ調フルトハ之ヲ裁判所ニ任セタリ之レ良例ニシテ模範トスヘキモノナリ何トナレ

ハ裁判權ヲ控訴スヘキ道ナク責任モナキトハ不正ニ渉ル  
眞機會ナレハナリ  
此場合ノ裁判結局ハ一日ノ事ニシテ非常ノ利害ヲ及ボス  
ヘキナリ

候補者ハ愈選舉會ニテ議員トナリニケ地方以上ノ議員ニ撰ハレタル  
トハ己レカ望ミヲ言ハサルヘカラス

備考 本文ノ場合若シ己レカ何レノ地方ノ議員トナルヘキヲ明

言セサルトノ處分ハ千八百五十二年二月二日ノ法律ニハ  
明示之レナシ然レトモ千八百四十九年三月十五日選舉律

第九十一條ニ依リテ其處分法ハ二重ニ撰ハレタル議員ハ  
議長ニテ抽籤ヲ以テ就任スヘキ區ヲ定ムルナリ

議長副議長書記ハ毎年通常會ノ始メニ議員中ヨリ之ヲ命ス尤之ヲ定  
ムル假會ハ出席者中尤モ年長ノモノヲ假議長ニ撰ヒ最モ若年ノモノ  
四名ヲ書記ニ撰フ

一度役員ノ定マリタル上ハ通常會臨時會トモ其全年ハ通シテ之ヲ勤  
ム是レ千八百七十五年七月十六日法律第十條ニ依ル

千八百七十五年二月廿五日憲法第三條ニ依リ大統領ハ法律ノ原案ヲ  
起草スルヲ得國會(上院下)ノ議員モ亦然リ又國會ハ政府ナキ場合ニハ  
政府ニ代リテ事ヲ執ルノ權アリ

上下兩院ノ規則ニ國ノ長即チ大統領ヨリ呈出スルモノハ法律按ト稱  
シ議院一個ノ呈出スルモノヲ法律建議按ト稱スルナリ

法律按ト建議按ハ呈出ノ手續同一ナラス法律按ハ議題タルヤ否ノ手  
續ヲ要セス建議按ハ議題トナルヤ否ノ手續ヲ踏マサルヘカラス

○上院

上院ハ選舉人ヲ以テ成リ立タル會ニシテ帝國即チ憲法君主政體ノ上  
院トハ其成リ立チ異ニス故ニ行政官ノ内ヨリハ議員ヲ選ハス上院ノ  
議員ハ一般ノ選舉ヨリ成リ立ツ之ヲ約言スレハ現今ノ上院ノ發リハ



普通選舉即チ下院ノ選舉ト其源チ一コスルモノナリ但上下兩院ハ俱ニ源ヲ一コスルモ下院ハ直接人民ノ望チ表シ之ニ依リテ成リ立チ上院ハ階級ヲ經タル復選ヲ以テ成リ立タルノ差異アルナリ  
三百名ノ議員ハ千八百七十五年二月廿四日ノ憲法ニ依リ左ノ二條ニ分テリ

第一 國會(併上下兩院ヲ合)及上院ヨリ終身官ニ命シタルモノ七拾五名

第二 特別ノ選舉會ニ依リ縣ヨリ命スル處ノモノ貳百廿五名此議員ハ九年毎ニ改選スルモノトス但其交代ハ三分ノ一宛トス

備考

上院ノ組織ニ就テハ三種ノ世評アリ第一終身官ナルモノハ選舉者ノ意想ヲ敢テ顯ミサルノ性質ヲ帶フルトナルナリ何トナレハ改選ナキニ以テ選舉者ノ意想ニ關シテ心配セス又政事ノ方針ヲ變シ多數ヲ得ルニ至ル然レトモ法

律ニテ之ヲ拒ムトハ出來サルナリト云是ナリ

第二上院ノ議員ヲ出ス割合ハ縣ノ大小ヲ斟酌セス概チ大小ノ縣ヨリ同一ノ議員ヲ出スト是ナリ

第三各邑ヨリ邑ノ大小ヲ問ハス上院ノ選舉會ニ代人チ一名宛出ス即チ巴里ノ如キモアルプ山地方ノ小邑ト均シキ代人ヲ出スト是ナリ

以上ノ事柄ヲ更正センニハ千八百七十五年二月廿四日憲法自第七條迄更正セスンハ能ハサルナリ

千八百八十四年八月十四日ノ法律ニテ憲法ヲ改正シテ前自第七條ノ事ハ普通ノ法律ヲ以テ更正シ得ルフトナリ愈之ヲ決行ノトハ全年三月九日ノ法律ニテ定マレリ

更正ノ法律ニハ終身官ノ議員ヲ廢シ將來ハ終身官ヲカラシメタリ但更正法律發行以前ノ終身官ハ依然存置セリ  
從前終身官マリシ七十五名ノ議員ヲ人口多キ縣ニ配當シテ選舉スル

トナレリ故ニ従前ヨリノ終身官中調員ヲ生スルノ場合ニハ人口多キ縣々ノ抽籤ニ依リ當籤ノ縣ヨリ補闕スルコトナレリ

議官ノ選舉會ヲ改正シテ各邑一人ノ委員ヲ出スコトナレリ然レトモ大邑ハ増委員ヲ出スモノトシ其數ハ邑會員ノ數ニ應スルモノトス此數ヲ増スハ尤モ人口ノ多寡ニ基クモノナリ

議官選舉ノ割合ハ人口ニ基クモノトス然レトモ必ス人口ノ多寡ニ必適スルニハ非ラス但一人ヲ出スモノ一縣、二人ヲ出スモノ十縣、三人ヲ出スモノ五十二縣、四人ヲ出スモノ十二縣、五人ヲ出スモノ十縣ニシテノール地方ハ八人セリス縣ハ十人ヲ出スナリ

千八百八十四年十二月九日法律第六條ニ依リ左ノ人員ヲ以テ組織スル選舉會ヲ縣ノ首府又ハ殖民地ノ首府ニ開キテ議官ヲ投票選舉ス

第一 下院ノ議員

第二 縣會議員

第三 區會議員

第四 每邑會ノ代議人

邑會ヨリ代議人ヲ差出スヘキ割合ハ如左

邑會議員ノ數	十人	十二人	十六人	廿一人	廿三人	廿七人	三十人	卅二人	卅四人	卅六人以上	巴里府
代議ノ數	一人	二人	三人	六人	九人	十二人	十五人	十八人	廿一人	廿四人	三十八人

佛國領ノ印度ニテハ區會ノ代リニ地方會アリ此地方會ヨリ代議人ヲ出スコトナレリ

地方會ヨリ五人カリカールノ地方會ヨリ三人共

千八百七十五年八月五日法律第一條ニ依リ邑會ノ代議人ヲ命ズルハ少クモ一月前ニ定メサルヘカラス

邑會ハ政府ヨリ布告ヲ以テ定メタル期限ニ之ヲ開クヘキモノトス

選舉會ハ之ヲ開クノミニシテ議場ヲ開クニアラス若議事ヲ開クモノトセハ口供ヲ作り委員ノ議ヲ記録セサルヘカラスト雖モ是等ハ法律ノ精神ニアラス只選舉ニ止マルヲ以テ此會ノ旨趣トス尤談話ノ間ニ

各員ノ事ヲ議スルハ此限ニアラス  
 第一及第二ノ選舉會ニハ全クノ多數ニ依リ(過半数)選舉ヲ相定ム若シ  
 全クノ多數ナキ場合ニハ第三ノ選舉會ヲ開キ單ニ多數ニ依リテ之ヲ  
 選舉ス此場合同數ナルトキハ年長ノモノヲ當選者ト定ム  
 邑會ノ代議人ハ本代議人ノ外ニ候補ヲ選テ其選舉方ハ上項ニ同シ此  
 候補者ハ本代議人ノ事故アル場合ニ之ニ代リテ選舉ノ事ニ與ラシム  
 候補ノ數ハ代議人ノ數ニ依リテ異ナリ但三人ノ代議人迄ハ一人ノ候  
 補ヲ選ヒ六人乃至九人ノ代議人ニハ二人、十二人乃至十五人ノ代議人  
 ニハ三人、十八人乃至廿一人ノ代議人ニハ四人、廿四人ノ代議人ニハ五  
 人、巴里府ハ八人ノ候補ヲ選フモノトス  
 代議人及候補ハ邑ノ選舉人又ハ邑會議員中(千八百七十五年八月二日法律  
 第二條及第四條ニ依リ議員中  
 區別)ヨリ選舉スルコトヲ得  
 備考 議員ニ區別ナレトハ邑ニ本籍アルト否トニ係ハラストノ  
 意味ナリ法律ノ精神ハ選舉名簿ニ上リタルモノ一般ヲ指

稱ス

邑會ニ就テ本籍又ハ寄留ノ如何ヲ問ハサルハ第一寄留者  
 モ其本籍ニテ稅ヲ拂ハサルヲ得サレハナリ第二邑會ノ議  
 員ニ舉ラレタレハ選舉スヘキ確カナル資格ヲ有スルモノ  
 ナレハナリ

下院ノ議員縣會議員及區會議員ヲ此代議人トシテ選舉スルコトヲ得ス  
 邑會ヲ解散シ臨時邑ノ委員之ニ代リ居ルノ場合ニハ代議人及候補人  
 ヲ選フニハ己ニ解散ノ邑會ヲ以テ選舉ノ事ヲナサシムルモノトス  
 上文ノ選舉ニ關シ告訴スヘキ場合ニハ三日間ニ告訴スルコトヲ得  
 選舉會ノ手續キチ不當ト見認ムルトキハ縣令ハ之ヲ無効トナスノ權  
 チ有ス  
 選舉ニ關スルノ告訴ハ縣ノ參事會ニ於テ判定スヘシ但參事院ニ告訴  
 シタル後ハ參事會ノ與ルヘキ限ニアラス  
 代議人ノ選舉ニテ法律ノ定メタル資格ヲ定メサルカ手續キチ不完全

ノ事アリテ代議人ノ資格ニ適ハサルモノアルハ候補人代リテ代議人トナルベキモノトス  
選舉ノ手續代議人又ハ候補人ヲ選フニ就キ不完全ナルカ或ハ候補人ニシテ法律ヲ以テ定メタル資格ヲ備ヘサルトキハ再ヒ邑會ヲ開キテ更ニ選舉ノリヲナス

備考

斯クノ場合ニハ總テノ手續ヲ急速ニ進ハサルベカラス固ヨリ參事會又ハ參事院ニ於テ縣令カ再ヒ選舉法ヲナスヘキ猶豫ヲ見込ヨテ其決定ヲ速カニセサルベカラス  
斯ノ選舉ニ就テハ往々遲滯ノ例アリ何トナレハ一人ノ代議人ニ關シ參事院ニ訴テナスノ場合ハ總テ代議人ノ資格調ヲ停止セサルベカラスレハナリ  
選舉ノ性質ハ一人ノ多數ニテ定マルモノニシテ控訴ハ參事院ヲ以テ最上地トスレハ之ヲ他ニ控訴スルヲ得ス且控訴ノ爲メニ資格調ヲ停止スルモノナレハ之ニ加フルノ控

訴ノ場所即チ時間ヲ與フベカラス

代議人定マリテ後八日間ニ縣令ハ邑會ヨリ呈出ノ口供ニ隨ヒ選舉ノ結果ヲ示シタル表ヲ作り之ヲ議ラント欲スルモノニ通知シ或ハ公告スルヲ得選舉人ハ縣廳ニ就テ邑會ニ分チタル選舉人ノ表面覽觀ノリヲ請求スルノ權アリ其區中ニアルモノハ之ヲ區ノ廳ニ就キ同上ノ權アリ

法律ハ選舉ノ監督ヲ充分ニナスヘキ爲メニハ控訴期限内ニ於テ必用ノ徵証ヲ要求スルヲ得セシム  
代議人治定セハ縣令ハ代議人ノ表ヲ作ルノ材料ハ集マルモノニシテ表ヲ製スルニ遲延スヘカラス併チガテ製表ノ整頓ハ可成猶豫スヘシ是レ選舉人中往々更正等ノ申立アレハ斯ノ表面ノ整頓ハ上院議員ヲ選フヘキ定日ノ八日前迄ニナスヘシ  
此表ハ「アベレ」ノ順序ニ依リ之ヲ製シ覽觀要求者ニ之ヲ通牒シ又ハ之ヲ公告スルヲ得

備考

選舉人資格ニ就キ争ヒノ起リ其裁判ノ未決ナル場合ニ選舉人ヲ斯ノ表ニ上スルカハ千八百七十五年八月二日法律第十條ニ依リ下院ノ議員、縣會議員、及區會議員ニシテ上院議員ノ選舉ニ當リタルモノハ其資格ノ調チヲサスシテ上院議員ノ候補者ノ表面ニ上セ置クナリ

邑會ノ代議人ニテ選ハレタル場合モ亦上文ノ手續ニ依ルニ選舉表ニハ總テノ選舉人ヲ表面ニ上ス假令資格ニ就キ苦情アリトモ選舉ノ前日迄ニ登録ヲ不可トスルノ裁判ナキトキハ選舉ヲナスコト得

上表スカヘラサルト判決ノ場合選舉權ナキモノニシテ投票シ多數ノ權ヲ與ヘタリトモ之ヲ除却セサルヘカラス然レハ一人ノ爲メニ多數ノ動クハ屢アルコトナリ

故ニ多數ニ決スルハ投票權ノ有無ノ結果ヲ待ツモノナリ何トナレハ少數ノ差異ナルトモ之カ爲メ選舉ノ定マルコト

アレハナリ若争訟ノ結果選舉權ナキモノ相加リ多數ト決シ居リタル場合ニハ選舉會ハ無効トナルナリ尤争訟ノ結果ヲ待シテ上院ノ議員ニ選舉セラルヘキ資格ヲ上院ニテ之ヲ調査スルモノナレハ其争訟者ノ爲メニ多數ニ關セサルキハ選舉人ノ争訟ハ無効トナルナリ

上院選舉ハ選舉會ノ布告セラレタル當日ニ之ヲ開キ會長ハ裁判長之ニ當リ事故アルトハ副裁判長之ニ代リ猶事故アルキハ任官ノ先キナル裁判官之ニ代ル

開場ニ現在ノ選舉人中最モ年長ノモノ二名最モ若年ノモノ二名ヲ選シテ會長ヲ助ケシム其四名ノ中一名ヲ書記ニ選フ

備考

千八百七十五年八月二日ノ法律ニ依リ裁判官ニハ開場ノ議長タルコト即チ法律ノ定メタル權ノモチ任セ裁判長ノ職務ハ選舉ノ當日ニ在テ定マルモノナレハ選舉場所ノ已ニ定マリタル後ニ就職スヘキモノト謂フヘシ縣令ハ縣内行

政ノ長官カレハ開場ヲ選フノ權ハ縣令ニアリ場所ヲ選フ  
 ハ行政ノ處分ニ屬シテ他ノ與ルヘキモノニ非サレハナリ  
 開場ノ取締ハ裁判長ニ屬ス選舉ノ當日ニハ選舉ノ自由ニ  
 必用ナル事柄ハ裁判長自ラ其手配ヲナス  
 裁判長ハ戸ノ開閉ヲ命スルヲ得是レ往々出入者ノ爲メ  
 ニ混雜スルヲアレハナリ  
 場内ノ秩序ヲ紊ラサル爲メ必用アレハ當日ニ限り戸ヲ締  
 切トナスヲ得  
 故ニ開場ハ縣令ヨリ裁判長ニ協議シテ定ムルヲ通常トス  
 稀ニハ縣令自ラ選ミテ裁判長ニ通知スルヲモアリ  
 選舉ノ結果ハ即日成就ス必用アレハ同日三度迄ハ選舉會ヲ開クヲ  
 得レハナリ  
 第一會ハ午前八時ヨリ十二時ニ終ル第二會ハ午後二時ヨリ第四時ニ  
 終リ第三會ハ六時ヨリ八時ニ終ル

第一第二ノ會ハ全クノ多數ヲ要ス若二會迄ニ全クノ多數ヲ得サルト  
 キハ第三會ヲ開キ比例多數ニテ之ヲ定ム  
 議長ハ多數ヲ得タル被選舉者ヲ布告ス然レトモ實際ハ時ニ依リ選舉  
 ノ定マラサルヲアリ何トナレハ選舉律第十五條ニ依レハ第一第二ノ  
 選舉ニ左ノ二項ヲ併有セサルモノハ職官トナルヲ得サレハナリ

第一 選舉投票全クノ多數

第二 名簿ニ記載セル選舉人ノ四分ノ一ニ均シキ數

第三會ニハ比例ノ多數ニ依リ選舉セラル若同數ナルハ年長ノモノ  
 其選ニ當ルモノトス

備考 本文第三會ニハ比例ノ多數ニテ足レリト云ト雖モ法律ハ  
 單ニ比例多數ニテ定ムト云ハス第三會ト雖モ第一第二會  
 ノ選舉ノ知シ選舉人四分ノ一ノ選舉多數ヲ得タルモノヲ  
 合格ト云ニアリ  
 選舉ノ結果ヲ得ザル場合トハ選舉人中投票セサルモノア

ルハ第三會ト雖モ選舉ハ定マラサルヘシ併シ此想像ノ如キ實事アリシヲナシ畢竟稀ナル場合ニ止マレハナリ何トナレハ若シ選舉人ニシテ投票チ好マサルノ場合ニハ候補者代リテ投票チナセハナリ然レトモ候補者モ亦投票チ好マサルノ場合ヲ想像スルヲアルヘント雖モ是等代議人ニシテ正當ノ理由ナクシテ投票セサル場合ニハ五拾法ノ罰金ヲ科セラル或ハ事故アリテ候補者ヘ報知セサルモ亦全上ノ罰金ヲ科セラル又候補者ニシテ代議人ヨリ手紙ナリ電報ナリノ報知チ得テ臨場セサルモ亦全上ノ罰金ヲ科セラル尤投票チナサ、ル場合罰金ヲ科スヘキトノ精神ニ依リ旅行手當チ紛ヌ即チ臨場セサルチ得サルモノトセリ

議官ノ任期ハ九年ニシテ每三年ニ三分ノ一ヲ改選ス議官總改選ノ後之ヲ三部ニ分ツ即チ每部七十五名ヲ含有ス各部ヲ定メルニハ縣名ノ

「アベセ」コト部分ケテ定メタリ改選ノ順序ハ當初抽籤ニ依リ爾後ハ其順ヲ逐フテ改選レ第一ノ當選部ハ三年其他ハ六年又ハ九年ノ改選ニ當ルナリ

備考

第一部ハ千八百七十六年一月三十日ニ選ハレ千八百七十九年ノ一月三十日迄ハ其職ニ居ルヘキナリ然ルニ其改選ハ全年一月五日ニセリ此改選ノ布告ハ憲法ノ定メタルモノニ均シカラス憲法(千八百七十五年二月廿四日法律第六條)ハ任期ヲ九年トシ每三年ニ三分ノ一ヲ改選スト云ヘリ然ルニ憲法ニ依ラサルチ不當トセサルハ其通常會ヲ三回經タレハナリ抑上院ノ三年ト稱スルモノハ普通滿三ヶ年ノ月日ヲ以テスルニ非スレテ三年度ノ經買チ議スルコトアリト辨スルモノアリ

此説明ハ巧ナリト雖モ上院ハ經濟上ヲ議スルノ外ニ他ノ法律ヲ議スルノ職ナリ大藏ノ經濟ノ事ニ就テハ上院ノ實

力ハ誠ニ薄弱ナリト云ト雖モ上院ハ通常會ナリ臨時會ニ於テモ其職務ヲハ充分ニ盡セリ若三ヶ年間ノ就職ナルニ三度經費ヲ議セハ可ナリト云ハ、其任期ハ短キトハナラナリ例ハ千八百八十三年十二月一日ニ選ハレタル議官同月ニ千八百八十四年ノ經費ヲ議シ千八百八十四年ノ八十五年ノ經費ヲ議シ千八百八十五年ノ三月ニ八十六年ノ經費ヲ議スルトモ一ヶ年四ヶ月内ニ經費三年度ヲ議スルヲ得此場合ニ於テ議官ハ三年ヲ已ニ經過セリ之ヲモ改選スヘシト云得ヘキカ此理由ハ九年ノ改選ニモ之ヲ適用セラルヘシ法律ノ文面上年ト云モノ、自然ノモノヲ取除ケハ人々適宜ノ思想ニ任スルノ外ナキニ至ル此法律ヲ犯シタルハ誠ニ残念トス殊更ニ残念トスル所以ハ他ニ訴フル處ナキノ地位ニテノ事ナレハナリ政府ハ一旦選舉ノ日ヲ定メタル上ニ其布告ヲ改メサルヨリハ之ニ隨テ施行

セサルヘカラス若政府布告ノ通施行セサルトキハ之ヲ如何スヘキヤ政府ハ其布告通りニ施行セサルノ責任ハ自ラ之ヲ帶フルナレバ此場合ニハ世人之ヲ説明スヘキコトアルニ併ナガラ政府ハ數多ノ信據ヲ得上院ハ政事上第一ノ關係ヲ持タサルヲ以テ政府ヲ覆スト云フノナキハ責任アリト雖モ責任ニ効アルノ保證トハナラサルナリ其他内閣ヲ作ルハ上院ニテ組織セシテ下院ニテ組織スルコトアラズヤ

毎縣ノ議員ニシテ議員アルトキハ千八百七十五年八月二日ノ法律第廿三條ニ依リ補關選舉トシテ三ヶ月以内ニ選舉セラルヘカラス選舉ノ撰定ヲ無効ト認メタル補關ノ改選ハ其自由ニ任セラルヘカラス

備考 同一ノ選舉會ニテ選舉スルコトヲ得レハ其期限ヲ短縮セル



議官ノ資格ト他ノ公務ヲ奉シ俸給ヲ仰クノ職務ヲ併務スルヲ得  
備考 一切官吏ヲ兩議院ヨリ除却セシトセハ經驗及智識アルモ  
ノヲ議員ニ入レシメサルコトナルナリ

法朗西人ノ公務ニ奉職スルヲ望ムコトハ態度カ人ノ論シタ  
ルニ非ラスヤ世評ニテハ佛國人民ノ過失ナリト云ヒ内外  
國人ノ誹評ヲモ請ケタルコト非スヤ果シテ此世評ヲ正當ナ  
リトセハ公務奉職者ハ國民中器量アルモノ、編譯ナルヤ  
議ルヘシ若兩院ヨリ官吏タルモノヲ排除スルコトモハ蓋  
シ智識ナク權力ナキモノトハナルヘシ  
然ル場合ニハ兩院ノ議官議員ハ地主、工業者、新聞記者、或ハ  
代官人ヲ以テ組織スルニ至ラン如斯クハ専門家ハ多ク此  
門ニ入ルヘカラス若之アリトスルモ既往ノ官吏ニ止マル  
ヘシ既往ノ官吏トハ多クハ年老ヒテ退隱シ最早舊同僚ト  
ハ交際モナク日々改進黨ニ世ノ有様ヲ諷ヲサルモノヲ言

コナリ

若官吏ヲシテ同權同一様ヲシムヘキトノ趣意ヨリシテ  
上下兩院同一ノ仕組トナレ官吏ヲ除却スルトセハ徒ニ立  
法官ノ智識ノ度ヲ降下セシムルモノナリ下院スラ官吏ノ  
加ハルハ實ニ必用ナラン然ルニ之ヲ去ルトセハ上院ト官  
吏ノ間ヲ隔離セシムルニ失スルナリ

故ニ官吏ハ現職ヲ以テ上院議官ニ選任セラル、コト得加  
之官吏ノ議官ニ撰ハレタルモノハ二様ノ俸給ヲ併受スル  
コト得ルコトナレリ

千八百七十五年八月二日法律第廿六條ニ依リ議官ハ下院ノ議員ト同  
數ノ俸給ヲ請フ

備考 千八百七十五年十一月三十日ノ法律第十七條ニ依リ下院  
議員ノ手當ハ千八百四十九年三月十五日ノ法律第九十六  
條及第九拾七條千八百七十二二年二月十六日法律ノ項目ニ

依リ之ヲ定ムルコトセリ  
 前條掲タル所ノ法律ニ依レハ千八百七十二年二月十六日  
 ノ法律ニ依リテ俸給及手當ヲ併受スルコトハ上院議員ニモ  
 適用スルモノト見ユ  
 上院下院ハ國會ノ部分ニシテ俸給及手當ヲ併受シ得ルト  
 リ性質ニ據ヘタル時節ハ國會ハ一體ナリシ時ナリ  
 法律家ノ言ニ依レハ上院議員ノ手當ヲ受ル金額ヲ下院  
 員同一ニスルコトハ下院ト上院ノ間ニ一様ニスヘキトシ精  
 神ヲ持込過シタリトセリ  
 官吏ノ中ニ例外ニ下院ノ議員タルコトヲ許サレタルモノハ  
 其職務顯要ニシテ俸給モ亦盛ンナリ故ニ手當及俸給ヲ併  
 受スルコトヲ禁ズルハ至當ナリトス  
 然レニ上院ニ在テハ總テノ官吏之ニ選ハルル事ヲ得レハ  
 僅少ノ俸給ヲ抑キタルモノ少カラス

上院ノ議員ニ選ハレタルモノ、俸給ヲ除却スルトハ何ノ  
 理由アリテ然ルカ其理由上院議員ニ選ハレタルトキハ補  
 關ノ官吏ヲ選ハルルニアルカ又候補者ノ俸給ハ官吏ノ俸  
 給上ヨリ之ヲ扣除スルカ如斯ハ不當ノコトト謂ヘシ  
 官吏ニシテ現職ヲ奉シナカラ上院ニモ出務シテ俸給ヲ請  
 ヲサルカ或ハ手當ヲ受クサルニ至ルナリ  
 巴里ニ於テハ官吏ノ中ニテ上院ニモ出務シ他ノ公務ヲモ  
 盡シ居ル官吏幾干モアリ何故ニ官吏ノ俸給ハ已レカ勞力  
 ノ報酬ナルニ之カ爲メニ手當ヲ給セサルノ理アルヤ是レ  
 代官人醫師地主等ニハ手當ヲ給スルニ非スヤ  
 上院議員ノ資格ハ千八百七十五年八月二日法律第廿條ニ依リ議員ノ  
 職ト他ノ公務ノ兼務ヲ許サ、ルモノハ如左  
 一 參事院議員及議員補、縣令、區長  
 但セ、縣令及警視總監ハ此限ニアラス

二 控訴裁判官及裁判所ノ檢事  
 但巴里控訴裁判所ノ檢事長ハ此限ニアラス

三 收稅長及收稅官其他中央政府ノ諸官吏  
 但官吏ハ選舉セラレ、トチ得ストニハ非ラス政務ノ現職ト議官ト  
 併務スルヲ得サルコアリ尤職務柄ノ或ル部分ニ依リテ選舉人ノ自  
 由ヲ左右スルノ權アル場合ニハ選舉セラレ、トチ得ス(法律第廿一條  
 ニ依リ)

法律第一條ニ依リ左ニ舉グル處シモノハ其管轄ノ縣或ハ殖民地ヨリ  
 シテ現職奉職中及其職ヲ辞シ或ハ免職又ハ住所ヲ更ヘ其他ノ事故ニ  
 テ現職ヲ退クモ退職後六ヶ月内ハ職官ニ選ハル、トチ得ス

第一 控訴裁判所長、全副長、控訴裁判所檢事及其他ノ裁判所檢事  
 第二 始審裁判所長、全副長及豫審裁判官  
 第三 警視總監、縣令、區長、縣ノ大書記官、內務省局長、殖民地ノ大書  
 記官

第四 技監、區ノ技師、道路監察長  
 第五 大學區總理、全監督官  
 第六 小學監督官  
 第七 中教正、小教正、大講義  
 第八 海陸軍士官  
 第九 會計監督、全主計官  
 第十 主稅長、主稅官  
 第十一 間稅官、公証官、官有地官、驛遞事務官  
 第十二 山林保護官、全監督官

備考 以上ノ各項ト下院ノ選舉律第十二條トハ僅ニ差異アリ即  
 チ陸海軍及會計官ハ下院ノ如ク第十二條ニハ加ハラスト  
 雖モ全律第七條ニ常備陸軍々人ハ選ハル、トチ得スト證  
 明セリ即チ本文第八項ハ之ニ依ルモノトス其精神タル選  
 ハレサル方一般トナレリ故ニ選舉會ハ己レノ管轄地ニア

ルノ有無ヲ問ハス選ハル、ノ權ナキモノトス但上院ニ在  
 テハ選ハル、ヲ得サル一ハ一地方ニ止マレ下院ニテハ  
 一般ニ選ハル、ヲ得サルナリ  
 又裁判官ハ下院ノ議員トナルニハ其管轄内ニテハ選ハル  
 、ノ權ナシト雖モ上院ニ在テハ一地方ニ止マルノ制限ハ  
 軍ニ豫審裁判官ニ止マレリ  
 中教正ハ其職分トシテ其管轄内或ハ直轄ノ教区内ニ於テ  
 選ハル、ノ權ナキカ若職柄トシテ選ハレサルモノトセハ  
 管轄内ニアル數區ハ全ク之ヲ選フヲ得サルナリ中教正  
 ノ職柄ヨリ論セサルキハ一教区内ニ止マルモノナリ考按  
 ニ依レハ直轄ノ教区内ニ止マルモノナルヘシ即チ其一教  
 区内ニテハ中教正ノ勢力ヲ充分ニ施スヲ得レハナリ中  
 教正小教正トノ關係ハ僅少ニシテ其關係ハ小教正ノ中教  
 正ニ對シテ控訴ヲ起スヲアルノ關係ニ止マル之ヲ要スル

ニ小教正ハ己カ教區ニテハ獨立ノモノニシテ猶中教正其  
 教区内ニ於テ獨立セルモノト殆ント同一ナリ  
 控訴事件ハ僅少ノ數ナリ之ヲ除外ハ中教正ハ小教正ノ  
 事務ニ立入ルヘキ權ナシ故ニ法律ノ欲スル處ハ僅正ノ權  
 ナリ以テ投票ノ自由ヲ妨ケセシメサルノ點ニアリ  
 千八百八十四年十二月九日ノ法律下院議員ノ選舉律ニ據リ軍人ノ被  
 選舉資格ヲ定メテ其第五條ノ目的ハ軍人ノ資格ニテ議員ノ職ヲ併  
 有スルヲ能ハサルニ點ヨリハ議員ニ選ハレサルモノトノ事ヲ趣意ト  
 セリ  
 其第五條ニ陸海軍人ハ議員ニ選ハル、ヲ得ス但左ニ舉ルモノハ此  
 限ニアラス

第一 陸海軍ノ大將

第二 參謀艦員第一部隊ノ制限ナキモノニシテ司令權ヲ有セザ  
 ル將官

第三 總參謀總長第二部ノ將官并準將官

第四 陸海軍々々入ニシテ常備軍ノ豫備又ハ後備軍ニ屬スルモノ  
其他選ヘルヘキ權ナキモノハ全法律第四條ニ示ス全條ハ千八百  
八十四年八月十四日法律第二條全一ノモノニシテ佛國ヲ統御シ  
タル王族ハ上院議員トナルヲ得スト定ム猶大統領トナルヲ得  
得サルカ如シ

法律起按權ノ上院ヲ屬スルヲ猶下院ニ於ケルカ如シ  
政府法律按テ提出スルハ政府ノ考按ニ依リ議事ヲ上院又ハ下院ノ  
何レヨリニテモ始ムルヲ得但千八百七十五年二月廿五日法律第八  
條ニ掲グルモノハ此限ニテラス

備考 即チ第八條ニ曰ク上院ハ下院ト均シク法律ノ起按及法律  
ノ組立ヲナスヲ得然レトモ經濟ニ關スル法律ハ第一ニ  
下院ニ提出シテ下院ノ投票ヲ得ヘキモノトス  
經濟ニ關スル法律トハ翌年ノ經費歲入歳出及前年度精算

ノ事ヲ云猶其語ノ中ニハ臨時經費補關經費ノ事ヲモ含蓄  
ス又此語中ニハ新稅ヲ起スカ或ハ舊稅ヲ變更スルヲノ議  
按迄ヲ含蓄セリ

第八條ニ依リテ經濟ニ關スル法律ニ就キ上院ノ權限ニ混  
雜ヲ與ヘ未ダ其事判然セス下院ニテ扣除シタル經費ヲ上  
院ニテ加フヘキヲ毎年提出セリ下院ニテハ上院ニ於テ  
經濟ニ關スル議ヲ左右スルノ權ヲ許サズ通常報道員ノ言  
フ處ニ依レハ權利ニ於テモ實際ニ於テモ下院ノ投票ニ依  
リタル議決ヲ變更スルヲ許サスト云

前陳ノ語中ニハ憲法ノ法理曖昧トシテ顯ハレズ併シ其道  
理ニ基ケハ下院ニ於テ變更ヲ呈出スルノ權アレハ固ヨリ  
上院ニ於テモ經濟ニ關スル投票ハ成シ得ヘキ筈ナリ  
然ルニ第八條ニ依レハ第一條下院ニ於テ投票スルヲ要  
スト因之想之ニ法律ノ原文ニ言辭ヲ添ヘサルヲ得サルハ

判然ナリ法律文面ニ依レハ經濟ニ關スル法律ハ上院ニ呈  
 出スル以前ニ之ヲ投票スヘシト云併シナカラ此法律全體  
 ナ下院ニテ議シタル後何等ノ變更ヲ加ヘサルトノ事ハ文  
 面ニ著ハレヌ  
 法律ヲ制定シタル者ト雖モ上院ニテ改正ヲ加ヘ或ハ下院  
 ニレテ現行法律ノ施行ヲ妨ケタリトノ言辭等ニ就キ意見  
 ヲ述フルトテ得サルトノ精神ナリトシテ許スヘキニ非ラ  
 サルヘシ是等改正ヲ加ヘ法律ヲ更正スルトテ言フテ禁ス  
 トハ道理ナキモノナリ何トナレハ上院ニテ加ヘタル改正  
 ハ之ヲ下院ニ出スヘキモノナレハナリ下院ハ毎ニ之ヲ諸  
 セサルヲ得ルニ非スヤ  
 要之ニ本院ノ中經費ノトニ關シテハ其權下院ニアレハ其  
 改正變更ヲ拒マサルモ下院ノ權ヲ害セサルヲ以テナリ  
 若新稅ヲ課スルノ法律ニシテ經濟ニ關スルモノナレハ無

論上院ハ新稅ヲ課スル方法ニ就キ改正接テ提出スルヲ得  
 サル迄ニ至ルニ非スヤ  
 憲法ニ依レハ經費ヲ議スルハ先ツ下院ニテ議スヘキモノ  
 ナレト上院ニテ改正ヲ加フノ權ヲ制限スルノ精神ニハ非  
 サルナリ  
 上院ヨリ經費ニ改正ヲ加フルトハ即チ上文憲法ノ精神ニ  
 依ルモノナリ尤モ經費ノトニ關シテハ等ヒノ甚シキニ至  
 ルヘシトレテ上院ニテ經費ヲ改正スルノ權ヲ用ル否ヤハ  
 上院ノ考接ニアリトスルニ外ナラス  
 若現行ノ法律ヲ施行スルニ就キ必用ノ經費ヲ下院ニテ刪  
 除或ハ減額ノキ上院ニテ此經費ヲ起スノ場合ニハ上院ハ  
 憲法ヲ犯シタルモノニアラスルヘイハル氏千八百七十五  
 年憲法論ヲ顯シタル其第四百九葉ニ經濟ニ關スル法ト  
 ハ歲出入ニ係ル法律ニシテ若上院歲出法律ヲ改正スルノ

權限ナシト云ハ、歳入ノ法律ヲ改正スルノ權限モナキ道  
 理ナリ下院ハ毎ニ改正按テ可決セサルノ權アリト雖モ新  
 ニ課スル議件ニ就テ下院ニ對シ意見ヲ呈出シ得サルト上  
 院ノ權ヲ制限スルノ所以ハ何レニモカ要之ニ上下兩院  
 ノ權限ハ均一ナリ其異ナル處ハ經濟ニ關スル事件ハ先ツ  
 下院ヨリスルト云フニアルノミトス經費ヲ可決セス或ハ  
 之ヲ減スルノ權ヲ上院ニモ具有スルハ爭ヘカテサルモノ  
 ナリ  
 法律ノ條項ヲ可決スルハ兩院ノ承諾ハ固ヨリ必用ニシテ  
 決議ノ下ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有スルモノニ歸ス上院ニ  
 シテ歳入ノ法律ニ就キ改正按ヲ呈出シ得又經費ヲ減シ變  
 更スルコトヲ得ヘキ以上ハ何故ニ上院ニ不充分ノ經費  
 増シ又扣除セシ經費ヲ加フルトノ事ヲ許サ、ルノ理ア  
 りヤ

法律ヲ廢スルコトハ上下院兩議ノ合シタル時之ヲ廢シ得ル  
 モノナリ兩院ノ内何レトモ現行法律ヲ施行スルニ必用ナ  
 ル經費ヲ與ヘスシテ廢止法律ノ如クニナスコトヲ許サス  
 如斯ハ權限ヲ超ヘ憲法ヲ犯ストトハナルナリ即チ法律ヲ廢  
 止スルニハ兩院協議ノ上ナラテハ廢法律トスルコトヲ得サ  
 ハレハナリ  
 併兩院トモ君主ノ如キ即チ無上ノ權ヲ有スルモノナレハ  
 兩院ノ外ニ兩院ヲシテ憲法ノ外ニ出サラシムルコトハ能サ  
 ルナリ  
 因之兩院ノ中ニハ經費ヲ與ヘスシテ現行法律ノ施行ヲシ  
 テ廢止法律ノ如クナレタル事屢ナリ  
 シウ及サンロニ、郡廳ノ經費ヲ省キタルハ此兩部長ヲ廢  
 止スルノ法律發表圖ナリ

議ニ新聞條例ノ事ヲ論シタル中議員ハ議場ニ於テ演說ヲナシ或ハ

兩院ノ内何レカノ命令ニ依リ印刷書類ニ就キテハ新聞條例ニテ束縛セラル、コトヲ言ヘリ

此場合ヲ以テ單ニ新聞條例ニ束縛セラレサルヲ云フニ止マラス其第十三條ニ意見投票ノコトニ就テハ裁判ノ與ルコトヲ得ストセリ

千八百七十五年七月十六日ノ公務ニ關スル報道律ノ第十四條ニ關シ中何レノ院ノ議員重罪或ハ輕罪ニ係ルモノト雖モ議員ノ許可ヲ得サルトキハ之ヲ取押セルコトヲ得ス

但現行犯ハ此限ニアラス

備考 重罪トハ重罪裁判ニ持出スヘキ事柄ニシテ他ノ裁判ニ於テ裁判ヘスキ事柄ヲ言フニテラス

故ニ違註罪ノ如キハ議院ノ許可ヲ得スシテ取押フルコトヲ得ルノ道理ナリ因テ數日ノ拘留ヲ命スルコトヲ得ルナリ

議員ヲ取押ヘルハ爲メ許可ヲ得キハ只開場中ニ止マルナリ其他ハ司法權ヲ自由ニ行フコトヲ得テ議官議員俱ニ其罪ヲ申渡シ禁錮ス

ルコトヲ得然レモ開場中ノ本人ノ出席ヲ必用トスルコトヨリシテ法律ハ此必用ヲ第一トシ他ノ處分ハ之ニ讓レルナリ又議員ハ開場中(開場時又ハ開場期)ハ禁錮ヲ免ストコトヲ得(千八百七十五年七月十六日法律第十四條第二項)

兩院トモ開場ノ期日ハ同一ナルヲ要ス之ヲ各別ニ開場スルコトヲ嚴禁ス(千八百七十五年七月十六日法律第一條及第四條)

但上院ニシテ高等裁判ノ性質ヲ以テ開場スルコトハ此限ニアラス(千八百七十五年七月十六日法律第十四條及第十二條及)

兩院ノ會議ハ公會即チ傍聽ヲ許スモノトス但規則ニ依リ定メラレタル或チ若干議員ノ需メニヨリテ秘密會ヲ要スル場合ハ此限ニアラス

備考 上院規則第四十五條ニ依リ五人ノ申立ニ依リテ秘密會ヲ開クモノトス尤五人ノ請求アリト雖モ直ニ秘密會ヲ開クコトヲ得ス秘密會ヲ開カントスルニハ先總議員ノ意見ヲ聞カサルヘカラス而シテ秘密會議ハ法律ニ示スカ如キ議事ニ

アラスシテ直ニ其當否ヲ決ス



兩院ノ議長ハ各自ノ議院内外ノ安全ヲ保持セサルヘカラス千八百七十九年七月廿二日共和大統領及兩院議長ノ巴里居住ニ關スル法律第五條ニ依リ大統領及議長ニ直チニ兵ノ臨場ヲ需ムルノ權ヲ與ヘタリ總テ士官ハ其需メニ應スヘキノ義務ヲ負擔ス若之ニ應セサルハ法律ニ依リ定メタル處ノ罪ニ處ス

兵ノ臨場ヲ需ムルノ權ハ自ラ之ヲ施行スルヲ得或ハ之ヲ「ケスト」ル(下院議員中ヨリ撰)ニ委任スルヲ得

備考 兵ヲ需ムルノ權ニ就テハ種々議論アリキ論者ハ之ヲ許スハ軍事上ノ規律ヲ亂ルナリト云軍人ナルモノハ軍ニ長官ノ命ヲ奉スルニアレハ順序ヲ逐フテ結局陸軍卿ノ命ヲ奉スルニ止マルト云我輩ノ考フ處ニ依レハ此條項ハ平穩ノ時ヲ爲メニ作りタルモノニ非ラス故ニ平時ニ在テハ此事ニ關シ陸軍卿或ハ卿ノ代理人ト協議スルハ容易ナリ然レトモ政府ヨリ議員ノ獨立或ハ威存ヲ犯スル若モ陸軍卿其

黨派ニ加ハルハ陸軍卿ヨリシテ如何ナル助ケヲ得ヘク  
若大統領或ハ議長ニシテ直チニ兵ヲ要求スルヲ得スト  
セハ如何シテ議院ノ安全ヲ保テ得ヘキヤ

○國會

上院下院ヲ合シテ國會ヲ作ルハ左ノ二箇ノ理由ニ依ル

- 第一 大統領撰舉
- 第二 憲法改正

備考 大統領任期終ラントスルハ大統領職空位トナルノ日チ前知スルハ易キヲナド

大統領ノ權ヲ他ニ移スヘキ便宜ヲ得ル爲メニ任期七年ノ終リニハ一ケ月前ニ兩院合シテ國會ヲ作ルヲ法律ニテ要スル處トナレリ  
政府ヨリシテ兩院ノ會議ヲ命セサルトモハ大統領ノ期限滿期十五日

前ハ断然兩院合シテ會議ヲ開クヲ得  
 大統領辭職或ハ死亡其他ノ原因ニ依リテ空位ナルキハ國會ハ直チニ  
 開議スルハ勿論若空位ノキニ當リ下院解散中ナルキハ直チニ撰舉會  
 チ催シ上院ハ新大統領撰舉迄ハ無論開場スルモノトシ行政官ノ職務  
 ハ内閣會議ニ於テ之ヲ爲スモノトス(七千八百七十五年二月廿五日法律第四條)  
 國會ニハ役員ヲ命ゼス國會役員ハ上院ノ役員ヲ以テ之ニ充ツ(七千八百  
 年七月十六日法律  
 第十一條第二項)  
 國會ハ憲法改正ノ爲メ之ヲ開クヲ得但憲法第八條ニ曰ク兩院ハ大  
 統領ノ要求ニ依リ又ハ議院自ラ開場シテ議事ヲ各別ニ開キ各自ノ全  
 シ多數ニ依リテ憲法ニ改正スヘキ理由アリト申立ルヲ得而シテ兩  
 議院各自決議ノ後兩院合シテ國會ヲ作り改正ノヲ決議スルモノトス  
 憲法改正ハ其全部或ハ一部ノ改正ニ止マルモ國會議員ノ多數ヲ以テ  
 議決スヘキモノトス

備考

此條ノ意味ハ世人ニ據ニ解セリ一ハ兩院各自改正ノ理由

アリト決スルニ止マリ其決ヲ取ル以上ハ國會ハ最上權チ  
 有スルモノニシテ全部或ハ一部ヲ改正スルヲ得尤國會  
 チ開カスモ濟事アリ然レモ開ク以上ハ國會ハ立法官ト全  
 權チ有ス何トナレハ國民一般ノ代理者ヲ以テ成立モノナ  
 レハナリト一ハ國會ノ議スル事柄ハ兩議院各自開場シテ  
 其議場ニ於テ議シタル條ニ就キ之ヲ議スルニ止マル此趣  
 意ニ依テキレハ憲法全體ヲ變更シ或ハ上院又ハ下院ニテ  
 憲法ノ一部ノ改正ヲ好マサルキト雖モ憲法ヲ全ク覆ス  
 チ得ヘケン斯ル大ナル變更ヲ來スノ恐レヨリシテ改正チ  
 ナスヲチセスシテ止ムニ至ル何トナレハ斯ル大變動チ起  
 スヨリハ之ヲ妨ケサルチヨシトシ居レハ總テノ改正ニ着  
 手セザルチヨシトスルニ至ルヘシ  
 國會ノ權利ヲ妄リニ大ニスルトキハ遂ニハ其權利ヲ殺カ  
 サルチ得サルニ至ルヘシ此事柄ニ就テ實行セシハ第二ノ

説ニ由レリ  
 千八百七十九年六月ニ國會ヲ設ケテ政府ヲヘルカニヨ  
 リシテ巴里ニ移ストテ議シタリ其際ノ議事ハ憲法第九條  
 ニ止マリテ他ノ事ニハ及ハザリキ  
 併レナカラテ議院ノ議事ニ掛ケテ定マリタル事柄ノ議ス  
 ルヲ得ルニ國會ノ權限ヲ制限スヘキノ法アリヤ國會  
 ヲ屬キタル上ハ制限ヲ超ヘ憲法全體ヲ變更スルニ至ラザ  
 ル據ニ國會ヲ制限スヘキハ如何シテ得ヘキヤハ先ツ議長  
 ハ其事柄ヲ議事ニ掛ルヲ拒ミ又必用アレハ國會ヲ止ム  
 ルヲ得ルニアリ又兩院ノ其一寧ロ上院ハ議員ノ數少數  
 ニシテ多數ヨリ壓セラレバ場合ニ議場ヲ去ルヲ得然ル  
 共ハ國會ハ解散トナルナリ國會ナルモノハ兩院ノ結合ヨ  
 リ成ルモノナルニ其一即チ上院ノ去リタル場合ニハ即チ  
 國會ハ成リ立タサルナリ

猶又國會開場中大統領ハ下院ヲ解散スルヲ得  
 上院ハ其意見ヲ呈スル爲ニハ別ニ會議ヲ開キ又下院ヲ解  
 散スルカ爲メニハ國會ノ分離ヲ惹キ起スヲ得  
 以上二個ノ方法モ若上院ノ議長及大統領ニテ憲法全體ノ  
 改正ヲヨントスルノ場合ニハ無効ニ返ス  
 若上院議長議事ニ掛シルヲ欲シ大統領ハ下院ヲ解散セ  
 ス此二事合同スルトキハ前ニ陳スル處ノ下ハ無効トナル  
 ナリ  
 上院ハ毎ニ會場ヲ去ルヲ得若之ヲ去ルヲ爲サルハ  
 ハ議場ニ出席シテ下院ノ提出ノ議ニ同意ノトトナルナリ  
 尤上院ノ議場ヲ去ルヲハ一ノ困難アリテ此方法ヲ用フル  
 一チ難カラシム若上院議員ノ多數ハ相去リ共少數ハ議長  
 ト俱ニ國會議事ニ與カリタルトキハ國會ヲ不正ノ國會ト  
 做ストテ得ンヤ又國會ニテ憲法改正案ヲ以テ大統領ノ權

ヲ犯サントスルトキハ下院ヲ解散シテ之ヲ防クヲ得然  
 レモ大統領解散ノ意見ニ就キ上院ノ多數賛成セサルトキ  
 ハ此方法モ亦無効ニ歸ス  
 以上陳スル如キノ困難ニ依リ憲法改正ノ開議ハ實ニ危險  
 ナルモノトス故ニ憲法ノ條項ハ他ノ法律ト均シク上院及  
 下院各自ニ投票ヲ爲サシムルニ利益ナリ  
 英國ニテハ議員ノ權汎博ニ涉ルヲ以テ憲法改正否ノヲ  
 議員ニテ議ス即チ前項ノ如ク英國ニテハ之ヲナシ居レリ  
 國會ヲ開クニハ千八百四十九年七月廿二日ノ法律ハルサニ元ノ下  
 院ノ議事堂ニ於テ之ヲ開キタリ  
 憲法改正殊ニ全體ヲ改正スルコトハ人心ノ動搖劇シカルヘキヲ以テ  
 巴里ニテ開會セハ自由ニ之カ議事ヲ爲ストヲ得サルヘシ何トナレハ  
 都府ノ人民自由ニ隊伍ヲ作り各自ノ望ヲ表シ或ハ一揆ヲ起ストナキ  
 ヲ保セサレハナリ斯ル混雜ヲ起ストキハ之ヲ鎮靜シ得ヘシトスルモ

其危險ヲ犯サ、ルヲ得策トナス法律ニ依リテ定ムレハ委リニ血ヲ流  
 スヲ避ケ混雜ヲナサ、ルヲ得ルトモハ何ノ之ヲ爲サ、ルヤ  
 假令巴里外ニ開場スルモ千七百八十九年ノ如ク人民武器ヲ携ヘ隊伍  
 ヲ作り王ニ逼リ逐ニ之ヲ擒トシテ巴里ヘ連レ來リタリ如斯ナレハ其  
 勢ヒハ避クヘカラサルモノナリト云フト雖也全年十月五日六日ノ日  
 ヲ以テ開場都府ヲ避テモ其効ナシトスルハ例トスルニ足ラサルヘシ  
 當時ノ政府ハ自ラ防カス王宮護衛ノ一部ハ無爲ニシテ傍觀セリ番兵  
 モ多クハ俱ニ革命ニ左袒セリスル景狀ナルカ故兵ヨリ助ヲ得ルコトハ  
 望ムヘカラサルノ場合ナリキ  
 今日ト雖也千七百八十九年ノ如ク政府自ラ防禦セサルカ如キコトアラ  
 ハハルサニアルモ巴里ニ在ルモ同一ナリ苟モ政府ニシテ如斯景  
 狀ニ抵抗スルトモハ巴里ヨリハハルサニアルハ已レテ防クニ便  
 ナリトス

○ 地方行政

行政第二ノ中心即チ地方廳ナシシハ行政ノ働キノ効力薄弱トナルヘ  
キ全國各地方ハ各々事情ヲ異ニスレハ地方ノ必要ニ隨テ施行セサル  
ヘカラス法律ノ施行ハ地方人民ノ性質及事情ニ依リテ之ヲ施行スル  
モノナレハ即チ地方官ノ必用ヲ生スルナリ故ニ法律家ハ各縣へ縣令  
ナルモノヲ置キタリ縣令ハ各自ノ管轄區域内ニ在テハ大統領ノ代理  
者タルモノナリ縣令ハ内務卿ノ具申ニ依リ布告ヲ以テ任命セラル  
モノナリ大統領ノ縣令ヲ選フ上ニハ法律上ノ制限ナシ其精神タル官  
吏ヲ命スヘキ第一ノ要點ハ官吏其人ノ信用ヲ其身ニ保ツニアルヲ以  
テ法律ハ之ヲ制限セサルナリ  
縣令ヲ命スルハ大統領ナリ然レ而テ免スルモハ内務卿ノ連署ヲ以テス  
ヘキ權アリ  
縣令ハ縣内ニテハ各行政事務ノ長ナレハ名省ニ涉リテ隸屬スルモノ  
ナリ縣令ノ任免ハ内閣會議ニ於テ議決ス縣令ヲ分ツテ三級トナス此

區分ハ俸給ノ區別ニ止マリ權限上ハ同一ナリ

一級縣令 年俸三万五千法

二級縣令 全 貳萬五千法

三級縣令 全 貳萬法

階級分チ方ノ原則ハ任所ニ依ルモノニシテ即チ縣ノ階級ニ依ルモノトス併ナカラ一概ニ此原則ニヨリ拘泥スルキハ或ハ事務上ニ不都合アルモ期シ難シ其不都合トハ縣ノ階級ニ依リ其治蹟アルモノモ上級スルヲ得サレハナリ故ニ縣令ノ治蹟ヲ賞メル爲メ他ノ上階ノ縣ニ轉任スルカ如キハ行政上不都合ヲ生スヘシ何トナレハ治蹟ノ甲縣ニ著シキカ如ク必シモ乙縣ニ此功ヲ奏シ得サル場合アルヘクナリ行政上ノ利益及官吏ノ治蹟ヲ融和セシムヘキ爲メニハ法律ハ縣令ノ階級ヲ上セ俸給ヲ増サシムルヲ政府ニ許ス(同縣ノ勤績五年ノ後又ハ他縣ニ轉任シテモ勤績七ヶ年已上ノ時) 千八百七十七年四月十五日布告ニ依リ其縣ニ勤績シテ増俸ノ場合ニ

ハ昇級俸額ノ央ヲ增加スルヲナレリ

縣令ノ任命ハ內務卿ノ上申ニ依ル縣官ハ縣廳ノ職務ヲ取扱フニ止マルモノナレトモ縣令ハ各卿ノ指揮ヲ請ケ且自己ノ權限上ニテハ各省トノ往復ヲナス縣令ハ縣内ニ在テハ某卿某卿ノ代表者ニ非スシテ直接國家ノ長ヲ代表スルモノトス然レトモ國家ノ長ハ命令ヲ縣令ヘ通スルニハ政務ノ機關即各省ニ依リテ之ヲ通スルヲナレリ縣内ニ在テハ縣令ノ權ハ國家ノ長ノ權ノ全國ニ涉ルモノニ均シ但縣令ハ中央政府ノ目的ニ適フタル方向ヲ以テ指揮ヲナスモノトス縣令ハ左ノ四個ノ資格ヲ有ス此四個ヨリシテ縣令ノ權限ヲ生スルナリ

第一 法律規則ノ施行ニ係リテハ政府ノ代理人タリトス

第二 官有地ノ所有權ヲ代表ス

第三 縣有地ニ係ル裁判其他ノ事件起ルキハ無形人體ノ如ク縣ヲ代表ス

第四 管轄内各邑公共ノ建物及公共ノ利益トナルヘキ建物ノ保

已上ノ四性質ハ縣令ノ權限ヲ約言シ總稱スルモノトス  
 地方政治ノ組織ナルモノハ地方行政ハ縣令ニ任セ地方會議ハ二個ノ  
 會ヨリ成立ツモノトス即チ一ハ國家ノ長ノ命スル處ニシテ一ハ選舉  
 人之ヲ命スルナリ  
 國家ノ長ノ命スルモノハ縣ノ參事會ナリ選舉人ノ命スルモノハ縣會  
 ナリ  
 縣令ハ政府ノ命令指揮ニ隨テ行政ヲ施行スヘキ爲メニハ區長邑長ニ  
 指揮ヲ與フルコトヲ得尤中央政府ノ命令ヲ待テノルモノニ非ラス已レ  
 ノ有スル處ノ權限ニ依リテ專テ施スコトハ勿論ナリ  
 縣令ハ法律ヲ施行スルコトニ就テハ自ラ担任ス  
 法律ハ布告ノ後實施ノ期限アリト雖モ急テ要スル場合ニハ實施ノ豫  
 備ヲ取消スコトヲ得此場合ニハ公告ヲ張出シ或ハ喇叭ヲ吹キ人民ニ普  
 シ知ラシムルナリ尤政府ハ必用アル場合ニハ必シモ急用ナラサルモ

モ上文ノ手續ニ依リ實施期ヲ短縮スルコトヲ得但此事ヲナスノ手續ハ  
 縣令之ヲ行ハザルヘカラズ法律施行ニ就テハ縣令ハ地方ニ適當スヘ  
 キ執行規則ヲ定メテ施行スルコトヲ得尤縣令ノ規則ヲ定ムルハ大統領  
 ノ規則ヲ定ムルトハ大ニ異ナル處アリ其制限ハ法律ニ依リ制限セテ  
 レタルノミナラズ政府ノ諸規則ニ依リ制限セラレタルハナリ  
 地方ノ規則ハ本縣内ニシテ効力ヲ有ス該縣ノ規則ハ他管ノ人民ニ對  
 レテハ効力ヲキモノトス約之ニ縣令ノ規則ハ一地方ニ止マルモノナ  
 リ規則ノ執行ニ就テハ地方ノ慣習ニ依リ布告シタル日ヨリ効力ヲ有  
 ス縣ノ官報ニ規則ヲ載スルモ人民カ直ニ遵奉スヘキモノニ非ラス何  
 トナレハ縣ノ官報ハ官吏ノミニ讀ラシムルノ性質ナレハナリ官吏モ  
 亦直チニ之ヲ施行スルノ權ヲシ之ヲ施行スルニハ法律ニ依リ定メタ  
 ル正當ノ手續ニ依リ布告シタル後ニ非サレハ人民ハ服従スヘキノ義  
 務ヲキモノトス  
 縣有ト官有地ノ爭ヲ生スルトハ縣令ハ官有地ヲ代表シ縣有地ハ縣ノ

委員會ノ委員之ヲ代表ス  
 備考 從前國郡ニ分ナタルノ日ニ在テハ各地ニテ特權ヲ有シタル  
 モ千七百八十九年革命ノ際ヨリ一般行政區ヲ縣ニ分テ固有  
 ノ特權等ヲ破リ專ラ全國平等ノ權ヲ行ハシムルコトナレリ  
 爲メニ中央集權ノ傾キトハナレリ方今ニ至リ漸ク地方自治  
 ノコトヲ説クモノアリテ例證ヲ英國ニ引用スト雖田英國ノ事  
 タル貴族富豪ハ各地方ニ散在シ是等ノ人ハ平素自家ノ生營  
 ニ汲々タラス自ラ政治上ノ思想ヲ養フノ餘優アリ反之佛國  
 ハ富ノ度合稍平等ニシテ各自ノ營業ニ汲々タラサルヲ得テ  
 ルヲ以テ一途ニ英國ノ法ヲ佛國ニ採用スハカササルモノア  
 リ然リト雖モ漸次自治ノ傾キヲ養成スヘキ爲メ千八百七十  
 一年八月十日縣會ニ係ル法律千八百八十四年四月五日邑制  
 ニ係ル改正法律等ヲ發シテ要之ニ漸次自治ヲ養成シ以テ  
 之ニ移ラシムルヲ以テ得策トナス

大書記官 一名 千八百六十五年六月廿一日法律ヲ以テ各縣ニ必ラ  
 ス置クヘキモノトナレリ(其已前ニ在テハ或ハ置キ或ハ置カサル  
 アリ之ヲ置カサルトキハ參事官ニテ其事務ヲ兼攝セシモノナリ)  
 大書記官ノ俸給ハ三級ニ分テリ即チ如左  
 一級 年俸七千法  
 二級 全 六千法  
 三級 全 四千五百法  
 巴里ノ大書記官ハ一般年俸壹万八千法  
 大書記官ハ內務卿ノ推選ニ依リ布告ヲ以テ任命セラル故ニ年齡其他  
 法律ニ依リ定メラレタルノ資格アルニ非ラス  
 大書記官ハ固有ノ職權及縣令ノ委任ヲ受ケテ事ヲ執ルモノナリ其固  
 有ノ職權ハ如左  
 一 縣令ノ布達及參事會ノ布達ノ件ヲ記入スヘキ簿冊并日々記  
 入ノ事ヲ監督ス



二 縣廳ノ記録トナスヘキ書類ニ査印ヲナス

三 參事會ノ公會即チ行政裁判ノ場合ニ檢事ヲ職ヲ行フ

右ノ外縣令ノ委任ヲ受ケテ事ヲ執ル尤モ永久委任ノキハ内務卿ノ許可ヲ得サレハ能ハズ其臨時縣令ノ事故アルニ依リ事務ノ委任ヲ請ケテ代理スルハ單ニ縣令ノ委任ニ依リ其事務代理ス

縣令ノ管外ニ出テタルモノノ代理ハ内務卿ノ許可ヲ得テ代理ヲナスモノトシ其管内ニ在テ巡回等ノ場合廳務ノ代理ハ直ニ縣令ノ委任ニ依リテ事ヲ執ルモノトス

縣令管外ニ出テタルトキノ代理ヲナスコトヲ得ルト雖モ固有ノ權利ニ依ルモノニ非ラス特別ノ委任ニ出テタルモノトス若夫固有ノ權利ヨリズルトキハ縣令不在ノ代理ハ參事會ニテ攝理スヘキモノトス

○參事會

參事會ハ千八百七十八年五月廿八日布告ニ依リセトス縣卿巴里ニテ

ハ議長俱ニ議官ヲ九名ト定メ外ノ三十一縣ニハ四名ヲ置キ其他ノ縣ハ三名トス

參事官ヲ分ツテ三級トシ其俸給ヲ定ムルヲ如左(參事官ト譯シタルハ參事會ノ議官ヲ云已下級之)

一級 年俸四千法

二級 全 三千法

三級 全 二千法

巴里ノ參事官ハ 一般年俸壹万法

議長ハ縣令之ニ當ル其出席セサルトキハ布告ヲ以テ任シタル副長之ヲ代理ス巴里ノ參事會ニハ特ニ議長ヲ設ケ其年俸ハ壹万五千法トス

參事官ノ任免ハ内務卿ノ上申ニ依リ布告ヲ以テ之ヲ任免ス

參事官ハ千八百六十五年六月廿一日法律第二條ニ依リ滿廿五歲以上ニシテ法律學士或ハ十年以上行政或ハ裁判官トナリ俸給ヲ仰キタルモノ又ハ縣會議員及邑長ヲ十年以上勤メタルモノニ非サレハ參事官タルコトヲ得ズ且現法律第三條ニ依リ他ノ公務ヲ奉職シ或ハ代言代書

等ノ業務ヲ營ムト得ス  
 參事會ハ出席三名已上ニ非サレハ正當ノ參事會ト認メス但現在參事官ノ不足シ居ル場合ニハ縣會員ヲ以テ之ガ補充トナスト得此場合縣會員ヲ指名スルハ參事官多數ノ說ニ隨ヒ若二人各說ヲ異ニスルハ年長ノ參事官ノ說ニ依ルモノトス  
 參事會ヲ全ク縣會員ニテ組織(參事官全ク無之只縣令即議長ノミ有之只縣令)ノ場合ニハ縣令ノ具申ニ依リ內務卿之ヲ指名スルモノトス  
 縣令ハ地方政事ニ關シ之ヲ參事會ニ諮問スルヲ得尤或ル場合ニハ縣令ノ參事會ニ諮問ヲ必要トス此場合諮問ヲナスシテ施行スルモ無効ニ歸スルモノトス尤諮問ノ事件必シモ參事會ノ意見ニ隨ハサルヘカヲサルノ義務ハ縣令之ヲ有セス  
 參事會ノ意見ヲ諮フハ行政施行ノ誤リナカラシムルノ法式ヲ履ムルアルノヨ或ル事件ニ關シテハ縣令ハ參事會ノ目前ニ之ヲ施行セサルヘカヲス此場合參事會ノ會議ヲ必要トスルニ非ラス其施行上公正

保シムヘキ爲メ立會ヲ要スルモアリ若此履ムヘキ式ヲ履マサルトキハ縣令ノ施行ハ無効ノモノニ歸ス  
 參事會ハ以上掲ケル所ノ外ニ職務ニアリ即チ如左

- 第一 無形人ノ資格即チ縣ヲ代表スル訴訟ノヲ許ス事
  - 第二 法律ニ依リ定メタル訴訟事件ニ關シ豫審裁判ヲナス事
  - 參事會ノ職務ハ約之ニ左ノ四ヶ條ニ止マレリ
    - 第一 縣令ノ行政會タル事
    - 第二 縣ノ行政ニ關シ真正ナルヲ保證スヘキ爲メ其場所ニ出席スル事
    - 第三 邑及ヒ其他ニ無形人ノ資格ヲ以テ訴訟ヲ起スヲ許ス事
    - 第四 法律ニ於テ定メタル場合ニ裁判官タル事
- 其他特別ニ委任ヲ請ルヲアリ例セハ郡長事故アルキ之ヲ代理スルヲ得又縣令不在ノキ特ニ大書記官ニ委任セラレサルノ場合ニハ當然參事官中年長ノモノ之ヲ代理ス徵兵會議ニ加ハリ或ハ

徵兵會議ニ縣令ノ事故アリテ出席セザルモハ大書記官又ハ參事官ノ内ヨリ代理者トナルカ如キ是ナリ

○縣會

縣會ノ組織及權限ハ千八百七十一年八月十日ノ法律ヲ以テ定メタリ縣會ハ普通選舉ヲ以テ選舉セラレタル人ヲ以テ組織スルモノトス縣會議員ハ郡毎ニ之ヲ出ス縣會ハ縣ノ代表トナリテ施行スヘキ事件ヲ審明シ之カ施行ヲ監督スルニアリ

備考

參事會ハ中央政府行政ノ官吏タル縣令ノ資格ヲ贊助スヘキノ目的ニテ成リ立ツモノナリ故ニ參事官ハ國家ノ長ノ命スルモノナレモ縣會ハ直ニ選舉人ノ撰舉スルモノナリ

縣會議員ノ選舉セラレヘキ資格ハ如左

第一 滿廿五歲以上ノモノ

第二 民事及政事ノ權ヲ有スルモノ尤裁判所ヘ訴訟ヲ請ケタル

第三 縣内ニ本籍ヲ有スルモノ又ハ直稅ヲ納ムルモノ但納稅者

ノ資格ヲ以テ選ハル、モノハ四種ノ稅ノ内一種ノ稅帳簿ニ本年一月一日ノ記入ヲ得或ハ其記入スヘキ理由ヲ證明シタルモノ(一月一日前ニ不動產ヲ購入シ其事實ヲ記シ限ル但一月一日以後選舉以前ニ不動產相續ヲ請ケタルモノモ亦被選舉權ヲ有ス尤被選者ハ本籍外ノモノ本籍者ノ四分ノ一ヲ超過スルヲ得ス)

第四 千八百七十一年八月十日法律第八條ニ示ス廉ニ抵觸セザルモノニ限ル但全國ノ縣會ニ選ハル、ヲ得サルモノハ

縣令、郡長、大書記官、縣ノ參事官、警察官トス其他縣會區會ニ跨リニツノ議員タルヲ得ス

縣會議員ヲ選舉スルノ方法ハ下院議員ヲ選ブニ同シ只異ナル處ハ第一縣ノ首府ニテ選舉名簿ヲ作ルト邑ノ首府ニ

テ作ルノ異アルノニ第二選舉ハ必ス日曜日ニ催ス第三不  
合格ヲ鑑別スルハ法律ニ依リテ判定シ其決議ハ勳カスヘ  
カラス

其無効トナルノ場合ハ選舉人不正當ト縣會自ラ言ヒ或ハ  
人民中其事ヲ言ヒ又ハ縣令之ヲ言フノ場合ニノニ限ルナ

縣會ハ通常及臨時會ノ二種トス通常會ハ權限内ノ事件ヲ議シ臨時會  
ハ特ニ附セラレタル議按ノミヲ議スルモノトス  
通常會ヲ別ツテ二種トス

第一種 經費及諸經費ニ係ル事ヲ議ス會期ハ八月十五日後ノ第  
一月曜日ニハ當然開會スルモノトス會期ハ法律ヲ以テスルニ  
非サレハ延期スルヲ得ス開場日期ハ一月以上ニ涉ルヲ得  
ス

第二種 拜一ノ祭日後第二ノ月曜日ニ開會シ開場日期十五日間

以上ニ涉ルヲ得ス

臨時會ハ左ノ各項ニ依ルヘキモノトス

第一 大統領ノ布告ニ依ルノ場合

第二 下院ノ議員三分ノ二以上ニテ大統領ヘ具狀スルノ場合但  
此場合ハ大統領ヨリ縣令ニ通知シ縣令ヨリ開會ノ事ヲ通  
知スルモノトス

臨時會開會ノ數ニ制限ナシト雖モ開場日數八日以上ニ涉ルヲ得  
得ス

縣會ノ議事左ノ二項ノ場合ニハ無効ニ飯ス

第一 成規ノ徵集法ニ依ラスシテ開會セシモノ

第二 議事ノ權限外ニ涉リタルモノ

以上無効ト認ムルニハ第一ノ場合ハ縣令ヨリ參事會ヲ催シ其目  
前ニテ成規外ニ涉ル集會ナレハ議事無効ノ事ヲ陳述シ直ニ散會  
セシムルノ處分ヲナス

第二ノ場合ニハ議事權限外ニ涉ルト做スハ布告ニ依リテ之ヲ定  
縣會議員ハ任期六ケ年トス三年毎ニ其半數ヲ改選ス

○區政

區長及區會

區内ノ行政處分ハ區長ニ委任シ議事ハ區會ニ任セタルモノナリ  
各區ニ區廳アリ但縣ノ首府ニテハ區長ノ職務ハ縣令之ヲ兼テ別ニ區  
長ヲ置カス  
セース縣内ニテハソリ及サシニ一兩區ハ縣令ニテ區長ノ職務ヲ兼  
テ區長ヲ置カス  
區長ハ內務卿ノ具申ニ依リ布告ヲ以テ任命スルヲ以テ年齡及資格ニ  
關シ法律上ノ制限ナシ  
區長ハ其拜命ノキ縣令ニ向ツテ誓ヒテナスヘキモノトス

區長ノ俸給ヲ三級ニ分ツ

第一級 年俸七千法

第二級 年俸六千法

第三級 全 四千五百法

區長ノ俸給ハ必シモ區ノ位置ニ依リ定マルニ非サルヲ以テ五ケ年以  
上勤績ノキハ昇級スルヲ得

區長ハ區内ノ行政ノ長ニシテ法律ノ施行及安寧ヲ保タシムルノ權アリ  
然レハ原則ニ於テ物ヲ處分シ又ハ事ヲ決スルノ權ヲキモノトス但  
左ノ場合ハ此限ニアラス

第一 特ニ法律規則ニ依リ權利ヲ與ヘタル場合

但千八百六十一年四月十三日布告第六條ニ依リ縣令權限内ノヲ委  
任スルヲ得セシム其精神ハ些細ノ事件又ハ緊要事件ノ大體ヲ定メ  
其施行ノ枝葉ノ事ヲ委任シ或ハ書  
式ニ據リテ査印スヘキ事等ニアリ

第二 縣令ヨリ其權限ヲ委任シタル場合

第三 危急ノ際縣令ノ委任ヲ俟ツノ猶豫ヲ得サル場合

以上三項ノ場合ヲ除キテハ邑ノ事ヲ熟知スヘキノ職ニシテ縣令ノ指揮及邑長ノ具申ヲ取次スルモノトス

區長ハ縣令ノ命令又ハ訓令ヲ邑長ニ送致シ又邑長ヨリ差出ス文書ニハ自己ノ意見ヲ附シテ縣令ニ進達ス

區ハ無形人ニ非キレハ區ノ所有地ナシ故ニ經濟ニ關シ縣令ノ縣ニ於ルカ如キ職務ナシ

區會ハ千八百三十三年六月廿二日千八百三十八年五月十日千八百六十七年七月廿四日千八百七十年七月廿三日ノ法律ニ依リテ組成スルモノトス

區會議員ハ區内ノ邑毎ニ選舉スルモノヨリ成リ立ツ但議員ハ九人ヨリ少カルヘカラス但區内九邑ニ足ラサルトキハ其大ナル邑ヨリ増員ヲ選舉スヘキノトス

區會議員ハ普通選舉トス任期ハ六年トシ三年毎ニ半數ヲ改選ス若解散ノ後新ニ選舉シタルトハ爾後第一期第二期改選ノイテ豫メ抽籤

ヲ以テ定メ置クヘキノトス

議員タルヲ得ルノ資格ハ如左

- 第一 滿廿五歳以上ノモノ
  - 第二 民事及政事ノ權ヲ有スルモノ
  - 第三 區内ニ本籍ヲ有スルモノ及直税ヲ納ムルモノ
  - 第四 縣會ニ於テ示ス場合ニ抵觸セサルモノ
- 且二ケノ區會ニ選ハル、イテ得ス

區長ハ區會ニ臨ミテ意見ヲ述ルイテ得

區會ニ二種アリ即チ通常會臨時會トス而シテ其會ヲ開クハ大統領ノ許可ヲ請ケサルヘカラス

縣令ハ議員ヲ徵集スルノ權アレトモ會ヲ開カシムルノ權ナシ故ニ會日ニハ區長ヨリ開場許可ノ布告ヲ朗讀シ之ニ依リテ開會スルイテ得區會ノ解散ヲ命セラレタルトハ遲クモ三ヶ月以内ニ改選セサルヘカラス死亡又ハ辭職ノ場合ニハ二ヶ月以内ニ補闕セサルヘカラス

通常會ヲ二期ニ別テリ第一ヲ縣會通常會ノ前ニ開キ第二ヲ縣會通常會ノ後ニ開ク第一ノ場合ニハ課税ノ件ニ就キ區ノ爲メニ縣會ニ申立ツヘキ事柄ヲ議シ及前年ニ課セラレタル税ニ關シ邑ニ於テ苦情アル事之ニ附スヘキ意見ヲ議ス第二ノ場合ニハ第一會ニテ申立テタル事ノ縣會ニテ決議セルモノニ就キ邑ニ割賦スヘキ事ヲ議ス

區會ノ議決スルヲ得ルモノハ單一ニ事件トス即チ區内ノ各邑ニ課税ヲ割賦スルヲ是ナリ之ヲ除キ他ハ區會ハ顧問會トナリ縣會ヨリ諮問ノ事ヲ議ス尤施行上縣令ハ諮問スヘキモノヲ諮問セサルハ越權ノ處置トナル

區會ハ區ニ關スル公務ニ就キ之ヲ議シ決議ノ次第ハ議長ヨリ縣令ニ開申スルモノトス

區會ハ縣會ニテ議スヘキ區ニ關係ノ事柄ニ關シ先ツ之ヲ議スルノ權アリ尤此議決ハ區長ノ手ヲ經テ縣令ニ開申スヘキモノトス(千八百三十八年五月十日法律第四十二條ニ示シタル場合ニ限ル)

區會ノ權限ヲ約言スレハ如左

- 第一 課税ニ係ル各邑ニ配當ノヲチ投票ニテ決スル事
- 第二 行政ニ關スル質議ノ件ヲ答議スル事
- 第三 區ノ利害ニ關スル意見ヲ陳ル事
- 第四 千八百三十八年五月十日法律第四十二條ニ示シタル場合臨時意見ヲ陳ル事

○邑政

邑政ハ左ノ組織ニ依ル

- 第一 邑長及書記ハ邑ノ行政ヲ担任スルモノナリ
  - 第二 邑會ハ會議ヲ開クヘキモノトス
- 邑政ノ組織及邑政官ノ章程ハ從前種々ノ法律アリシモ千八百八十四年四月五日法律ヲ以テ方今ノ職制規律ハ定レリ此法律千八百七十一年八月十日地方行政ノ制ヲ定メタルモノト同性質ヲ帶

ヒタリ故ニ舊來ノ繁雜ヲ省キ邑政ノ施行ヲ簡明ニセシモノナリ  
 邑長ヲ任ズルハ種々ノ法アリシモ其沿革ノ第一ハ政府之ヲ命シ尤邑  
 ノ大小ニヨリ布告ヲ以テ命シ或ハ縣令ヨリ直ニ命セタリ第二人選ハ  
 政府自ラセシモ其選フヘキ人ハ邑會議員中ヨリ選ヒタリ第三即チ方  
 令ハ邑會ヲシテ邑長ヲ選ハシムルコトナレリ(邑ノ大小地位ノ如何ニ  
 係ハラス)尤邑會ハ邑會員中ヨリ邑長ヲ選フヘキモノトス  
 邑長ヲ選フハ邑會員中ナレハ假令其邑ノ本籍ニ非サルモ妨ナシ  
 邑長ヲ選フ選舉會ニテハ會員中ノ尤モ年長ノ人ヲシテ會長ヲラシム  
 但邑長ノ選舉會ニハ會員徵集ノ際其事柄ヲ示シテ徵收セサルヘカラ  
 ス若選舉會ニ際シ滿員ナラサルハ先之カ補闕會ヲ開カサルヘカラ  
 ス

- 第一 滿廿五歳以上ノモノ
- 第二 邑會ノ議員タルモノ

第三 千八百八十四年四月五日法律第八十條ニ示ス場合ニ抵觸

セサルモノ

備考 即チ臨時ニ公務ヲ帶ヒタルモノ、大藏省官吏ニシテ徵收金ヲ  
 主管セルモノ、收稅官、山林官、驛遞電信官、官衙ノ看坐人等ノ職  
 チ奉シ居ルモノヲ邑長及書記ニ撰選スルコト得ストセリ尤  
 八十條ハ不合格トスルニ非ラス兩職ヲ併務スルコト得サル  
 ニ止マレハ現職ヲ辞シテ邑長ノ職ニ就クハ素ヨリ妨ケナシ  
 邑會員ノ選舉ニ不合格ト指シタルモノハ當然邑長ニモ不合格ト  
 シテ適用スヘキモノナリ  
 邑長ヲ選舉シタル上其選舉ニ苦情アルトキハ正否ヲ糺スヘキ爲メ五  
 日以内ニ縣ノ參事會ニ提出ス可キモノトス五日以内ノ起算ハ選舉シ  
 タルキヨリ廿四時間ノ後ヲ以テ起算スヘシ但邑長選舉ノコト無効ト  
 ノ申立ハ總テ邑會無効ノ申立ト同一ノ期限及方式ニ依ル  
 邑長關員ノ場合ニハ關員ノ後十五日以内ニ先邑會議員ノ關員アルモ



ノ、補選會ヲ開キ亦後十五日以内ニ選舉會ヲ開シハキモノトス但邑會議員ノ職ヲキキハ邑長副員ノ日ヨリ十五日以内ニ選舉會ヲ開カサルヘカラス邑長ハ民選ニシテ邑ノ代表者タリト雖世ニ様ノ資格ヲ有テ法律施行ノ爲メニハ政府ノ委任者ヨリトス

邑長ハ民選ニナリタルニ係ハラヌ縣令ハ職務ヲ停止シ又免職スルニハ布告ヲ以テ之ヲナス但職務停止ノ期限ハ一ヶ月ヲ超ルヲ得ス尤内務卿ヨリ停止スルキハ停止期限ハ三ヶ月ニ及フヲ得

布告ヲ以テ免職セラレタルモノハ一ヶ年間ハ被選權ヲ失フモノトス但邑會ノ總選舉ニ際スルキハ上文ノ限ニアラス(全國スルノ邑會例トナレリニ上文ハ此條合テ云フ)

邑長ノ職務停止又ハ副職ノ場合ニハ書記ノ内一名之ヲ代理ス若書記モ亦副員ノハ邑會議員表(選舉數ノ多數ニ依リ定タル順序ノ表若)ノ順序ニ依リ初筆ノモノ邑長ノ職務ヲ代理ス

邑長ハ總選舉ノ半數以上ノ多數ヲ以テ撰フ第一會ニ多數ヲ得サレハ

第二會ヲ開キ同様ノ選舉ヲナス此場合ニモ多數者ナキハ第三會ヲ開キ此會ニテハ比較多數ヲ以テ之ヲ撰フトス若シ投票同數ノキハ年長ノモノ其選ニ當ル

選舉ノ上ハ選クモ廿四時間内ニ邑廳ノ門前ニ當選者ノ姓名ヲ揭示シ及區長ニ報告セサルヘカラス

邑長ノ職掌ハ其數甚多シテ種々アリ

第一

邑長ハ戶籍調ノ職ニシテ違註罪取締及裁判權ヲ有セリ此職務ハ行政部分ノ外ニ出テタリ畢竟取締及裁判權ノ如キハ檢事ノ指揮ヲ請クルモノニシテ行政權ヨリ支配スルモノニ非ラス

邑長行政ノ職務ニ二種アリ一ハ中央官吏ノ隸屬ノ如クニシテ政府ノ指揮ヲ請ケ職務ヲ執リ一ハ邑ノ代表者トナリ邑會ノ監督ヲ請ケ職務ヲ行フモノトス

政府ノ指揮ヲ請クルノ事ハ縣令或ハ諸省卿ノ訓令又ハ命

令ニ依ルモノナリ  
邑會ノ監督ヲ請クルノ事ハ邑會ニテ事ヲ起スノ權アレハ  
之ニ隨テ事ヲ執ル其事柄ニ就テハ上官ハ之ヲ許可シ或ハ  
拒絶スルノ權アリ  
邑長ハ邑ノ取締役及邑ノ裁判官ノ如キ性質ヲ帶ヒ又無形  
人タル邑ヲ代表ス故ニ邑持ノ土地ニ關シテハ自ラ代理人  
トナリ其事ヲ取扱フモノナリ

政府ノ指揮ヲ請クヘキ資格ニテハ左ノ事項ヲ担任セリ

第一 法律規則ヲ公告シ及施行スル事(法律第九十二條)

法律ニシテ急施ヲ要シ公告期限内ニ施行セサルヲ得サル  
ハ縣令ヨリ「ラツバ」或ハ太鼓又ハ張出シヲ以テ人民ヘ周  
知セシムルヲ邑長ニ命ス假令急ヲ要セサル場合ト雖モ公  
告ヲ周知セシムヘキ手段トシテ之ヲ施スノ必用ヲ感シタ  
ルハ縣令ヨリ邑長ヘ命シテ上文ノ所爲ニ出テシムルヲ

アリ

第二

特別ノ條項ニ依リ與ヘラレタル特別ノ職務ヲ施行スル事  
此條項ハ種々アリ例ヘハ選舉名簿ヲ改正シ或ハ陸軍徵兵  
ニ係ル事柄ノ如キ是レナリ然レトモ若邑長ニテ職務ヲ奉  
セサルトキハ政府ハ千八百八十四年四月五日法律第八十  
五條ニ依リ邑書記或ハ特別ニ委員ヲ作りテ之ヲ行ハシム  
ルヲ得

第三

主務省卿或ハ縣令ヨリ命シタル一般ニ係ル治安ノ法方ヲ  
施行スル事

此法ノ全國ニ涉ラスシテ特ニ一邑ニ係ルモノハ邑ノ警察  
ヲ以テ處分スヘキカ又ハ一般ノ警察處分ニ依ルヘキカ區  
別ヲナスニ困難アリ此場合ハ專柄ノ全國ニ涉リ或ハ一部  
分ニ止マルノ性質ヲ吟味セサルヘカラス  
單ニ一地方ニ止マルノ場合縣令又ハ内務卿ノ揮指ヲ請ク

ヘキカ或ハ邑長固有ノ權限ニ依リテ施行スヘキカノ區分ニモ亦困難ナルヲ覺フ例セハ一邑一揆ノ起リタルハ邑長ノ職權ヲ以テ處分シ得ルカ如キモ其一揆ノ自ラ他ニ波及スヘキ恐シアルノ場合ニハ縣令ノ命ニ服從シテ處分セサルヲ得ス反之邑ノ取締ニ係ルモノハ邑長固有ノ權限ヲ以テ處分スヘシ然ル場合ニハ縣令ハ邑長ノ處分ヲ監督シテ其處分ノ當ヲ得サルノ場合之ヲ無効ト認ムルノ權アルノミ

邑ノ取締ニ係ル事柄ハ千三百八十四年四月五日法律第九十七條其他示後ノ法律ニ依リテ示シタル場合ニ限ル  
 村取締ノ性質ニ就キテハ荷前收納期ノ日時ヲ定メテ公告ス(日トハ取等ノ執業時間ヲ云)  
 又寄生蟲ヲ燒殺セシムルヲ公告シ及監督ス之ヲ消滅セシムルハ三月十五日前ニ執行セサルヘカラス故ニ邑長ハ執行スヘキ事ヲ一月廿

日前ニ民村ヘ諭ラシメ之カ執行ヲ監督シ若之ヲ執行セサルハ雇人ヲ以テ之ヲ燒却セシメテ後其費用ヲ徵收スルヲ得  
 邑及村ノ取締ノ事ニ關シ邑長邑内ニ施行ノ布達ニ二種アリ一ハ一般ニ涉リ一ハ各自ノ一個人ニ止マルアリ其一般ニ涉ルノ性質ハ布達ニ依リ一般ニ服從シ一個人ニ止マルノ性質ノモノハ布達セラレタル其人ニ限リテ服從ノ義務アリ  
 一般ニ涉ル布達ニ二種アリ一ハ永久ノ規則ノ性質一ハ一時ノ規則ノ性質ヲ帶ヘルモノアリ  
 一時ノ性質ヲ帶ヒタルモノハ臨時至急ニ處分ヲ要スルモノニシテ其時期ヲ經過セハ布達ハ無効ニ返ス  
 永久ノ規則ハ之ヲ施行スヘキ場合ニ限リテ効アルモノナリ布達ノ性質ノ何レナルヲ問ハス總テ區長ヲ經テ縣令ヘ具申セサルヲ得ヌ布達ノ臨時性質ヲ帶ヒタルモノハ直ニ施行スヘキモノニシテ是ニ關シテハ縣令ハ無効ト認メ或ハ廢止スルノ權アルノミ假令縣令無効ト認

メタルモ將來ニ無効ト認メタルノ効力ニ止マリ其施行ニ溯リ之ヲ無効トナスヲ得ス  
 反之永久ノ性質ヲ帶ヒタルノ布達ハ縣令ノ許可ヲ得タル後ニ非サレハ施行スルヲ得ス但區長ハ具申ノ日ヨリ一ヶ月ヲ經過スルキハ縣令ノ許可セシモノトシテ之ヲ施行ス  
 此場合ト雖モ猶縣令ヲ取消チナスヲ得然レモ施行ニ溯リテ無効トシムルヲ得ス  
 縣令ハ邑長ノ具申ニ係ル規則ヲ認可シ或ハ不認可スルノ權アリト雖モ此之カ箇條ノ一部ヲ變更シ或ハ訂正スルヲ得ス  
 規則ノ條項ニ關シ縣令ハ邑長ノ職務ヲ停止スルヲ得尤職務停止ノ事ハ効力ノ薄キモノナリ若條項不可ナルトハ不認可シ得レハナリ新法律第九十九條ノ精神ニ依レハ取締上邑長ノ職權ハ縣令ノ職權ニ對シ抵觸ナキモノトス何トナレハ縣令ノ職權ハ縣内全般ニ涉ルノ事件或ハ各邑ノ多數ニ涉ル事件ニ係リ猶且邑長ノ取締ノ限リニ非サル場合

ハ總テ安寧衛生ニ係ル事件ヲ縣令ニテ處分スレハナリ  
 縣令ハ一邑ニ對シテノ取締法ハ邑長ニ其事ヲ示シ邑長之ニ隨ハサルノ場合ニ限リ縣令之ニ携ヘルヲ得  
 邑長ノ規則ヲ作ルハ法律規則ニ依リ區域ヲ定メテ其區域甚狹隘トナレリ要之ニ邑長ハ法律上ノ委任者ナル邑ノ所有者ノ如ク認ラレタルモノナリ故ニ裁判上邑ノ代表者トナリ邑持土地ノ賣買チナシ或ハ販スル處チキ財產ヲ邑有トナシ或ハ邑ノ名チ以テ所有物件ニ係ル約東チナスヲ得  
 書記 其員數ハ邑ノ人口ニ應スルモノナリ人口二千五百人以下ノ邑ニハ一名貳千五百乃至壹万人迄ハ貳名壹万人以上ハ貳万五千人ニ付一名ヲ増ス但總數ハ拾貳名ヲ超過スルヲ得ス尤里昂ハ此限ニアラスシテ拾七名トス  
 邑長ノ職務ヲ免シ或ハ停止スルノ事項ハ書記ニモ之ヲ適用スルモノトス

書記ハ邑長事故アルトキ其職務ヲ代理ス此場合ニハ邑長ト均一ノ權利ヲ有ス但特別ニ布達ヲ要セスシテ當然ノ代理者トナス  
 若、書記ニシテ邑會ノ議長トナリタルノ場合ハ、等數ノ可否ヲ決スルノ權アリ書記ノ職務ハ邑長ノ補助タルニ止マラス邑長ニテ邑政ノ一部ヲ委任スルヲ法律上ニ明許ス此場合ニハ部理邑長ノ權ヲ有シ邑長不在ナラザルモ自己ノ查印ヲ以テ其事ヲ決スルヲ得但委任セシ件ト雖ヒ邑長ハ其委任ヲ解クヲ得  
 邑ノ首府ト邑ノ一部ノ間ニ風雨波濤等ノ爲メ交通ノ便ヲ闕クノ場所ハ邑會ノ決議ヲ以テ參事院ノ議ヲ經タル布告ニテ書記一名ヲ増シ其部内ニ置クヲ得此書記ハ邑會員ノ内ヨリ邑會ニテ撰フモノトス若シ其部ニ邑會議員ナキハ該地ニ居住セシ人民中ヨリ之ヲ選ブ此選ニ當リタルモノハ法律ノ定ムル處ニ依リ戶籍ノ職務ヲ執ル猶其一部内ニ係ル取締ノ法律及規則ノ施行ヲ擔任スルヲ得但此場合戶籍ニ係ル職務ハ當然ニシテ取締ニ係ルモノハ特別ノ委任ニ依リテ施行ス

ルルモノナリ故ニ特別ノ委任ハ邑長ヨリ之ヲ解クヲ得

○邑會

邑會ハ被選舉者ヲ以テ組織ス議員ノ數ハ邑ノ人口ノ多少ニ依リ拾名乃至三十六名ヲ限リトス五百人以下ノ邑ニテハ拾名、五百人以上千五百人迄拾貳名、千五百一人ヨリ貳千五百人迄拾六名、貳千五百一人ヨリ三千五百人迄廿壹名、三千五百壹人ヨリ壹萬人迄廿三名、壹萬一人以上三萬人迄廿七名、三萬一人以上四萬人迄三十名、四萬壹人以上五萬人迄三十拾貳名、五萬一人以上六萬人迄三十拾四名、六萬一人以上三十拾六名トス  
 邑會議員ノ數ハ議員選舉ノキノ人口ニ依リテ定ム人口ノ増減ハ改選ノキ迄ハ動カサ、ルモノトス  
 邑會議員ノ選舉ハ投票箋ニ其選舉スヘキ總テノ人名ヲ記入スヘシ但人員多クシテ一紙ニ認メ得サル場合ヲ計リ選舉區ヲ分テ其區内ニテ

何名ヲ選フヘキト便宜ノ爲メニ許セリ原則上ヨリシテハ邑内ヲ分  
割シテ區ニ分ツハ正當ノ理ニ非ラス故ニ之ヲ區分スルハ左ノ二項ノ  
理由ニ依ラサルヘカラス

第一 邑ノ中一團ノ人口各方ニ區處シ居ルトキ區毎ニ二名以上  
ヲ選舉スルノ割合ニ非サレハ選舉區ヲ分ツヲ得ス

第二 邑ノ人口壹万人以上ニアラサレハ區分スルヲ得ス但一  
分區四名以上ノ議員ヲ選舉スヘキニ當ラサレハ能ハス一  
分區内トスルコトハ接續地ハ可ナリト雖ハ斷隔セル地ヲ加  
入スルヲ得ス

他邑或ハ他區ニ屬シタルモノヲ加入スルヲ得ス  
選舉區ヲ分區スルニハ邑會縣令縣會議員或ハ其邑ノ選舉人ヨリ起  
シタルモノヲ縣會ニ於テ之ヲ定ム此手續ハ四月ノ通常會ニ原接ヲ提  
出シ八月ノ通常會ニテ之ヲ定ム四月乃至八月ノ距離ニハ選舉分區割  
入取調ヲナスモノトス

縣會ハ選舉區ヲ分區スルニアリテ議員ノ數ヲ分區ニ割當ルハ縣令ノ  
布告ヲ以テ之ヲ定ム

千八百八十四年四月五日法律第十四條ニ依リ定メタル資格ヲ備ヘ  
ルモノニシテ滿廿一歳以上ノモノヨリ邑會議員ヲ選舉ス

備考 同條ニ曰ク總テ佛蘭西人ニシテ滿廿一歳ニシテ法律ニ依リ  
定メラレタル不合格ニ當ラサルモノハ選舉人タルヲ得

選舉人名簿ニ上ルモノハ左ノ項目ニ適セサルヘカラス  
第一 選舉人ハ邑内ニ本籍アルモノ或ハ六ヶ月以上邑内ニ居住  
スルモノ

第二 邑内ニ住居セサルモノモ其邑内ニテ四種ノ直稅中一種ヲ  
納稅ノ帳簿ニ記載セラレタルモノ  
邑内ニ本籍ヲ以テ住居セサルモノ其邑内ニテ選舉權ヲ有シ  
タキ旨ノ申立アルモノニモ亦選舉權ヲ許ス  
戸別夫役ヲ負擔スル家族及不健康ニテ夫役ヲ負擔セサル

第三 千八百七十年五月十日約束書第二條ニ依リ佛蘭西國へ歸  
 化シ千八百七十一年六月十九日ノ法律ニ依リ其邑内ニ居  
 住ヲ定メタルモノ

第四 政府ノ認メル僧侶及官吏ノ資格ヲ以テ邑内へ居住スヘキ  
 義務ヲ帶ヒタルモノ

邑會ノ選舉ハ四年毎ニ於テ(千八百八十四年四月五日法律第四十一  
 條)其四ヶ年目五月第一日曜日ニ改選スルモノトス但補選員等ニテ四  
 ヶ年ノ任期滿タサルモノト雖モ該期ニ悉ク之ヲ改選ス  
 四年間ハ假令議員アルトモ議員四分ノ一以上ノ議員アルコト非サル  
 ヨリハ補選ナラサス  
 補選會ハ補選スヘキヨリ二ヶ月内ニ補選スヘキモノトス尤全會員  
 ノ改選期六ヶ月以内ニアルトキハ議員ノ闕員半數ニ及ハサレハ補選  
 セス

選舉區ヲ分ケタル區ニテ該區ヨリ選舉セル議員ノ半數ニ及フ議員  
 ルトキハ補選ナラス  
 補選會ハ當初ノ選舉表ニ依リ之ヲ行フ

邑會ヲ解散スルノ場合ハ大統領ノ布告ヲ以テシ停止ノ場合ニハ縣令  
 ノ布達ヲ以テス停止ハ危急ノ場合ノミニシテ一ヶ月以上ニ涉ルコト  
 得ス解散ノ場合ニハ特別委員ヲ命シ邑會ノ職務ヲ行ハシム此委員ノ  
 數ハ邑ノ人口三萬五千以下ノモノハ三名、三萬五千口以上ノ邑ニ在テ  
 ハ七名迄ヲ限リトス之ヲ命スルハ内國ニテハ布告ヲ以テシ殖民地ニ  
 在テハ知事ノ布達ヲ以テス之ヲ任命スルハ解散後八日以内ニ於テス  
 ヘキモノトス

委員會ノ會頭及副會頭ヲ命スルハ(副會頭ハ必用アル)布告或ハ布達ヲ  
 以テス  
 委員會ハ邑會ノ職務ヲ行フト雖モ邑會ノ全權限ニ涉ルヲ得ス其權限  
 ハ行政ノ保維又ハ急ヲ要スル單一ノ行政ニ屬スル事件ニ對シ邑會ノ

職務ヲ行フヲ得  
 何レノ場合ナリトモハス邑ノ經濟ニ關シ年度内ノ支拂ニ係ル事ノ外新ニ  
 經費ヲ起シ新ニ事業ヲ企ツルヲ得ス  
 邑ノ豫算邑長或ハ収稅官ノ經費精算書ヲ請フルノ權ナキモノトス  
 教育ノ教員及教員ノ制度ヲ變更スルヲ得ス  
 邑會總職員ノ辭職又ハ事故ノ爲メ邑會ノ組織ヲナシ得サル場合ニハ  
 特別委員ニ邑會ノ權限ヲ全部與フルヲ得  
 邑會員タルノ資格ハ左ノ各項ニ當ルモノヲ要ス  
 第一 滿廿五歳以上ノモノ  
 第二 民事及政事權ヲ有スルモノ  
 第三 千八百八十四年四月五日法律第三十一條ヨリ第三十四條  
 至ル各條ニ掲グル兩縣併務スルヲ得サルモノ及不合  
 格ニ當ラサルモノ  
 第四 邑ノ選舉人タルモノ或ハ四種ノ直稅ノ内一種ノ納稅義務

ニ配入セラレモ尤邑中ニ本籍ナキモノ、選舉セラ  
 ルハ全議員ノ四分ノ一ヲ超過スルヲ得ス若四分ノ一ヲ  
 超ルハ選舉期日ノ早キモノヲ以テ同日ノ内ハ投票ノ  
 多數ヨリ順次ニ定ム同數ナルモノハ年長ノモノヲ以テ定  
 邑會議員ニシテ撰舉セラレタル後不合格又ハ兩職併務ニ當ルモノハ  
 縣令ハ直ニニ辭職者トナスヲ得本人不服ノ時ハ縣令ヨリ通シタル  
 後十日以内ニ參事會ニ其不服ノ次第ヲ提出スルヲ得  
 人口五百人以上ノ邑ニ在テハ千八百八十四年四月五日ノ法律第三十  
 八條ニ依リ其家内中尊族卑族及ヒ義兄弟タルモノ、内一戸内二人以  
 上ノ邑會議員タルヲ得ス若法律上ノ親族二人以上同日ニ選舉セラ  
 レタルトキハ多數ノモノヲ以テ當選トナス選舉ノ日ニ差アリテ投票  
 同數ナルトキハ選舉ノ日ノ前ナルヲ以テ當選者トス同日同投票ノ日  
 年長ノモノヲ當選者トナス邑會ノ選舉法ハ概ネ縣令及區會ノ選舉



法不同、但異ナルモノハ左ノ如シ

第一 邑會ノ選舉ハ被選舉者ノ名ヲ連署スルコト

第二 邑會ノ選舉ハ四人ノ選舉役ヲ選フニ選舉人中ノ最モ年長ノモノニ名最若年ノモノニ二人ヲ選フコト

第三 邑會員ノ資格ニ關スル苦情ハ直ニ縣ノ參事會ヘ提出シ猶不服ノハ參事院ニ控訴スルコト

第四 參事會ニテ前項ノ決議ヲ一ヶ月内ニナサハルヒハ受理セサルモノト認メ直ニ參事院ヘ控訴スルコトヲ得ルコト

第五 何レノ選舉ハ四分ノ一ノ多數ニ當ラサルトキハ第二會ヲ次ノ日曜日ニ選舉會ヲ開クコト

邑會ノ會議ハ通常會及臨時會トス通常會ニ在テハ邑會ニ屬スル權限内ニ就キ之ヲ議シ臨時會ニハ特ニ議接ヲ以テ召集セヨレタル件ノニ就キ之ヲ議ス通常會ハ年ニ四回(二月五月八月初旬)開會ス其開場期限ハ十五日以内トス尤區長ノ許可ヲ得テハ延期スルコトヲ得

通常會ハ第一邑會ヲ命スルノ權ヲ有スル縣令或ハ區長ノ命令ニ依リ之ヲ開會ス第二邑長ノ徵集ニ依リ開會ス邑長ハ邑會ヲ必用ト認ルモハ何時ニテモ之ヲ徵集スルコトヲ得

現任ノ邑會議員ノ半數ヨリ徵集ヲ請求スルトキハ邑長ハ之ヲ徵集スルノ義務アルモノトス

通常會臨時會トモ開會三日前ニ議員ヘ報知スヘキモノトス尤急ヲ要スルノ場合ニハ縣令又ハ區長ニ在テハ其時日ヲ短縮スルコトヲ得議會ノ徵集ハ會議錄ヘ記入シ及邑長ノ門前ニ揭示セサルヘカラス

徵集ノ通知書ハ議員ノ本籍ヘ相達シ臨時會ノ場合ハ開會ノ目的ヲ指示サハルヘカラス

邑會ノ議事ハ現任ノ議員多數ノ參集スルニ非サレハ議事ハ無効ノモノトス尤邑會ノ徵集ヲ通知シ三日ヲ隔テ再度徵集シ猶多數出席ヲ得サルトキハ多數ヲナスト雖モ有効ノモノトナスコトヲ得

邑會議員ニシテ正當ノ理由ナク三回續キテ徵集ニ應ゼサルモノハ縣

令之ヲ辭職者ト認ムルヲ得但本人ハ參事會ハ其理由ヲ提出スル  
 一ヲ許ス而シテ當然ノ理由アル時ハ此限ニアラス  
 開會ノ初メニ現在議員中ヨリ書記一名ヲ投票選舉ス議事多數ニ依リ  
 之ヲ決ス同數ナルトキハ議長之ヲ決ス  
 議事ハ區長ヨリ公認ノ事件ノ順ニ依リ之ヲ議シ其議事ハ議事録ヘ筆  
 記ス  
 議事筆記ハ議員各々查印スヘキモノトス若異存アルモノハ其事故  
 ヲ書顯シ置クモノトス其議事筆記ノ寫ハ八日間ニ區長ヘ送呈ス區長  
 ハ之ヲ受領セシメテ帳簿ニ記入シ受領證書ヲ發スヘキモノトス左ニ  
 掲ク事件ハ法律ニ依リ當然無効ノモノト做ス  
 第一 邑會ノ權限外ニ涉リタル事件ヲ議シタルモノ及正當ノ會  
 議ニ於テ  
 (即チ法律ニ)外ニテ議決シタルモノ  
 第二 政府ノ法律及規則ヲ犯シタル事柄ヲ含有セシ議事ニ係ル

以上ノ二項ニ當ルモノハ何時ニテモ氣付タルモノヨリ無効ト申  
 立ルヲ得縣令ハ之ヲ無効ト認ムル時ハ其旨ヲ參事會ニ於テ發  
 言ス

議事筆記ヲ區長ニ呈出シタル後三十日以内ニ縣令ハ參事會ニ於テ無  
 効ト申立ルヲ得

本民ハ區長ノ門前帳出シニ就キ十五日以内ニ其不當ナルヲ申立ル  
 一ヲ得但申立書ハ區廳ニ呈出シ區廳ヨリハ受領書ヲ渡スヘキモノト  
 ス此場合縣令ハ一ヶ月以内ニ申立ノ可否ヲ決セサルヘカラス十五日  
 ヲ經過シテ申立ナキ時ハ縣令ハ議事ヲ正當ト認ムルヲ得

邑會ハ甲乙ノ邑會ヲ聯合シテ請求等ヲナスヲ得又若之ヲ犯ストキ  
 ハ縣令ハ邑會ヲ停止ス  
 千八百八十四年四年五日法律ニ依リ邑會ハ公會トシテ傍聽ヲ許セリ  
 但議員中三名ノ連署ヲ以テ秘密會ヲシテ要求スル時ハ此限ニア  
 ラス

投票ニ左ノ三種ノ法アリ

第一 起立又ハ舉手トス此場合同數ナルモハ議長之ヲ決スルノ  
 權アリ

第二 匿名投票此場合同數ノモハ議長之ヲ決スルヲ得ス是レ  
 議長ニ於テ投票セシヤ否ヤヲ圖ルヘカラサレハナリ

第三 公クノ投票(各員ノ投票ノ趣キヲ議事筆記ニ記入ス)トス  
 公クノ投票ハ出席議員ノ四分ノ一匿名投票ハ同上三分ノ一ノ同  
 意ヲ以テ之ヲ定ム

議場役員ヲ命スルコトハ當然匿名投票トス投票多數ハ一回二回迄ハ過  
 半多數ニ依リ第三回ニハ比例多數ニ依ルモノトス但同數ナルトキハ  
 年長ノモト當選者ナルモノトス

邑會ノ議スヘキ事件ハ左ノ四種トス

第一 例規ノ會議即チ上官ノ決ヲ請ケヌシテ決議ヲ一ヶ月ノ後  
 ヲリ施行シ得ルモノ尤決議ヲ無効ト認メ廢止スルノ場合

ニハ邑會ヨリ區廳ニ決議ノ報告ヲナシタル日ヨリ一ヶ月  
 以內ニ縣令ヨリ無効ト達スルヲ得但縣令ヨリ特別ノ布  
 達ヲ以テ一ヶ月後ノ執行ヲ短縮スルヲ得

備考 千八百八十四年ノ法律ニテ許可ヲ得ヘキト定メタルモノ、  
 外ハ悉ク本項ノ範圍内トセリ

第二 上官ノ許可ヲ請ケテ施行スヘキ事件但其許可スヘキ權ハ  
 縣令ニ屬ス尤内務卿或ハ大統領ヘ許可ヲ得ヘキモノハ千

八百六十一年四月十三日布告第六十七項「表」表千八百五十  
 二年三月廿五日布告第五十五項「表」表ニ掲クルモノニ限ル

備考 邑或ハ縣ノ事ニ關シ縣令ノ施政ノ事件ヲ主務卿ノ自ヲ認メ  
 テ無効トシ或ハ人民ノ訴ニ依リ無効トナスノ權アリ此權ア  
 ル所以ハ原則ニ基キタルノ權ナリ又千八百五十二年三月廿

五日ノ布告ノ精神ニ依ルモ亦卿ニ此權ヲ有スルモノトス  
 本項ノ決議ハ許可ヲ得テ後施行ノ効力ヲ有スルモノナリ然

此決議ハ必用ノモノニシテ他ヨリ邑ニ代リテ決議ナ  
 ナスヘカテサレノ性質ナリトシ假令上官ハ上權ヲ有スルモ  
 邑ノ爲メニ自ラ邑持ノ地面ヲ購ハントスルニ能ハザルナリ  
 上官ノ權ハ決議ヲ許否スルニ止マルモトス  
 千八百八十四年四月五日法律第六十八條ニ依テ左ノ項目ニ  
 關スル決議ハ上官ノ許可ヲ得サレハ施行スルヲ得ヌ  
 其一 邑ノ不動産ノ貸渡ニ就キ貸渡期限十八年以上ニ渉ル  
 其二 邑ノ所有物ヲ賣渡シ或ハ交換スル  
 其三 邑ノ不動産ヲ購入及新ニ建築又ハ全部或ハ一部ヲ改築  
 若クハ大ナル修繕目論見書並ニ價値ノ  
 但其經費ノ總額特別ノ許可ヲ得ヌシテ施行シ得ヘキ  
 通常費、臨時費賦課ノ額以內ナルトキハ此限ニアラス  
 其四 邑ニ關スル訴訟ノ和解ニ係ル約束ノ事  
 其五 邑ノ不動産ニシテ一ノ公共用ニ供シタルモノノ使用轉

換ノ事

- 其六 邑内人ノ資格ヨリシテ他ノ所有地ニ放牧シ得ヘキ牧場  
ニ關スル事
- 其七 町ノ等級ヲ定メ或ハ等級變更又ハ町ノ改修及町名改稱  
市場、競馬場、射所場ノ新設及廢止邑道ノ境界、水平地圖ノ  
製定、家並境ノ圖面變換、道路通行稅、大道附屬地ニ溜場ヲ  
設ケ或ハ之ヲ貸渡スノ稅又ハ現行法律第三百三十三條ニ  
依リ種々ノ稅ニ關スル事
- 其八 邑ニ寄附ノ物件ニ就キ之ヲ以テナスヘキ約束アル寄附  
物又ハ親屬ニテ苦情アル寄附物ヲ請シル事
- 其九 邑ノ經費豫算ノ事
- 其十 邑ノ經費増補費ノ事
- 其十一 臨時課稅及邑債ノ事但現行法律第四百一十一條ニ揭シル  
場合ハ之ヲ除ク

共十二 現行律第三百三十七條及第三百三十八條ニ掲クル邑税ニ

關スル事

共十三 定市場ヲ設ケ或ハ廢更ニ關スル事

第三 邑會ノ意見ヲ呈スル事但縣令ハ何時ニテモ邑ノ意見ヲ諮

問スルヲ得然レモ邑會モ亦縣會區會ニ於ルカ如ク縣令ハ

必ス其見意ヲ諮問セサレハ專斷ニ涉ルノ場合アリ此場合

ト雖モ意見ヲ諮問スルニ止マリ必シモ其意見ニ依リ事ヲ

行ハサルヲ得サルニ非ス(其申兩ハ教區ノ劃方  
等ニ關スル場合トス)

第四 千八百三十七年七月十八日法律第廿四條ニ依リ邑會ハ其

地方ノ利益ニ關スルコトニ就テハ意見ヲ具申スルヲ得但

政略上ニ關スル意見ヲ呈スルコトヲ得ス

各邑會ノ間ニ激文ヲ廻シ政略上ノ事ニ關シ申合セテナス

コトヲ得ス

邑會ノ職務ヲ約言スレハ上官ノ許可ヲ要セサルモノハ總テ投票ヲ以

テ決議施行スルコトヲ得其許可ヲ得ヘキモノハ之ヲ決議スルニ止リ及  
意見ヲ具申シ企望ヲ開陳スルニアリ

邑會組織及職制千八百八十四年四月五日法律

○第一篇 邑

第一條 各邑ノ邑政部ハ邑長及壹名若クハ數名ノ書記ヲ以テ組織ス  
第二條 邑名變更ノ場合ハ邑會ノ請求ニヨリ縣會ニ諮問シ參事院ノ  
議ヲ經タル大統領ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム  
第三條 邑ノ首府ヲ轉シ或ハ數個ノ邑ヲ合邑シ或ハ邑内ノ區分ヲ割  
キ之ヲ他ノ邑ニ組替ヘ又ハ獨立ノ邑ヲ立ルノ場合ニハ縣令ハ關係  
ノ邑ニ其計畫及手續キノ審査ヲナサシム  
縣令ハ關係アル各邑中ノ邑會或ハ邑及邑内ノ關係アル區分ノ選舉  
人三分ノ一ノ人員ヨリ意見書ヲ呈出シタル場合ハ之ヲ調査ヲ命ス  
ルヲ要ス又自ラノ發意ニテ調査ノ事ヲ命スルヲ得調査ノ後邑  
會區會ノ呈出シタル意見書ヲ以テ縣會ノ議按ニ提出スヘキモノト  
ス

第四條 議按ニシテ邑ノ變更ニ關係スルルハ縣令ノ布達ヲ以テ其關係區分或ハ首府ノ爲メニ調査委員ヲ定ム若關係ノ區分ニシテ邑會議員ノ多數ヲ占メタルルハ縣令ノ布達ヲ以テ調査委員ノ數ヲモ定ムヘキモトス

調査委員ハ其區分ニ本籍アル撰舉人ヨリ選舉ス

委員會ハ委員長ヲ命シ委員會ハ議按ニ就キ意見ヲ呈出ス

第五條 新ニ邑ヲ立ルハ縣會ノ意見ヲ諮ヒ參事院ノ議ヲ經ルニ非レハ之ヲ設立スルコト不得ス

第六條 邑ノ區域變更其他二個或ハ數個ノ邑ノ廢合又ハ新ニ首府ヲ定ムルコトハ左ノ手續キコ依ルヘキモノトス

變更按ニシテ縣區邑ノ區域ヲ變更スルノ場合ニハ縣會及ヒ參事院ノ議ヲ經テ法律ヲ以テ之ヲ定ム其他ノ場合ニ於テハ縣會ノ決議ニ依リ參事院ノ議ヲ經テ布告ヲ以テ之ヲ定ム

邑或ハ邑ノ區分同縣内ノ變更ニシテ變更按及手續トモ邑會及關係

ノ調査委員同意ノ場合ハ縣會ノ可トスルトキハ縣會之ヲ決行スルコト不得

第七條 一邑ニ合シタル他ノ邑ハ該邑固有ノ財產權ハ依然之ヲ保持シ其所得ハ舊來ノ邑ニテ其使用權ヲ有ス

邑ノ一區分ヲ割キ他ノ邑ニ合シタルトキモ特ニ該區分ニ屬スル財產ニアツテハ上文ニ同シ

他ノ邑ニ合シタル邑又ハ邑内ノ區分ノ地内ニ有之公共ノ用ニ供スル建物又ハ不動産ハ合併邑ノ公共用ニ屬ス

其他ハ邑ノ合併又ハ分離ニ關スル現物證據書類ニ依リ之カ所有權ヲ定ム

若復舊チナスノ場合ニハ當初ノ財產ハ悉ク當然固有者ノ權ニ復ス

第八條 首府ノ變更又ハ邑ノ名ヲ變更スルトキハ關係ノ款ニ依リテ之ヲ定ム

第九條 邑ノ分合ノ場合ニハ邑會ハ當然解散シテ直チニ選舉ノコトヲ

○第二篇 邑會

第一章 邑會ノ組織

第十條 邑會ハ五百人及其以下ノ邑ニ在テハ拾名ノ議員ヲ以テ組織ス五百一人ヨリ千五百人迄拾貳名、千五百一人ヨリ貳千五百人迄拾六名、貳千五百一人ヨリ三千五百人迄廿一名、三千五百一人ヨリ壹萬人迄廿三名、壹萬一人ヨリ三萬人迄廿七名、三萬一人ヨリ四萬人迄三十名、四萬一人ヨリ五萬人迄三拾貳名、五萬一人ヨリ六萬人迄三拾四名、六萬一人以上三拾六名トス

數個ノ邑役所アル都府ニテハ邑長管轄毎ニ定數以上三名宛チ増ス  
 第十一條 邑會議員ノ選舉ハ全邑ノ役票ヲ以テス尤邑ハ更ニ選舉區ニ別ツテ得各選舉區ハ登録選舉人ノ數ニ應シタル議員ヲ選フモノトス尤左ノ二項ノ場合ニ限ル

第一 居住ノ人民隔離散居ノ場合トス、此場合ニ於テハ何レノ選舉區ヲ問ハス議員二名以下ヲ選舉ナスヲ得ス

第二 邑ノ集合人口壹萬以上ナル場合トス、此場合ニ於テ選舉區ハ他ノ邑ニ屬スル邑、區、ニ屬スル部分ヲ以テ組織スルヲ得ス  
 土地ノ區分ニシテ固有ノ不動産チ有スルモノハ數多ノ選舉區ニ分離スルヲ得ス

以上ノ選舉區ハ孰レモ議員四名以下ヲ撰フヲ得ス  
 選舉區ヲ許シタル總テノ場合ニ於テ斷隔ノ地ヲ以テ區分スルチ得ス接續ノ地ヲ以テ區分組織スルモノトス

第十二條 選舉區分ハ縣會議員ノ内一人若クハ縣會若クハ邑會若クハ關係ノ邑ノ選舉人ノ發議ニ依リ縣會ニテ之ヲ定ム  
 選舉區分ニ關スル決議ハ總テ四月開場前迄クモ四月ノ開場中ニ意見ヲ提出セルモノニ限ル  
 四月八月ノ開會ノ間ニ選舉區々分ノ事ヲ邑役所ヘ公告スヘキモノ



トス  
 縣會ハ之カ意見ヲ邑會ニ諮フ  
 毎年此法式ヲ施行シ八月ノ會議ニ於テ下附ノ議按ニ就キ之ヲ議定  
 ス  
 以上ノ選舉區ノ手續ニ依ルノ區分ハ新ニ區分ヲ定メタル時以前ニ  
 ハ舊ノ儘存立ノモノトス  
 選舉區々分ノ表ハ毎年縣會ハ八月ノ會議ニ於テ之ヲ作ル此表ハ其  
 一年間ノ選舉區ニ就テハ總テ此表ヲ用フルモノトス  
 此表ハ選舉人募集前縣令ヨリ之ヲ公告ス縣令ハ各選舉區内ノ登録  
 選舉人ノ數ニ隨ヒ法律ニ依リ議員ノ數ヲ定ム  
 縣會ノ採用シタル選舉區分ハ圖ヲ作りテ之ヲ分チ其圖ハ關係ノ邑  
 役所及縣廳ニ保存ス  
 總テ選舉人ハ此圖ノ閱覽及寫シテ取ルコトヲ得  
 此圖ノ保存ヲ成シタルコトハ關係ノ邑民ハ邑役所ノ門前ニ提出シテ

トス  
 公告スヘキモノトス  
 現法律施行ノ殖民地ニ於テハ選舉區分ニ關スル願書或ハ提出議按  
 ハ少シモ縣會通常會三ヶ月以前ニテスヘキモノトス  
 以上ニ示ス法式ニ依リ内務事務官長之ヲ調査スヘキモノトス  
 願書議按邑會ノ議事及取締願書ハ通常縣會開場ノ際ニ之ヲ提出ス  
 第十三條 縣令ハ少シモ十日以前特別ノ布告ヲ發布シテ選舉便宜ノ  
 爲メ邑ヲ別ツテ數多ノ投票事務所ヲ立ルコトヲ得尤邑内同一ノ人ヲ  
 投票スルハ勿論ナリ  
 各選舉人ニ選舉票ヲ渡ス票ニハ選舉スヘキ投票事務所ヲモ記入ス  
 ヘシ  
 第十四條 邑會議員ハ直接普通選舉ニ依リ選舉スヘキモノトス  
 總テ佛蘭西人ニシテ滿廿歲以上法律ニ依リ不合格タルモノニ當ラ  
 サルモノハ選舉人タルモノトス  
 選舉人名簿ハ左ノモノヲ含有ス

第一 總テ撰舉人ニシテ邑内ニ本籍ヲ有スルモノ或ハ邑ニ少クモ六ヶ月以上居住スルモノ

第二 邑内ニ於テ四種ノ直接名簿ニ記入ノモノ或ハ夫役名簿ニ記入ノモノ若又邑内ニ居住セサルモ邑内ニテ撰舉權ヲ施行シタキ旨ヲ申立タルモノ

第二項ニ依リ夫役ヲ帶ヒタル撰舉人ノ家族(其家族自ラ夫役ニ當ラサルモ)邑ノ居住人ニシテ其年疾病ノ爲メ夫役ヲ受ケサルモノモ皆撰舉名簿ニ載ス

第三 千八百七十三年五月十日ノ條約第二條ニ依リ佛蘭西國民タルヲ望ミ千八百七十一年六月十九日法律ニ依リ邑内ニ居住ヲ望ミ申立タルモノ

第四 政府ノ認可シタル僧若クハ官吏ノ資格ヲ以テ邑内ニ居住スヘキ義務ヲ負フタルモノ

國民ニシテ選舉名簿調整ノ時ニ廢ツテ年齡居住ノ資格ヲ備ヘストモ本調整ノ締切以前ニ其資格ヲ得ルモノハ均シク選舉名簿ニ載ス

軍務ノ爲メ邑ニ不在ナルモノハ選舉名簿登錄ノリ以上ニ示ス制限ニ依ラスシテ名簿ニ載スヘキモノトス

意見ヲ公告シ或ハ意見書廻文等ヲ配達シ撰舉ニ關スル公ケノ集會證據帳簿ノ通牒懲罰及訴訟等ニ關スル法律ノ事項ハ邑ノ撰舉會ニ於テモ之ヲ適用スルモノトス

千八百七十五年十一月三十日下院議員撰舉ニ關スル法律第三條第三項條四項ハ邑ノ選舉會ニモ之ヲ適用スルモノトス

第十五條 撰舉人ノ集會ハ縣令ノ布達ヲ以テ之ヲ徵集ス徵集布達ハ少クモ撰舉日十五日前ニ之ヲ布達スヘキモノトス

撰舉日ハ日曜日ヲ以テスヘキモノトス

布達ハ投票スヘキ場所及投票開閉ノ時間ヲ指定スルモノトス

第十六條 撰舉區ヨリ邑會議員ヲ現法律第十一條ニ依リ補闕ノルハ其補闕ハ其議員ノ屬スヘキ區ヨリ撰舉スヘキモノトス

第十七條 投票事務ハ表ノ順序ニ依リ邑長書記邑會員ニテ統理ス

以上ノ人ニテ妨ケアルトキハ邑長ヨリ指名ノ撰舉人之ヲ統理ス

第十八條 投票會ニ於テハ會頭ニテ取締ヲナスモノトス  
此集會ハ集會ニ任シタル撰舉ヨリ他ノ事ニ涉ルヲ得ス  
總テ爭論若クハ議論ヲナスヲハ集會ニ於テ之ヲ禁ス

第十九條 會場臨席ノ撰舉人中ニテ讀書キヲ爲シ得ル最モ老年ノモ  
ノ二人最モ若年ノモノ二人ヲ撰ンテ陪席人ノ職務ヲナスヘキモノ  
トス  
書記ハ會頭及陪席人ヨリ之ヲ指命ス  
撰舉役員ノ會議ニ於テ書記ハ意見ヲ述ルノ權ニ止マル投票役員ハ  
少シモ三人ハ出席ヲ要ス

第二十條 撰舉ハ一日ニ限ル

第二十一條 投票役員ハ撰舉會ノ手續ヨリ起ル差違レヲ假ニ裁判ス  
ルヲ得共決議ニハ理由ヲ述フヘキモノトス  
總テ苦情決議ハ口供ニ登記スヘキモノトス

以上ノ申立決議諸書類ハ役員之ニ査印ノ後口供ニ附帶シ置クヘキ  
モノトス

第二十二條 選舉會中ハ選舉人名簿ノ寫ハ邑長之ヲ査定シテ名簿登  
記ノ各自ノ姓名住所身分ヲ書顯ハシ役員ノ詰所ノ卓上ニ備置クヘ  
キモノトス

第二十三條 何人タリトモ此名簿ニ記入ナキモノハ投票スルヲ許  
サス尤記名ナキモノト雖モ記入スヘキ治安裁判官ノ決議ヲ有スル  
カ或ハ記入名簿ヲ除カレタルモノニシテ大審院ノ破毀書ヲ有スル  
モノハ此限ニアラス

第二十四條 選舉人ノ何タルヲ問ハス武器ヲ携ヘ會場ニ入ルヲ得  
ス

第二十五條 選舉人ハ會場外ニ於テ投票ヲ作りテ持參スヘキモノト  
ス  
投票紙ハ白紙ニシテ外封ハ無印シノモノナラサルヘカラス

撰舉人ハ會頭ニ封テナシタル投票ヲ相渡ス會頭ハ之ヲ撰舉ニ入レ此篋ハ二重鍵ニテ閉テ一ハ會頭之ヲ預リ一ハ陪席人中最年長ノモノ之ヲ預ル

各撰舉人ノ投票ハ撰舉人記名帳簿ノ傍ヲニ査印ヲナシ以テ之ヲ儘カム

第二十六條 會頭ハ選舉ノ始メニ投票スヘキ時間ヲ確定セシム投票時間ハ少クモ六時間ヲ置キテ後ニ非サレハ閉ツルヲ得ス

會頭ハ撰舉ヲ開ルノ時間ヲ確守セシム閉時ヲ告ケタル後ハ何レノ投票モ之ヲ請クルヲ得ス

第二十七條 投票閉鎖ノ後左ノ手續ニ依リ開封ヲナス  
投票箱ヲ開キ投票ノ數ヲ調査ス若其數撰舉人數ニ過不足アルトキハ其事故ヲ口供ニ記ス

投票役員ハ出席撰舉人中ヨリ投票調人若干名ヲ指名ス  
會頭及役員ハ開封ノ手續ヲ監督ス

會頭及役員ハ各選舉人三百名以下ナルトキハ自ラ開封ノヲ得ス

第二十八條 投票ハ假令撰舉スヘキ議員ノ名ヲ餘計ニ示シ或ハ不足シテ示シタルモノト雖モ効力ヲ失ハサルモノトス  
撰舉スヘキ議員ノ數ヨリ餘計ニ書載セタルモ末コアル過人數ノ分ヲ算入セス

白紙投票或ハ難讀ノ投票若クハ指名ノ不充分ナルモノ又ハ投票人署名ノ投票ハ總テ投票ノ數ニ算入セス但此投票ハ口供ニ記入ス

第二十九條 開封後直チニ會頭ハ投票ノ結果ヲ公告ス  
撰舉ニ係ル口供ハ書記之ヲ編製ス口供ニハ書記及其他ノ役員之ニ

査印ス口供寫シハ均シク全上ノ査印ヲナシ區長ノ手ヲ經テ縣令ヘ送附ス

縣令ハ帳簿ニ受領ノ事ヲ記入ノ上受領證書ヲ相渡ス  
口供ノ拔萃ハ直チニ邑長之ヲ張出ス  
口供ニ附帶スヘキモノ、外ノ投票ハ撰舉人ノ面前ニテ投火ス

第三十條 何人ト雖モ左ノ項ニ併有セザルモノハ第一回ノ投票ヲ以テ  
撰定ス

第一 投票過半多數

第二 記名撰舉人ノ四分ノ一ニ均シキ選舉ノ數

第二回ノ撰舉ニ於テハ撰舉人ノ多少ニ拘ハラス比例多數ヲ以テ之  
ヲ定ム

數額ノ候補者ニシテ同數ノ投票ナルトハ年長ノモノヲ當選人トナ  
ス

第二ノ選舉ノ場合ニ在テハ當然次ノ日曜日ニ撰舉スヘキモノトス  
邑長ハ撰舉會ニ就キ必用ナル公告ヲナス

第三十一條 邑ノ撰舉人及直稅名簿ニ記入ノ國民或ハ滿廿五歲ニシ  
テ撰舉年ノ一月一日ニ直稅名簿ニ記入スヘキヲ証明スルモノハ  
本條ノ末項及次ノ第二條ニ示ス制限ノ外ハ邑會ノ議員ニ選ハル  
コトヲ得ルモノトス然レニ撰舉ノ時ニ邑ニ居住セザル議員ノ數ハ

邑會議員ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス若其數ヲ超過スルコトキハ  
第四十九條ニ依リテ定メタル規則ニ遵フテ撰定ス  
陸海軍人及軍屬ニシテ現役ノモノハ撰舉セラルコトヲ得ス

第三十二條 左ノ項ニ當ルモノハ邑會議員タルコトヲ得ス

第一 撰舉權ヲ失フタルモノ

第二 後見者アルモノ

第三 邑稅ヲ免シタルモノ及慈善事務所ヨリ款助ヲ請ケ居ルモノ

第四 特ニ人ニ附屬シタル被傭人

第三十三條 職務ヲ奉シ居ル區域内ニ於テ撰舉セラルコトヲ得サル  
モノ左ノ如シ

第一 縣令、區長、縣大書記官、縣參事官及現法律施行ノ殖民地ニ於

テハ知事、內務事務官、長、顧問官

第二 警察官、巡査

第三 控訴裁判所及始審裁判所判事但裁判ノ委任ヲ請ケサル判事

補ハ此限ニアラス

第四 本務治安裁判官

第五 邑財産ノ會計官及邑事業請負人

第六 教官

第七 縣廳區廳ノ役員

第八 市街道路及邑道ノ土木擔任ノ土木工師及技手并道路掛

第九 法律ノ認可シタル宗教ヲ奉スル僧

第十 邑ヨリ俸給ヲ仰キ居ル役員但官吏或ハ獨立ノ業務ヲ奉シ其業務ヲ施行スル爲メ邑ノ手當ヲ受ケ居ルモノハ此限ニアラス

第三十四條 邑會議員ノ職務ハ左ノ職務ヲ併有スルヲ得ス

第一 縣令、區長、縣大書記官、

第二 警察官、巡查、

第三 殖民地知事、内務事務官長、顧問官、

現條ニ示ス所ノ官吏ハシテ邑會議員ニ選ハル、トハ撰舉結果公告

ノ日ヨリ選舉ヲ請フ或ハ現職ヲ奉スルノ區別ヲ選フ爲メ十日ノ猶豫ヲ得ルモノトス

此猶豫内ニ長官ニ對シ申立ヲナサ、ル場合ニハ現職ヲ奉スルヲ撰ヒタルモノト見做ス

第三十五條 何人ト雖モ數個ノ邑會議員タルヲ得ス撰舉結果公告後十日間ノ猶豫ヲ得テ數個ノ邑ノ撰舉ニ當リタル邑會員ハ就任スヘキ邑ヲ選フヲ得就任ノ地ノ申立ハ關係ノ縣令ニナスヘキモノトス若此猶豫内ニ就任ノ地ノ申出ナキトハ選舉人ノ最モ僅少ナル邑ノ議員タルモノトス

人口五百一人以上ノ邑ニ於テハ尊族卑族兄弟及義兄弟ハ同時ニ同邑ノ議員タルヲ得ス第四十九條ハ前項ニ示ス場合ニモ適用スヘキモノトス

第三十六條 總テ邑會員ニシテ選舉ノ後ニ生シタル原因ノ爲メ現法律ニ示ス處ノ議員タルヲ除キ或ハ職ヲ併有スルヲ能ハサルモノ

一、當ルモノハ直チニ縣令ヨリ辭職者タルノ申立ヲナス尤公告  
 後十日以内ニ縣ノ參事會ヘ申立テ及以下第三十八條第三十九條第  
 四十條ニ依リ參事院ニ控訴ノ場合ハ此限ニアラス  
 第三十七條 總テ選舉人及被選舉人ハ邑ノ撰舉ニ就キ無効ト申立ツ  
 ルノ權チ有ス總テ苦情ハ口供ニ記載シ置クヘキモノトス然ラズ  
 ハ撰舉日後五日間ニ邑役所書記部或ハ區廳或ハ縣廳ヘ書面ヲ呈出  
 スヘキモノトス但五日以内ヲ經過スルハ其申立ハ無効ノモノト  
 ス苦情書ハ直チニ縣令ヘ出ス縣令ノ注意ニ依リテ之ヲ參事會ノ記  
 録ニ記入ス若縣令ニテ法律ニ依リ定メタル法式ニ協ハサルモノト  
 認ムルハ縣令ハ均シク口供落手ノ日ヨリ十五日間ニ選舉ノ始末  
 チ參事會ニ提出スルヲ得ルモノトス人民ノ苦情若クハ縣令ニテ  
 法式ニ協ハサルト認メタルトニ拘ハラズ縣令ハ直チニ行政手續ニ  
 依リ苦情ノ事柄ヲ苦情ノ起リタル邑ノ議員ニ報知ス仍縣令ハ議員  
 ニ邑ノ役所區廳及縣廳ノ書記部ニ對シ五日間ノ辨護證據ヲ與フル

一、并ニ議員ハ其辨護ヲ口頭ニテナシ得ルモノトシ併セテ通知スル  
 若情書若クハ辨護書ノ提出ニ對シテハ受取書ヲ與フヘキモノトス  
 第三十八條 參事會ヘ參事院ヘ控訴セルモノハ外ハ之ヲ議定ス  
 參事會ヘ記錄ニ記入後一ヶ月内ニ決議ヲ宣告ス縣令ハ宣告以後八  
 日內ニ之ヲ公告ス  
 邑會ノ全體ヲ改選ノ場合ニ當テハ二ヶ月間ノ猶豫ヲ與フ證據ヲ要  
 スヘキ決議ノ場合ニハ參事會ハ一ヶ月以内ニ確然ノ決議ヲナスヘ  
 キモノトス  
 以上ニ示ス處ノ猶豫ハ第三十九條ノ場合ニ當テハ苦情ノ件ニ付裁  
 判確定ノ日ヨリ起算スヘキモノトス  
 參事會ハ以上ニ定ムル處ノ猶豫間ニ議定セサル場合ハ苦情ハ受理  
 セサルモノト做ス此場合參事會ハ關係ナキモノト認メ其事ヲ關係  
 ノモノヘ報知ス關係ノモノハ苦情ヲ參事院ヘ訴フルヲ得

參事院へ控訴ノ次第ハ控訴本人ヨリ五月以内ニ縣廳ノ書記部ニ通知スヘシ

第三十九條 現法律ニ從テ申立タル苦情ヲ以テ身分ノ事柄ニ關シ裁判ヲ請フノ場合ニ於テハ總テ參事會ハ關係ノモノヲ掛リノ裁判官ヘ訴フルトシテ爲サシム關係ノモノハ訴ヘテ十五日以内ニ證明スヘキモノトス此證明ヲササ、ルキハ之ヲ不問ニ措ク

參事會ノ決議ハ十五日間ノ猶豫ヲ超ヘテ後一ヶ月内ニナスヘキモノトス

第四十條 參事會ノ決議ニ對シ參事院ヘノ控訴ハ縣令若クハ其關係ノモノニテ之ヲナスコト得ルモノトス縣令ニ在テハ決議ノ日ヨリ一ヶ月以内其關係者ニ在テハ決議通知ヲ得タル日ヨリ一ヶ月以内ニ控訴ノ事ヲ區廳或ハ縣廳ノ書記部ヘ届出ヘキモノトス然ラザルモノハ無効ニ屬ス  
縣令ハ直ニ行政ノ手續キニ依リ關係ノモノニ控訴ノ事柄ヲ通牒

又關係ノモノハ其辨護ヲ區廳或ハ縣廳ノ書記部ヘ出ス爲メニハ十五日間ノ猶豫アルモノナルトテ併ヒテ通知ス此猶豫期限後ハ直ニ縣令ハ内務卿ニ控訴狀辨護撰舉始末ノ口供證明簿布達(苦情)寫其他布達ニ係關ノ書類ヲ呈出ス内務卿ハ此書類ヲ總テ參事院ヘ移送ス

縣令ハ此書類ニ理由意見書ヲ添附ス

代官人ヲ定メ及内務卿ヘ通報ノ猶豫期限ハ各一ヶ月内トス殖民地ニ關スルモノハ三ヶ月以内トス

控訴ハ至急ノ件ナレハ費用ヲ要セス印紙及代官人ヲモ用ヒサルコト得

議員ニ選舉セラレタルモノハ若情ニ就キ確乎タル議定ヲ得ル迄ハ其現職ヲ奉スヘシ

選舉ノ全部或ハ幾部分無効ト定ムルトキハ二ヶ月以内ニ選舉會ヲ徵集スヘキモノトス



第四十二條 邑會議員ノ任期ハ四年トス

邑會ハ佛蘭西全國五月第一日曜日ニ全體ヲ改選スヘキモノトス四年間内ニ撰ハレタルモノト雖モ上文ニ同シ

第四十三條 邑會若シ不時ノ開員ニ依リ議員四分ノ三ニ減シタルハ其最終開員ノ日ヨリ二月以内ニ補充選舉ヲナスヘキモノトス然レモ全體ノ改選期限六月以内ナルトキハ補充選舉ハ邑會議員半數ニ減シタル場合ニハ必ス補充スヘキ義務アルモノトス選舉區ヲ別ナタル邑ニ在テハ選舉區ノ議員半數ヲ減シタルハ必ス部分選舉ヲナスヘキモノトス

第四十三條 邑會ハ大統領ノ理由ヲ述ヘタル布告ニシテ内閣會議ヲ經テ官報ニ奉ケタルモノニシテ以テ解散スルヲ得現法律施行ノ殖民地ニ在テハ知事ノ布達ニシテ開會ヲ經テ殖民地ノ官報ニ登記スルモノニ非サレバ解散スルヲ得ス此等ノ布達ハ至急ヲ要スル場合ニ於テハ縣令ハ理由ヲ述ヘタル布達ヲ以テ臨時

邑會ヲ停止スルヲ得但縣令ハ直ニ之ヲ内務卿ニ具申スヘキモノトス尤停止期限ハ一月ヲ超ルルヲ得ス

邑ニ示ス處ノ殖民地ニ在テ邑會ハ知事ノ理由ヲ述ヘタル布達ヲ以テ停止スルヲ得其期限ハ一月ヲ超ルルヲ得ス此場合知事ハ直ニ海軍殖民地ニ具申ス

第四十四條 邑會解散或ハ現任總議員辭職ノ場合邑會ノ何レ共組織スルヲ得キルトキハ特別委員其職ヲ行フ解散或ハ辭職ヲ受理ノ日ヨリ八日間特別委員ハ大統領ノ布告ヲ以テ任命ス殖民地ニ在テハ知事ノ布達ヲ以テ特別委員ノ數ハ三萬五千ノ人口ヲ超ヘサル邑ニ在テハ三人ト定ム三萬五千以上ノ都府ニ在テハ七人迄ハ増ス下ヲ得ルモノトス委員ノ組織ヲ命ズル布告或ハ布達ハ委員長ヲモ命ジ必用アルハ副長ヲモ命ス

特別委員ノ權限ハ保守且至急ヲ要スル行政事務ニ止マル何レノ場合ヲ問ハス現行年度經費ノ範圍ヲ出テ邑ノ經濟ヲナスヲ得ス

此委員ハ邑ノ經費ヲ調整シ邑長ノ精算或ハ收稅官ノ勘定書ヲ請ケ  
 職員或ハ教育制度ノ變更ヲナスコトヲ得ス  
 第四十五條 邑會解散若シハ前條施行ニ依特別委員ヲ命シタル郡度  
 解散或ハ辭職ノ日ヨリ二月以内ニ邑會議員ノ改選ヲナスヘキモ  
 特別委員ノ職務ハ邑會ヲ組織シタルハ當然其職ヲ解クヘキモノト  
 第二章 邑會ノ職務  
 第四十六條 邑會ハ年四度通常會ヲ以テ開場ス但二月五月八月每會期日  
 十日間トス區長ノ許可ヲ以テ期日ヲ延期ヲナスコトヲ得  
 經費ヲ議スヘキ會議ハ六週間ニ渉ルコトヲ得通常開會中邑會ハ職權  
 内ニ於テ總テノ事項ヲ議スルコトヲ得  
 第四十七條 縣令或ハ區會ハ臨時邑會ノ徵集ヲ命スルコトヲ得邑會

亦邑會ノ徵集ヲ以テ必用トスル所ハ之ヲ徵集スルコトヲ得  
 邑會議員ノ多數ヨリ邑會ニ理由ヲ送ヘテ其請求書ヲ出スルハ邑長  
 ハ之ヲ徵集スヘキモノトス  
 邑會ニ必用ト認メ又ハ議員ノ請求ニ依ルモ何レノ場合ニテモ邑長  
 及區長ニ報知ス徵集スル所ハ此集會ト集會ヲ要スル理由ヲ併セテ縣會  
 及區長ニ報知ス徵集書ニハ邑會ノ集會ヲ要スヘキ特別ノ事項及定  
 ヲリタル事項ヲ明示ス此會場ニテ邑會ハ其指示シタル議決ノ事項  
 ノミヲ議スルニ止マル  
 第四十八條 總テ徵集ハ邑長之ヲナス徵集ハ議事録簿ニ登記シ邑役  
 所ノ門前ヘ張出シナシ及集會期前少クモ三日前一書面ヲ以テ議員  
 ノ居所ニ通知ス至急ノ場合ニ於テハ縣令或ハ邑長ニテ其期限ヲ短  
 縮スルコトヲ得  
 第四十九條 邑會議員ハ表ノ順序ニ依リ列席ス表ノ順序ヲ定ムルコ  
 左ノ如シ但選舉區アルトモ之ニ同シ

第一 在命期限ノ最モ古キ者ノ...

第二 同日ニ選舉セラルル議員ニ在テハ投票多數ノモノヨリス

第三 投票同數ノモノハ年長ノモノヲ以テス

表ノ如クハ邑役所區廳及縣廳ニ止メ置クモノトス各廳ニ就キテ人  
民ハ通知或ハ寫シヲ得ルヲ得

第五十條 邑會ハ現任議員ノ多數出席ノモノニ非サレハ議決セザルヲ得  
ス少クモ三日ノ間隔ヲ置キ正確ニ二度ノ徵集書ヲ送りタル後猶邑  
會充分ノ議員ヲ徵集シ得ザルハ第三回ノ徵集書ヲ以テ議決セザルモ  
ハ出席員ノ多少ヲ問ハス効力アルモノトス

第五十一條 決議ハ投票人過半數ノ多數ヲ以テ之ヲ定ム

秘密投票ノ場合ヲ除ク外ハ投票同數ナルハ會頭之ヲ定ム

公選ノ投票ハ出席議員四分ノ一ノ請求ニ依リ之ヲナスモノトス投  
票人ノ姓名ハ投票ノ指名ト俱ニ口供ニ記入ス

秘密投票ハ出席議員三分ノ一請求ノ都度之ヲ行フ或ハ役員ヲ命ジ

若シハ總代ヲ撰フトキハ秘密投票ヲ用フ斯ノ任命或ハ總代ヲ選フ  
ノ場合ハ第二回ノ後何レノ候補者モ多數ヲ得ザルハ第三回投票  
ヲナシ此撰舉ハ比例多數ヲ以テ撰舉シ投票ナルモノハ年長ノモノ共  
撰ニ當ル

第五十二條 邑長ハ邑會ノ會頭トナリ又ハ代理者ヲシテ會頭トナス  
ヲ得邑長ノ精算書ヲ議スルノ會議ニ在テハ邑會ハ別ニ會頭ヲ撰  
フ此場合ニ於テハ假令當時職ニ非サルモ會場ニ出席スルヲ得然レ  
トモ投票ノ件ニ當テハ其席ヲ辞スヘシ會頭ハ直ニ議決ヲ區長ニ報  
知ス

第五十三條 各會期ノ初ニ當リテ開場中邑會ハ書記ノ職務ヲナサシ  
ムハキ爲メ壹名又ハ數名之ヲ任ス

邑會ハ書記補助ヲ會場ニ出席スヘキ議員ノ外ニ撰ヒテ之ヲ置ク  
ヲ得但此書記補助ハ議事ニ與ルヲ得ス

第五十四條 邑會ノ會議ハ公會トシテ傍聽ヲ許ス然レトモ議員三名

若クハ邑長ノ請求ニ依リ邑會ハ議事ヲ起立シ以テ秘密會トナス  
ヤ否ヲ決ス

第五十五條 邑長ハ議場ノ取締ヲナスヘキモノトス  
邑長ハ會場ノ秩序ヲ紊スヘキモノチ會場ヨリ退カシメ若クハ拘引  
スルヲ得

重罪若クハ輕罪ニ涉ル場合ニハ邑長ハ口供ヲ造リ檢事ニ告訴ス  
第五十六條 會議ノ報告書ハ八日間内ニ邑役所ノ門前ニ其拔萃ヲ張  
出ス

第五十七條 議事ハ日附ノ順序ニ依リ縣令若クハ邑長マテ公認シテ  
帳簿ニ記入ス議事録ニハ會議出席ノ總テノ議員之ニ査印ス若ク  
ニ査印スルヲ能ハルノ場合ハ其原因ヲ証明ス

第五十八條 總テノ住人或ハ納稅者ハ居テカラ邑會ノ口供及經費邑  
ノ決算書邑ノ布達ノ通知ヲ得ルヲ若クハ以上ノ書類全部若クハ一  
部ヲ寫シ得ルノ權ヲ有ス各自其責任ヲ帶ヒ之ヲ公ケニスルヲ得

第五十九條 邑會ハ各會期中行政官若クハ邑會議員ノ一名ノ發議ニ  
因リ邑會ニ提出ノ事項ヲ研究ノ爲メニ研究委員ヲ作ルヲ得委員ハ  
會期中ニ會議ヲ開クヲ得委員會ハ其委員ヲ命ジタル日ヨリ八日  
内若クハ此委員會ヲ組織スル委員ノ多數ノ請求ニ依リ期限ヲ短縮  
シテ邑長之ヲ徵集スヘシ此場合邑長ハ當然會長タルヘシ  
委員會ノ第一回ニ於テ邑長不在或ハ故障アルキハ邑會ハ副會頭ヲ  
指名シ副會頭ハ之ヲ徵集シ及ヒ會頭タルヲ得

第六十條 邑會員ニシテ邑會ニ於テ正當ト認ムヘキ理由ナクシテ三  
回ノ徵集ニ應ゼサル議員ハ總テ其理由ヲ述ルヲ許シタル後縣令  
ハ辭職者ト申立ルヲ得布達ノ日ヨリ十日内ニ參事會ニ控訴スル  
モノハ此限ニアラス  
辭表ハ區長ニ呈出スヘキモノトス  
辭職ハ縣令ノ手ヘ辭表受領ノ日ヨリ確定ノモノトス  
受取書ヲキルハ改メテ書留郵便ヲ以テ辭表ヲ呈シタル後一ヶ月經

レハ辭職確定ノモノトス

第三章 邑會職制

第六十一條 邑會ハ決議ニ依リ邑ノ事務ヲ定ム

邑會ハ法律或ハ規則ニ依リ邑會ノ意見ヲ要スル都度若シハ高等行政部ヨリ意見ヲ諮問スルハ其都度意見ヲ呈出スヘキモノトス  
邑會ハ租税分配法ニ於テ邑ノ負担スヘキ税ニ對シ苦情アルノ場合ニハ之ヲ申立ツヘシ  
邑會ハ其地方ノ利益ニ關スル總テノ事務ニ就キテハ總テノ意見ヲ呈出ス

邑會ハ毎年租税分配ニ充ツヘキ人員ノ二倍ノ人名ヲ記載セシ帳簿ヲ作り此名簿ニ依リ縣令ハ革命曆七年三月三日法律第九條ニ依リ五人ノ配當者及五名ノ分配補助者ヲ命ズ

第六十二條 總テ議事筆記ハ八日以内ニ邑長ヨリ區長ニ送致ス區長

ハ其受入テ帳簿ニ記證シ直チニ受領書ヲ渡ス

第六十三條 左ノモノハ當然無効ノモノトス

第一 邑會ノ議事ニシテ其職制限外ニ涉リタルモノ或ハ正當ノ集會所ノ外ニ於テ議決シタルモノ

第二 政府ノ法律或ハ規則ヲ犯シタル議決

第六十四條 議事ノ目的ニシテ利害ノ關係アル議員已レノ名或ハ議員ノ資格ヲ以テ議シタル議事ハ無効ト做スヘキモノトス

第六十五條 當然無効トスヘキモノハ縣令之ヲ參事會ニ於テ申立ツ無効トスヘキモノハ何時モ縣令或ハ關係ノモノヨリ申立若シハ關係ノ者ヨリ反對スルヲ得

第六十六條 無効ト做スニハ縣令ハ區廳或ハ縣廳ニ議事ノ口供ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ無効タルヲ職權ニ依リテ參事會へ提出ス又關係ノ總テノ人及邑ノ納稅者ヨリ無効ト請求スルヲ得此場合無効ノ請求ハ邑ノ役所ノ門前へ張出テナシタル日ヨリ十五日

内ニ區廳又ハ縣廳ハ申立ツヘキモノトス此日限ヲ經過スルノ後ハ無効ノ申立ヲナスコトヲ得ス  
 此請求書ニハ受領書ヲ附ス  
 縣令ハ一月内ニ之ヲ議定ス十五日間ノ猶豫後何等ノ請求ヲキテハ縣令ノ決議ニ同意シ異論ナキモノト申立ルコトヲ得  
 第六十七條 邑會及邑會外ノ人ト雖モ關係アルモノハ縣令ノ布達ニ對シ參事院ニ訴アルコトヲ得  
 此控訴ハ權限ヲ超ヘタルノ控訴トシテ之ヲ調査シ以テ判定スルモノトス  
 第六十八條 左ニ記載ノ事ニ關スル議事ハ上官ノ認可ヲ得タル後ニ限リ施行スヘキモノトス  
 第一 貸借ノ約束ニシテ期限十八ヶ年以上ニ涉ルモノトス  
 第二 邑ノ所有地ヲ賣拂ヒ又ハ交換スル事  
 第三 不動産ノ購入新築全体ノ改築或ハ一部ノ改築大修繕維持ノ

目録見書計算書但其年度ノ同性質ノモノヲ通算シテ其高ハ特別ノ許可ヲクシテ取立得ヘキ稅則ヲ超ルル  
 第四 取引ニ關スル事  
 第五 邑ノ所有物ニシテ已ニ公共ノ用ニ供シタルモノヲ他ヘ轉用スル事  
 第六 慣習アル放牧場  
 第七 町、廣小路ノ階級ヲ立テ或ハ階級ノ組替ヘ又ハ町並ヲ變シ町ノ存廢町名ヲ命シ散步所、四集ノ溜リ場、公園、市場、射的場、及競馬場ノ存廢邑道ノ遺並及勾配ノ目録見書確定ノ道並圖ノ變更馬車溜所稅及建築町並檢査稅大道ノ附屬地溜所ヲ貸スノ稅其他現行法律第三百三十八條ニ依リ邑ノ利益ノ爲メ收入スヘキ諸種ノ稅  
 第八 遺物或ハ寄附物ニ約束ヲ有スルモノヲ受人ノ所或ハ親屬ノモノヨリ苦情ヲ申立得ヘキ遺物或ハ寄附物ニ受入レノ所  
 第九 邑ノ經費

第十 補充經費

第十一 臨時ノ賦稅及邑債

但現行律第四十一條ニ依リ定メタル場合ハ此限ニテラス

第十二 現法律第三百三十七條第三百三十八條ニ示シタル場合ニ於ル入邑稅

第十三 定市場ノ存廢

縣令ノ認可ヲ要セサル決議ハ縣廳若シハ區廳ニ議事筆記ヲ送致ノ後一ヶ月ヲ經タル後ニアラサレハ施行スルヲ得ス縣令ハ布達ヲ以テ之ヲ短縮スルヲ得

第六十九條 前條ニ示ス事項ニ關スル邑會ノ議事ハ縣令ノ認可ヲ得テ施行スルモノトス但關係ノ卿縣令常置員布告或ハ布達ニ據リ認可ヲ要セサル事ヲ法律又ハ規則ニ依リテ定メラレタル場合ハ此限ニアラス

縣令ハ前條ノ第一項第二項第六項ニ示ス場合ニ於テハ參事會ニ於

之ヲ定ム

縣令ニテ認可ヲ拒ミ若シハ受領書ノ日附ヨリ一ヶ月以内ニ其決議ヲ通知セサルハ邑會ハ內務卿ニ訴ルヲ得

第七十條 邑會ハ左ノ目ニ就テハ毎ニ意見ヲ呈スヘキ諮問ヲ請クヘキ資格ヲ有ス

第一 救區ノ區域

第二 救助金配當ニ關スル區域

第三 都府、村、小村、ノ内部ノ通路道並及勾配ノ目論見書

第四 慈善事務所ノ設立

第五 孤兒、養老依ルヘキモノナキモノ、養育院、病院及其他慈善ノ爲メニ設ケタル場所政府ヨリ俸給ヲ仰キ居ル僧ニ屬スル宗教ノ

事務所及事務ニ係ル經費及計算書

以上ノ建物ヨリ賣買貸借又ハ訴訟若シハ和解ニ就キ願出タル事ニ關シテ許可ノ事

以上建物ニ屬スル遺物或ハ寄附物ヲ受入ノ事

第六 法律及規則ニ依リ邑會ノ意見ヲ呈スルキ總テノ事項及縣令  
ヨリ諮問ノ事項

此規則ニ依リ諮問又ハ招集セラレタル邑會ニシテ意見ヲ呈出ス  
ルコトヲ拒キ或ハ怠ルトキハ縣令ハ之ヲ諮問ヲササス

第七十一條 邑會ハ現法律第五百一十一條ニ依リ邑長ヨリ毎年邑會ニ  
提出スル計簿書ニ就キ之ヲ議ス

邑會ハ現法律第五百十七條ニ依リ収稅官ノ收稅書ヲ調査シ之ヲ議  
決ス但確定ノ規則アルノ場合ハ此限ニアラス

第七十二條 總テ邑會ニ於テハ意見ヲ公衆ニ示シ建議按テ公示シ政  
事上ノ意見ヲ提出シ法律ヲ以テ定メタル場合ノ外ニ一箇若クハ數  
箇ノ邑會ト交通ヲカスコトヲ禁ス  
本條ヲ犯スル者罰款或ハ議事ヲ無効タルコトハ現法律第六十三條及第  
六十五條ニ依リ之ヲ宣告ス

◎第三篇 邑長及書記

第七十三條 各邑ニ於テ邑會員ノ内ヨリ邑長一名書記一名若クハ數  
名ヲ撰舉ス

書記ノ數ハ二千五百ノ人口及以下ノ邑ニ在テハ一名二千五百一人  
以上一萬人迄二名其以上多數ノ人口アリタル邑ニ在テハ每二萬五千人

ニ書記一名ヲ増ス但書記ノ數ハ拾貳名ヲ超スルコトヲ得ス

里昂府ニテハ此限ニアラス里昂府ノ書記ノ數ハ十七名ニ達ス里昂  
府ニ四區トナス邑長ハ特ニ每區ニ書記二名ヲ派遣シ幾分ノ權限ヲ

委任スルコトヲ得此書記ハ戶籍ノ謄本及千八百八十一年四月廿一日  
法律千八百八十一年六月十二日施行手續ニ依リ定メタル其他ノ

權限ヲ帶フルモノトス  
第七十四條 邑長書記邑會員ノ職務ハ無給トス  
特別委任ノ權施行ヨリ生スル費用ハ之ヲ償還ス



邑會ハ邑ノ通常ノ稅源ニ依リ接待費トシテ邑長ニ手當ノ給與ヲ授  
票スルヲ得

第七十五條 或ル故障或ハ遠隔ニ依リ邑ノ首府ト他ノ部分ニ不便ヲ  
生シ或ハ危險ナルル又ハ一時交通ヲナシ難キルハ邑會ノ請求ニ依  
リ參事院ヲ經テル布告ヲ以テ特別書記ヲ設置スルヲ得  
此書記ハ議員ノ中ヨリ撰任ス

邑ノ部分内ニ議員ナキカ若クハ故障アルルハ其部分内ニ居住ノモ  
ノヲ撰シ之ニ充テ此書記ハ戶籍役人ノ職ヲナシ及法律并取締規  
則ヲ担任スルヲ得其他ノ職務施行ノ權ヲ有セス

第七十六條 邑會ハ秘密會ニシテ過半数ノ多數ヲ以テ邑長及書記ヲ  
議員ノ中ヨリ撰舉ス

第三回投票ノ後仍何レノ候補者モ過半数ノ多數ヲ得サルルキハ第  
三回ノ投票ヲナシ比價多數ヲ以テ撰舉ス投票同數ナルルハ年長ノ  
モノヲ當選者トナス

第七十七條 邑長撰舉會ハ邑會議員ノ中最モ年長ナルモノ之カ會頭

邑長者ノハ書記ノ選舉ニ就テハ邑會議員ハ第四十八條ニ依リ定メ  
ル法式及期限内ニ招集スヘキモノトス招集書ニハ撰舉スヘキ事  
項ヲ特ニ證明スヘシ招集前ニ邑會員補充ニ必用ナル撰舉アルトキ  
ハ先ニ其撰舉ヲナス補充撰舉ノ後仍副員ヲ生シタルモ全議員ノ四  
分ノ三ニ減セサルルキハ邑長及書記ノ選舉ヲナス此場合ニ於テハ新  
ニ補充撰舉ヲナスニハ最終ノ副員ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ此撰舉ヲ  
ナスモノトス

第七十八條 邑吏員ノ任命ハ任命日附ヨリ廿四時間ニ邑長ノ門前ニ  
公クニ張出シテナシ同時期内ニ區長ニ報告ス

第七十九條 邑長及書記ノ選舉無効ノ申立ハ邑會撰舉ニ對シ苦情申  
立ノ爲メニ定メタル手續法式ニ依リ猶豫ヲナスヲ得五日間ノ猶  
豫ハ撰舉後廿四時間ヨリ起算スヘキモノトス

選舉無効トシ若シハ總テ他ノ原因ニ依リ邑長書記其職ヲ息メタ  
ルハ邑會議員ナレハ十五日以內ニ後任選舉ス爲メニ邑會ヲ召集ス  
ルニキモトス  
邑會員補充ヲ要スヘキ場合ニ在テハ關員後十五日ニ補充選舉ヲ  
ナシタル上十五日以內ニ新ニ邑長ヲ選舉スル事ヲ爲メニ  
補充選舉後ニ新ニ議員ノ關員ヲ生スルハ第七十七條ヲ適用スヘ  
キモノトス  
第八十條 左記ノモノハ邑長或ハ書記或ハ書記ヲ得ス仍臨時タラトモ其  
職ヲ奉ルルヲ得ス  
大藏省ノ官吏  
各縣ニ一名宛派遣シ收稅長  
各區ニ派遣シ收稅官  
邑ニ派遣シ收稅官  
山林官  
公共ノ建物及私立建物監守人  
附邑長ニ添補シ兼テ書記タルモノハ書記タルヲ得ス

第八十一條 邑長及書記ノ任期ハ邑會議員ノ任期ニ同シ  
邑長及書記ハ現法律第八十條第八十六條第八十七條ノ項目ヲ除ク  
ノ外後任者ノ候補ヲ得ル迄ハ其職務ヲ履行ス然レハ職員全體改選  
ノ場合ニ於テハ邑長及書記ノ職務ハ新ニ邑會ノ組織ヨリ邑長撰  
舉迄ハ邑會議員ノ表ノ順序ニ依リ邑會員之ヲ行フモノトス  
第八十二條 邑長ハ獨リ行政ノ任ヲ帶フルモノトス然レハ邑長ハ自  
ラ監督シ其責任ヲ負ヒ布達ス以テ一人若クハ數個ノ書記ニ委任ス  
ルモノヲ得且書記不在若クハ故障ナルハ邑會議員ニ委任スルヲ  
得此委員ハ解カサル以上ハ其委任ハ連續スルモノトス  
第八十三條 邑長ノ利益邑ノ利益ニ反對ノ場合ニ立ツルハ邑會ハ裁  
判若クハ邑ヲ代表スル爲メ議員ノ中一名ヲ指名ス  
第八十四條 邑長不在或ハ停職又ハ職ヲ免シ若クハ其他ノ故障アル  
ハ假シ邑長職權内ノ事務ヲ任命ノ順序ニ依リ筆頭ノ書記之ヲ代理  
ス

書記ニモ差支アルハ邑會ヨリ指令若クハ表ノ順序ニ依リ定メ  
 邑會員ヲシテ之ヲ代理セシム  
 第八十五條 邑長ハ法律ニ依リ命シタル事柄ノ一事ヲ拒ミ或ハ施行  
 ヲ怠ルノ場合ニ於テハ縣令ハ命ヲ下シテ施行ヲ促シタル後ニ仍施  
 行セザルハ自ラ施行シ又ハ特別ノ委任者ヲシテ之ヲ施行セシム  
 第八十六條 邑長及書記ハ縣令ノ布達ニ依リ一ヶ月以内其職ヲ停止  
 スルコトヲ得内務卿ハ停止時間ヲ三ヶ月ニ及ホスコトヲ得  
 邑長及書記ハ大統領ノ布告ヲ以テノミ免職セラル、モノトス  
 免職布告ノ日ヨリ一ヶ年間ハ免職ニ依リ當然邑長及書記ノ職ニ撰  
 舉セラル、コトヲ得ス尤其期限内ニ邑會ノ總改選ノ場合ハ此限ニテ  
 現法律施行ノ殖民地ニ於テ知事ノ布達ヲ以テ三ヶ月ノ職務停止ヲ  
 宣告スルコトヲ得此期限ハ主務卿之ヲ延期スルコトヲ得ス知事ハ直ニ

宣告ノ決議ヲ海軍兼殖民地卿ニ報告ス  
 第八十七條 第四十四條ニ依リ定メタル場合ニ於テ特別委員ノ會頭  
 ナキハ副會頭ニテ邑長ノ職ヲ行フ其權利ハ新ニ邑會ヲ組織スレ  
 ハ當然之ヲ廢クヘキモノトス  
 第八十八條 邑長ハ現行ノ法律布告命令書ニ依リ任命特別ノ權利ヲ  
 定メサル役員ハ總テ之ヲ命ス  
 邑長ハ自ラ任シタル邑ノ役員ノ職務ヲ停止又ハ免職ス邑長ノ任命  
 シタル役員ヲシテ誓盟又ハ保証セシムルコトヲ得然レハ其役員ハ縣  
 令亦區長ノ是認ヲ要スルモノトス  
 第八十九條 邑ノ經費ニ關シ入札ヲ爲スルハ邑長ハ豫メ指名シタル  
 邑會議員ノ中二名或ハ指名ナキハ表ノ順序ニ依リ定メタル二名  
 ノ議員ヲ之ニ陪席セシムヘキモノトス  
 邑ノ收稅官ハ總テノ入札ノ際出席ス  
 入札ノ諸手續ニ就キ生スル處ノ差違レハ現場ニ於テ邑長及陪席者

ノ會議ニ依リ多數ヲ以テ之ヲ決ス但權利ノ苦情ハ此限ニテヲス  
 入邑稅受負ニ關スル千八百九年五月十七日布告ノ條目ハ仍存立ス」  
 第九十條 邑長ハ邑會ノ檢査及政府ノ監督ヲ請ケ左ノ事項ヲ担任ス」  
 第一 邑ノ所有物ニ關シ權利保有ノ事  
 第二 邑ノ所得ヲ支配シ邑立ノ建物及邑ノ計算ヲ監督スル事  
 第三 邑ノ經費ヲ調整シテ議決ニ提出シ及支拂ノ事ヲ命スル事  
 第四 邑ノ工事ヲ處理スル事  
 第五 邑持ノ道路ニ關スル處分ノ事  
 第六 市場ノ認可及現法律第六十八條第六十九條及其他ノ法律規  
 則ニ依リ邑ノ事業ノ入札邑ノ財產貸渡書取替ノ事  
 第七 賣渡、交換、分割、遺物及寄附物受入レ、購入、和解ノ約束以上ノ事  
 柄ヲ現法律ニ依リ許シタル法式ニ遵ヒ施行ノ事  
 第八 訴訟ニ關シ原告トモ邑ヲ代表スル事  
 第九 森林中ニテ遊獵權ヲ有スルモノト協議シ千八百四十四年五

月三日法律第九條ニ依リ縣令ノ布達ニ定メタル有害ノ動物撲殺  
 ニ必用ナル處分ヲナス事  
 積雪中遊獵權ヲ有スルモノニ狼、猪ヲ該地外ニ出テサレ標ニ命シ  
 若シ所有權ナキモノハ該地内ニ遲延セ及撲殺ノ爲メニ狼猪ニ必  
 用ナル居住人ニ指揮スル事  
 以上ニ示シタル處分施行ノ監督及實施ヲナシ之カ口供ヲ作ル事  
 第十 一般ニ邑會ノ決議施行ノ事  
 第九十一條 邑長ハ政府ノ監督ヲ請ケテ邑ノ取締田野取締及田野取  
 締ニ關スル上官ノ法令施行ヲ担任ス  
 第九十二條 邑長ハ上官ノ命令ヲ請ケテ左ノ事項ヲ担任ス  
 第一 法律及規則公告并施行ノ事  
 第二 一般ノ安寧ニ係ル處分施行ノ事  
 第三 法律ヲ以テ特ニ委任サレタル特別職務ノ事  
 第九十三條 邑長或ハ邑長事故アルモノハ區長總テ死亡者ヲ宗教信仰